地域甲虫自然史　第２号
Regional Natural History of Coleoptera, No. 2

細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ

Elaterid-beetles (Elateridae, Coleoptera) collected by Mr. Koji Hosokawa from Japan

岸井　尚
Takashi Kishii

— 2006 —

地域甲虫自然史　第２号
Regional Natural History of Coleoptera, No. 2

細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ

Elaterid-beetles (Elateridae, Coleoptera)
collected by Mr. Koji Hosokawa from Japan

岸井　尚
Takashi Kishii

— 2006 —

日本甲虫学会
The Japan Coleopterological Society, Osaka

細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ

岸井　尚

Elaterid-beetles (Elateridae, Coleoptera)
collected by Mr. Koji Hosokawa from Japan

By Takashi Kishii

Abstract This is a list of elaterid beetles collected by Mr. Koji Hosokawa, Nagoya, during 21 years (1985-2005) with the author's taxonomical commentaries. Total 246 taxa (including 19 subspecies) of the family Elateridae, Coleoptera, were recognized. Among these, four species and four subspecies are thought to be new to science, and full descriptions as new taxa will be published in the near future. Most of the specimens were collected in four prefectures of the central Honshu: Shizuoka, Nagano, Gifu and Aichi, and the rest were gathered from various habitats from Hokkaido to Loochoo Islands. Specimens collected by a light trap and fallen in a flight-intercept trap were denoted as (LT) and (FIT), respectively.

2004年の夏，水野弘造さんを通して名古屋の細川浩司氏が本邦各地で採集された多量のコメツキムシ資料の同定を依頼され，更に年末の学会例会時初めてお会いした後に追加資料の送付もあり，全てを総合し以下のように纏めたもので，総計で227種と別に19亜種からなり，中に未記載と見られる4種，4亜種が含まれていた．お住まいの愛知県を中心に岐阜・長野などの中部山地で採集されたものが主で，更に南西諸島はじめ広範囲の道府県各地での資料も含まれていた．これらの地からはこれまでにも大平・鳥飼(1971: 89-94; 1973: 33-42)，有本(1988: 1-35)，大平(1990: 367-382)などを初めとして多くの記録・報告があるので，今回の資料も大部分は既知のものが多いが，それぞれの地域での未記録種と見られるものや記録価値の高い種も見受けられた．それぞれの種の配置は筆者の考えに基づいたもので，簡単な来歴と共に分類並びに分布などについての問題点などにも触れた．

以下の記録で採集者名のないものは全て細川氏の採集されたもので，データは全てラベル表示(地名は2004年以前の表示)に従った．なお，資料の一部は細川氏のご厚意で筆者が保管しており(未記載種の可能性の強い資料及び稀少種)，これらは何れ適当な公的機関(大阪市立自然史博物館の予定)に管理を依頼し，未記載と見られる資料は後ほど検討の上適宜発表する事とする．またLTとあるものはライト・トラップ(ラベル表記のもののみ)によるもので，鹿児島県

[著者住所： address of the author]
〒 569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410
(1-10 6-410, Kamihamuro, Takatsuki city, Osaka pref., Japan 569-1044)

大隅半島南端の佐多町と高山町からの資料にFITと記されたものは野田亮氏の設置によるフイット・トラップでの資料である.

終わりにこの貴重な資料記録発表の機会を与えられた細川浩司氏, 並びに水野弘造氏には著者の深い感謝の意を表したい.

PITYOBIINAE(オオコメツキ亜科) : **Pectocerini**(ヒゲコメツキ族)

Pectocera hige hige Kishii, 1993　ヒゲコメツキ

長野県三岳村常磐橋, 1 ♂, 21. VII. 1987; 長谷村戸台, 2 ♂♂, 1 ♀, 25. V. 2003.

愛知県豊田市山中, 1 ♂, 22. V. 1999.

滋賀県日野市綿向山, 1 ♂, 14. V. 1983.

京都府舞鶴市与保呂, 1 ♀, 25-26. VI. 1994.

北海道から九州までの本土全体と大部分の付属諸島に分布する. Candèze(1873: 6)がFortuneによる中国本土(Chusan)での資料に基づき *Pectocera Fortunei* と命名した種で, Lewisによる神戸産資料も記載時用いられたので, 以後本邦産個体群はこの名で報じられていた. しかし筆者は大陸産個体群と本邦産のそれとの間には多くの差異点が認められ, 特に交尾器側片先端部の形状に明瞭な違いがあることから本邦産のものを別種と見なした(Kishii, 1993: 2-3). また中国本土(Fujian, Hubei and Jiangxi Provs.)からの *fortunei* と同定できる資料と, 同じく朝鮮半島北部, 済州島などからの *fortunei* の資料も検したが(Kishii et S.-H. Jiang, 1994: 95-96), いずれも本邦産のものとの違いは明らかであった.

Pectocera hige yakuana Kishii, 1993　ヤクヒゲコメツキ (写真 1)

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1 ♂, 12. VII. 1995; 2 ♂♂, 8. VII. 2002.

南西諸島分布のヒゲコメツキ類は島嶼により分化が進んでいて, 現在5種1亜種個体群が知られる. 屋久島からは故白水隆先生によって, 東岸の安房で1950年7月に採集された一頭の雌個体を記録(Kishii, 1959: 4-5)したのが最初で, 屋久島の資料は本土産個体群と多くの点で異なることを述べた. その後の報告例は無いようであったが, 記載時検した雄個体は前胸背板はほぼ台形の短形幅広, 中央縦溝の左右にある円形凹陥部が大きく明瞭, 前胸背板・上翅共に点刻はより小さく疎, 雄交尾器側片の鉤状三角形部は明らかに短いので別亜種とした(Kishii, 1993: 4). 今回の3頭の雄資料はやや大型であるが上記特徴は同じである.

AGRYPNINAE(サビキコリ亜科) : **Agrypnini**(サビキコリ族)

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (Motschulsky, 1861) サビキコリ

北海道幌加内町母子里, 1 ♂, 24. VII. 1998; 斜里町斜里公園, 1 ♀, 20. VII. 1998.

長野県木曽福島町東山, 1 ♀, 5. VII. 1987; 長谷村戸台, 1 ♂, 3. V. 2003.

鹿児島県上屋久町大株歩道, 1 ♂, 11. VII. 1995; 同宮之浦, 3 ♂♂, 2 ♀♀, 12. VII. 1995; 同平瀬林道, 1 ♀, 6. VII. 2002(LT); 屋久町栗生, 1 ♂, 16. VII. 1993.

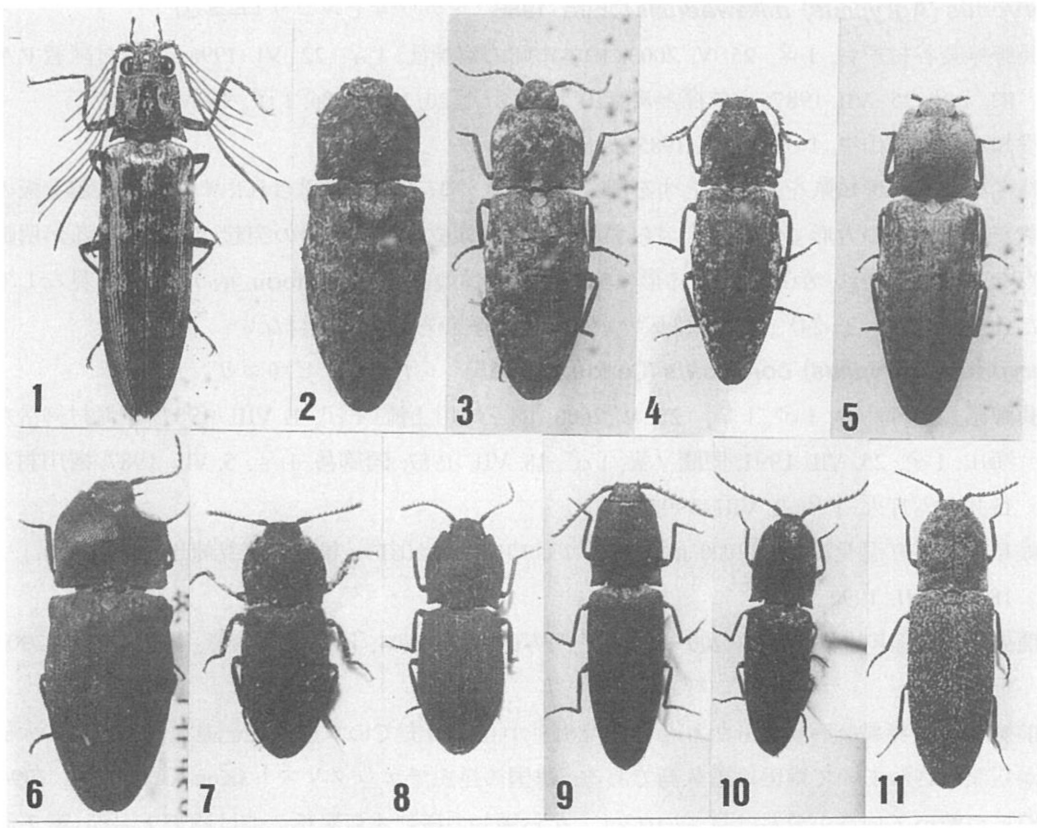

写真 1-11. **1**, ヤクヒゲコメツキ *Pectocera hige yakuana*（屋久島上屋久町白谷雲水峡, ♂, 22.5 mm）; **2**, ミカワサビキコリ *A. mikawaensis*（長野県木曽福島町東山土場, ♂, 14.6 mm）; **3**, サキシマシロモンサビキコリ *A. scutellaris hamai*（石垣島吉原, ♂, 17.0 mm）; **4**, ホソサビキコリ *A. fuliginosus*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♀, 15.0 mm）; **5**, ミゾムネホソサビキコリ *A. taciturnus ryukyuensis*（石垣島吉原, ♀, 18.5 mm）; **6**, ミゾムネヒメサビキコリ *A. yuppe*（奄美大島第二油井岳林道, ♂, 13.6 mm）; **7**, コガタヒメサビキコリ *A. hypnicola*（岐阜県本巣町温見峠, ♂, 8.5 mm）; **8**, ヤクヒメサビキコリ *A. miyamotoi yaku*（屋久島上屋久町宮之浦, ♂, 8.9 mm）; **9**, コガタノサビコメツキ *Lacon parallelus parallelus*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 11.5 mm）; **10**, アマミコガタノサビコメツキ *L. parallelus amamiensis*（奄美大島第二油井岳林道, ♂, 8.2 mm）; **11**, ヨツコブサビコメツキ *L. quadrinodatus*（岐阜県高根村日和田高原, ♀, 14.1 mm）.

本邦産のコメツキでは最も普遍的に分布し, Candèze(1860)による2種に次いで, 本邦で最も早い時期に記載された種の一つである. Hayek による世界的な再検討(1973: 1-309; 1979: 183-261)は, このグループの研究には大変貴重な参考資料となり, 本邦産本属は研究者によっては異なる見解もあるが, 筆者は *Agrypnus* s.str., *Sabikikorius, Sagojyo, Colaulon* の4亜属とするのが妥当と考える. 本種類似の別種は近辺地域から複数種が知られるが, 対馬と済州島·朝鮮半島·中国東北に棲息する本種の個体群は別亜種(*coreanus*)である.

Agrypnus (Agrypnus) mikawaensis Ohira, 1986　ミカワサビキコリ(写真 2)

長野県長谷村戸台, 1 ♀, 25. V. 2003; 松本市岡の宮神社, 1 ♀, 22. VI. 1996; 阿智村阿智 P.A. 内, 1 ♀, 25. VII. 1987; 木曽福島町東山土場, 1 ♂, 20. VII. 1986; 1 ♂, 26. VII. 1987.

愛知県豊田市山中, 1 ♂, 18. V. 1985.

種名のように愛知県を基産地とする種で前種によく似るので誤認されやすいが, 前胸背板の形状が細く長めの方形で側方に広がらず, 背板中央横位の瘤状一対の突起は小型であるが明瞭な点などで区別され, かってこの体形の個体群を前種の変異型(ab. form. *tenuicollis*)と見なしていた(Kishii, 1961: 23-24). 分布域は広いが九州と島嶼からの記録例はない.

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (Candèze, 1865)　ムナビロサビキコリ

長野県長谷村戸台, 1 ♂, 1 ♀, 25. V. 2003; 同三峰川上流, 1 ♂, 1. VIII. 1987; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 25. VII. 1991; 同鷹ノ湯, 1 ♂, 18. VII. 1987; 同御岳, 1 ♀, 5. VII. 1987; 楢川村奈良井ダム灯火, 1 ♀, 2. VIII. 1997.

岐阜県本巣町温見峠(950-1000 m), 1 ♂, 13. VIII. 2004(LT); 根尾村温見峠(950 m), 1 ♀, 18-19. VIII. 1990.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 1 ♂, 17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓, 1 ♂, 5. IX. 2004, 野田亮 leg.

前胸背板の特異な形状で分かり易い. 北海道から九州までの本土各地と主な付属諸島の大部分から記録されていて南限は屋久島である. 韓国の昆虫チエックリスト(Kon-Kuk Univ., 1994: 158)には載っているが資料は見ていない. なお周知の様に本亜属種の雌は腹部末端節(第 7 腹節板)に顕著な性標の長円形平滑な無鱗毛部をもつ.

Agrypnus (Agrypnus) scutellaris hamai Ohira, 1967　サキシマシロモンサビキコリ(写真 3)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♂, 4. V. 2001.

原名亜種は奄美大島原産で, トカラ諸島以南の南西諸島の大部分に分布し走光性が強い. 今回の先島諸島の個体群はやや大型で別亜種とされる. 八丈島からの報告例もあるが資料は検していない. 体形は *binodulus* に似るがより大きく前胸背板上の瘤状隆起は極めて不鮮明である. 台湾産の *formosanus* タイワンオオサビにも似るが体形はより細型で長く鱗毛は白銀色に近い. またこれらの近似種間の雄交尾器形状は互いに異なるが, 常に共通して幅が広い.

Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus (Candèze, 1865)　ホソサビキコリ(写真 4)

愛知県岡崎市矢作川河畔大門, 2 exs., 30. VI. 1996.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 2 exs., 17-18. VII. 2004.

本亜属は筒状に近い体形で前胸背板は単純に膨隆し後角部も単純で隆起線はない. また普通は雌腹部末端節(第 7 腹節板)には性標を欠くが, 不鮮明な鱗片を欠く長円形部をもつ種もある. 雄交尾器形状は常に幅が狭く細長く前亜属と明瞭に異なる. 本土全域と大部分の付属諸島から記録されていてトカラ諸島以南からは報告例はなかったが, 最近大阪市立自然史博物館の所蔵標本中にトカラ中之島産の資料を検した. 国外では済州島からの報告例(Lee et al., 1985: 351-455)があり, 韓国本土の記録例(Kon-Kuk Univ., 1994: 158)もあるが, 資料は何れも未見で分布

には疑問点はあるが移入個体の可能性も強い.

Agrypnus (Sabikikorius) taciturnus ryukyuensis Kishii, 1985 ミゾムネホソサビキコリ(写真 5)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♀, 2. V. 2001.

原名亜種はラオス原産で東南アジアに広く分布し, 別亜種として台湾(*koshunensis*)及び, 沖縄本島と先島諸島の石垣島・西表島・黒島からの本亜種が知られる. 前胸腹側板と後胸腹板に極めて明瞭な付節溝をもつので, 本亜属の基準種 *fuliginosus* とは著しい差異点があるが, 体形や雄交尾器形態はよく似ていて, 現時点では *Sabikikorius* 種と見ている.

Agrypnus (Sagojyo) yuppe (Kishii, 1964) ミゾムネヒメサビキコリ(写真 6)

鹿児島県屋久町半山, 1 ex., 9. VII. 2002; 奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 26-29. VI. 2003.

口永良部島からの 1 雌資料に基づき *Colaulon* 属の新亜属新種として記載され, その後黒島・屋久島・奄美大島・徳之島・沖縄本島・久米島・石垣島・西表島などからも知られ, 奄美大島と徳之島には多い. 一般的外観では次項の *Colaulon* 亜属(ヒメサビキコリ類)によく似て体は圧平され幅広の体形であるが, 前胸腹側板と後胸腹板に鮮明な付節溝をもち, 雄交尾器形態は次亜属に近い. 台湾に分布する *kawamurae* カワムラサビと似た種で, 本種のほうがやや大きめで幅も広く体色はより濃色である.

Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa (Candèze, 1873) ヒメサビキコリ

長野県三岳村常磐橋, 1 ♀, 21. VII. 1987; 長谷村戸台, 1 ex.(損傷大), 28. VII. 1985; 王滝村松越, 1 ex., 8. VI. 2003; 開田村開田高原末川, 1 ex., 28. VIII. 1988.

静岡県静岡市畑薙ダム(1100 m), 1 ♂, 22. VIII. 1992.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ex., 14. VII. 1997.

地表性で普通は水辺に多いが内陸でも見られる. 前亜属と共に体表の大型円形の疎点刻から 1 個づつの鱗片毛を生ずるので鱗毛列を形成し, *Agrypnus* s. str.や *Sabikikorius* などでは小型密な点刻に鱗片毛を生じ体表を密布状に被う. 現在本邦から 9 種知られ, 一部の島嶼性と海浜性の種では多くの亜種に分かれている. また下翅が退化して飛翔不能の種と, 本種や次種の様に正常な下翅でよく飛翔する種がある. 本種は本邦四大島に最も普遍的に分布し, 付属諸島では佐渡・平戸島から知られる. また北海道産個体群は本土産のものに比し, 触角・体表点刻・前胸腹板突起などでの差異点をもち, 雄交尾器側片の形状にも相違点があり別亜種(*katoi*)となる. 韓国からの報告例(Kon-Kuk Univ., 1994: 158)もあるがこれは次種の可能性が強い.

Agrypnus (Colaulon) hypnicola (Kishii, 1964) コガタヒメサビキコリ(写真 7)

岐阜県本巣町温見峠(950 m), 1 ex., 14. VIII. 1999.

愛知県名古屋市緑区相原郷, 1 ex., 20. VII. 1997.

京都南部の木津川河原で極めて多く(350 exs.)の資料を得たが, この様に多数個体が一度に得られた報告はその後なく通常 1 頭から数頭のみである. 分布地は比較的広く北陸・関東以西と四国・九州・対馬の各地から記録されている. 中部・東海地域では山梨・静岡・愛知(大平, 1990: 369, as *A. hyponicola*[!])・三重からの記録例がある. 朝鮮半島からも報告例があり(Lee et al.,

1987: 1-7, as *A. huponicola*[!]), 済州島には確実に生息し複数個体で筆者は確認している(Kishii et Paik, 2002: 4). 前種の小型個体と似て紛らわしいが, 上翅間室点刻が円形で大型である.

Agrypnus (Colaulon) miyamotoi yaku Kishii, 1996 ヤクヒメサビキコリ(写真 8)

鹿児島県上屋久町宮之浦, 1 ex., 14. VII. 1986.

本種は 1953 年の大阪市立自然科学博物館(現：大阪市立自然史博物館)のトカラ諸島調査行で, 宝島と中之島からの資料で新属新種(*Cryptolacon* 属)として記載された(Nakane et Kishii, 1955b: 1-3). 典型的な外洋に面した海浜性コメツキの一つで, 伊豆諸島・四国・九州・南西諸島の多くの地点で知られ, 雄生殖器構造の地域的な差異で 11 亜種に分割され, 本亜種ではその側片先端の側方突起は短く鈍端である. また本亜属での下翅退化型種として最初に発見されたもので, 続いて同様な形態, 生態及びそれぞれ幾つかの亜種個体群をもつ *tsukamotoi* ハマベオオヒメ, *tsushimensis* ツシマヒメなども発見された(大平, 1986: 3-13; Kishii, 1996: 2-10).

AGRYPNINAE(サビキコリ亜科)：**Adelocerini**(サビコメツキ族)

Adelocera (Brachylacon) difficilis (Lewis, 1894) シロオビチビサビキコリ

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 2 exs., 26-29. VI. 2003.

沖縄県石垣島屋良部岳, 2 exs., 3. V. 2001.

本州中央部の福井・岐阜・静岡以西から先島諸島までの分布が知られ, 主として照葉樹林の葉上に多く, 灯火飛来や冬季の落葉下や朽木中でも得られる. 台湾からも記録例があるがこれは別種の可能性がある. Lewis(1894: 29)が長崎から記載した本種については, Candèze(1873: 1)が Lewis の採集した邦産資料を, セイロン(現スリランカ)産資料に基づき *Lacon trifasciatus* と命名(Candèze, 1865: 10)した種と同じとしたのが最初であるが, Lewis はこの種の形態が邦産個体と異なるとし邦産種を *Lacon difficilis* と命名した. 九州大学の所蔵標本を三輪(1933a: 27, 29)が同定した際に, 天草と対馬からの資料をセイロン産資料に基づく Motschulsky(1858: 60)の *Lacon microcephalus* と同定し, 翌年 Candèze 種をこの種のシノニムとした(Miwa, 1934: 70). 以後長くこの扱いが続いたが, 大平(1977: 5)はそのチエックリストで本種名を Lewis 種に復活して用い現在に至っている. この仲間は本邦に 6 種分布するが, 本種以外は全て稀である.

Lacon (Lacon) parallelus parallelus (Lewis, 1894) コガタノサビコメツキ(写真 9)

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 1 ex., 17-18. VII. 2004.

札幌を基産地とする本種は広く本土全域と御蔵島・冠島・対馬・屋久島に分布し, 奄美大島と沖縄本島には次項の別亜種が知られる. 採集は燈火飛来によるものが殆どで少なく, 本州では東北地方からの記録例はなく新潟・栃木・千葉以西から知られ, 九州本土での記録は福岡・長崎のみである. 韓国からの記録(Kon-Kuk Univ., 1994: 158)もあるが資料未見である.

Lacon (Lacon) parallelus amamiensis Ohira, 1967 アマミコガタノサビコメツキ(写真 10)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ex., 26-29. VI. 2003.

前項の本土産原名亜種に比し極めて小型で, 沖縄本島にも分布し, 今回の資料は本島からは

記載後の再報と見られる.

Lacon (Lacon) quadrinodatus Lewis, 1894　ヨツコブサビコメツキ(写真 11)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 2 exs., 19. VI. 2004.

本邦固有種で北海道・青森・栃木・山梨・奈良・和歌山・大阪・徳島・熊本・トカラ中之島から知られる. 体表を被う金赤色の鱗毛と, 前胸背にある極めて明瞭な四個の瘤状突起で分かり易い種である. 少ない種で岐阜県からの記録は初めてのようである.

Lacon (Alaotypus) maeklinii (Candèze, 1865)　オオサビコメツキ(写真 12)

長野県大鹿村小渋湖畔, 1 ♀, 29. V. 1999; 木曽福島町東山土場, 1 ♀, 20. VII. 1986; 同新開, 1 ♂, 26. VI. 2004(LT).

静岡県静岡市畑薙ダム(1100 m), 1 ex., 22. VIII. 1992; 水窪町門桁山, 2 exs., 12. VIII. 2000; 1 ♀, 13. VIII. 2000; 同梅ヶ島, 1 ♀, 12. VIII. 2005.

岐阜県白川村大白川林道, 1 ♀, 11. VIII. 1996.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♀, 3. VIII. 1996; 1 ex., 27. VI. 1998; 稲武町面の木峠(1100 m), 1 ♀, 4. VII. 1999.

宮崎県霧島山皇子原, 1 ex., 27. VII. 1989, 森一規 leg.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 6 exs., 17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓, 1 ♀, 5. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 上屋久町白谷林道, 1 ♂, 2. VIII. 1983; 同宮之浦, 1 ♀, 12. VII. 1995; 同平瀬林道, 9 exs., 6. VII. 2002(LT); 屋久町小楊子林道, 2 exs., 5. VII. 2002(LT).

本土全域と奥尻・淡路・隠岐・五島・黒・屋久などの島嶼に分布する本邦固有種と見られるが, 韓国からの未確認報告(Kon-Kuk Univ., 1994: 158)もある. 幼虫時の食餌量によるものであろうが, 両性共に個体間での大きさの不均衡が目立つ種である. 以下の 2 種に極めてよく似るが両性共に生殖器構造に明瞭な違いがある.

Lacon (Alaotypus) maenamii (Ohira, 1989) マエナミサビコメツキ(写真 13)

東京都八丈島末吉, 1 ♀, 1 ex., 15. VII. 1984, 岡田裕之 leg.

伊豆諸島の八丈島が基産地で, 利島・新島・式根島・三宅島・御蔵島・青島からも記録されている. 筆者は本土に広く分布する前種の別亜種とみていたが, 雌貯精嚢内の角質櫛状片を検したところ, 前種のものとは著しく異なり, 記載時の処置が正しく独立種と認められる.

Lacon (Alaotypus) yayeyamanus (Miwa, 1934) ヤエヤマサビコメツキ(写真 14)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 2 exs., 26-29. VI. 2003.

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 30. IV. 2001; 4 exs., 3. V. 2001; 同大浜, 1 ♀, 10. V. 2003.

1930 年代の著名な昆虫図譜著者の平山修次郎氏による石垣島資料(1 ex., 27. V. 1933)に基づき記載された. 現在トカラ諸島から先島諸島までの南西諸島の多くの島嶼から知られ, 本土でも鹿児島県の記録があり, 鹿児島市城山産の資料 (2 exs., 30-31. VII. 1977, 八木正道 leg.)も検した. 更に鳥取県大山と広島県十方山林道からの近似の資料も見ている. 本州産のものについては更に精査を要するが, 鹿児島県本土分布は確実である. 近似の *maeklinii* とはより小型, 触角第 3 節が長く, 前胸背板後角部端は鈍角で外側方に突出しないなどで区別は容易である.

AGRYPNINAE(サビキコリ亜科)：**Chalcolepidiini**(ウバタマコメツキ族)

Cryptalaus larvatus larvatus (Candèze, 1874)　オオフタモンウバタマコメツキ(写真 15)

沖縄県石垣島吉原海岸林, 1 ♀, 28. IX. 1997; 同浮海於茂登岳, 1 ♀, 10. VI. 1998; 同オモト岳, 1 ♂, 15. IX. 1999; 1 ♂, 3. IX. 2000; 同吉原, 1 ♀, 15. VIII. 2000.

本種の基産地は中国南部(上海？)であるが，分布範囲は極めて広く本邦本土・南西諸島・小笠原・中国・台湾・蘭嶼・ベトナムなどから記録されている．本邦本土産の個体群は次項のように別亜種とされ，南西諸島の何処で分割されるかと言う点でやや論が分かれているが，少なくとも先島諸島の個体群は台湾のものと同じものである．

Cryptalaus larvatus pini (Lewis, 1894)　フタモンウバタマコメツキ

鹿児島県佐多町杉山谷打詰(FIT)(150-200 m), 1 ♂, 9. VII. 2004, 野田亮 leg.; 上屋久町宮之浦, 1 ♂, 14. VII. 1986; 2 ♀♀, 12. VII. 1995; 屋久町大川林道, 1 ♂, 18. VII. 1993; 同栗生, 1 ♀, 16. VII. 1993; 奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♀, 26-29. VI. 2003.

現在新潟・千葉両県以西が本亜種の分布限界域のようで，温暖化が進むと東北地方南部でも見られるようになる可能性がある．島嶼では伊豆諸島と冠島以南の付属諸島大部分で見られ，南限は沖縄本島・慶良間島・渡嘉敷島・久米島と見られる．前述のように原名亜種と本亜種との分布境界は地理的にはほぼ明らかだが，両亜種間の形態的な違いはやや不明瞭で，前胸背板の形状と上翅末端部の剔れ方などで区分できる(岸井, 2004b: 4-5)．

Cryptalaus berus (Candèze, 1865)　ウバタマコメツキ

愛知県豊田市山中, 2 ♀♀, 18. V. 1985; 1 ♀, 22. V. 1999.

東南アジアなど世界の熱帯域に多くの種が分化する本属と近縁属中で，本種は最も高緯度域まで分布する種の一つで，北海道を除く本邦のほぼ全域で普遍的に見られ，マツとの関連が強い．済州島・朝鮮半島・中国本土・台湾・ベトナム・ラオスにも分布する．一般に本属の種では雌腹板末端(第 7 腹節)の外縁近くに多くの長剛毛をもつが，雄では通常の微軟毛のみである．

AGRYPNINAE(サビキコリ亜科)：**Hemirhipini**(オオクシヒゲコメツキ族)

Tetrigus lewisi Candèze, 1873　オオクシヒゲコメツキ(写真 16, 17)

愛知県旭町旭高原元気村, 2 ♂♂, 2. VIII. 1997; 1 ♀, 27. VI. 1998.

徳島県鳴門市大麻山, 1 ♀, 5. VII. 2000; 1 ♂, 5. VIII. 2000.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 4 ♂♂, 17-18. VII. 2004; 同打詰(FIT)(150-200 m), 11 ♂♂, 1 ♀, 9. VII. 2004, 野田亮 leg.; 同稲尾岳南麓, 1 ♂, 1 ♀, 7. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 1 ♂, 5. IX. 2004, 野田亮 leg.

沖縄県石垣島オモト岳, 1 ♂, 15. IX. 1999.

本邦全域に分布し灯火や樹液飛来が多い．国外でも前種とほぼ同じ様な分布域をもつ．幼虫時の食餌量によると見られる大きさの不均衡が目立ち，16 mm 程の雄個体(奈良市内)から 34 mm の雌個体(京都市内)を検している．

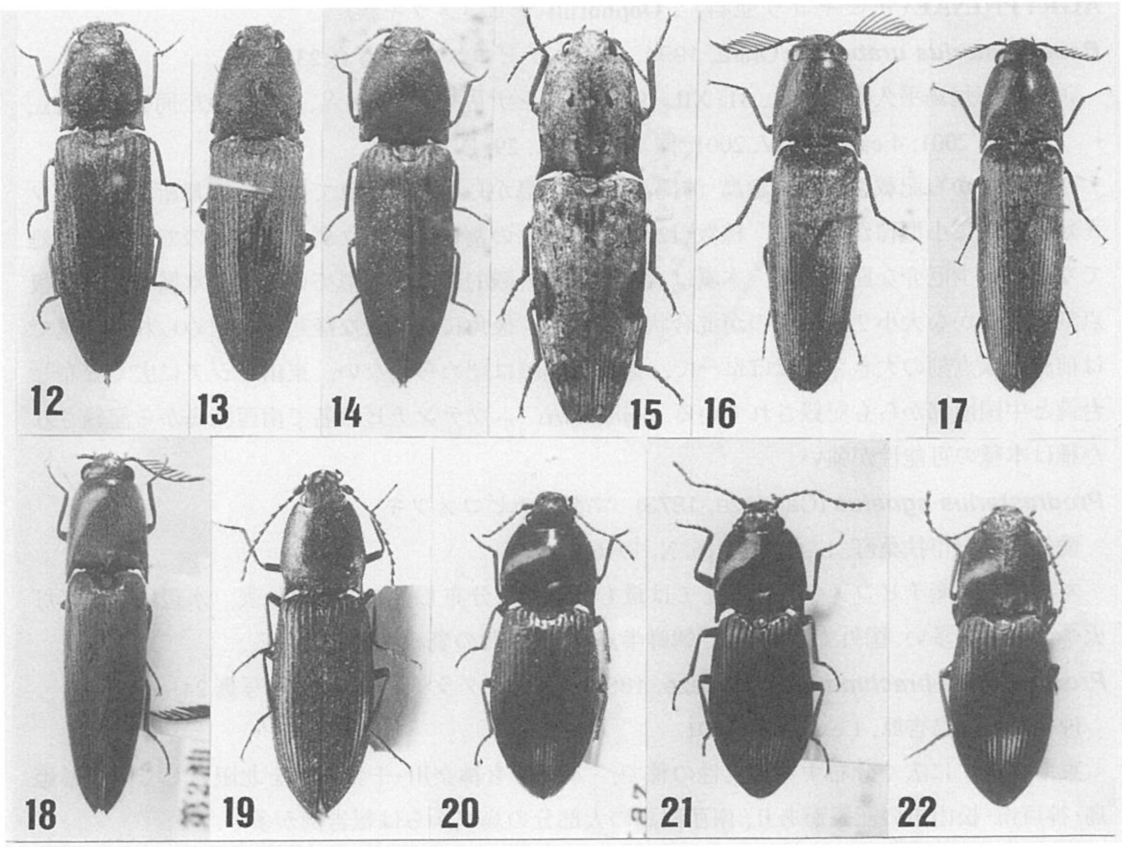

写真 **12-22**. **12**, オオサビコメツキ *Lacon maeklinii* (岐阜県白川村大白川林道, ♀, 18.9 mm); **13**, マエナミサビコメツキ *L. maenamii* (八丈島末吉, ♂, 17.3 mm); **14**, ヤエヤマサビコメツキ *L. yayeyamanus* (石垣島屋良部岳, ♂, 16.8 mm); **15**, オオフタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus larvatus* (石垣島オモト岳, ♂, 29.5 mm); **16**, オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* (鹿児島県佐多町打詰, ♂, 18.6 mm); **17**, 同 (鹿児島県佐多町稲尾岳南麓, ♀, 28.0 mm); **18**, ヒメクシヒゲコメツキ *T. okinawensis* (奄美大島第二油井岳林道, ♂, 16.8 mm); **19**, チャグロヒサゴコメツキ *Homotechnes brunneofuscuss* (長野県王滝村御岳, ♂, 14.1 mm); **20**, センジョウミヤマヒサゴコメツキ *H. motschulskyi kuratai* (長野県長谷村北沢峠, ♀, 10.6 mm); **21**, ミヤマヒサゴコメツキ亜種 *H. motschulskyi* subsp. (岐阜県河合村天生峠, ♀, 11.3 mm); **22**, コンゴウミヤマヒサゴコメツキ *H. motschulskyi kongoensis* (奈良県御所市金剛山, ♀, 9.5 mm).

Tetrigus okinawensis Ohira, 1967 ヒメクシヒゲコメツキ(写真 18)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 26-29. VI. 2003.

前種に似るが小型で著しく細い体形なので分かり易い. 沖縄本島からの資料で記載され, 現在奄美大島・加計呂麻島・徳之島・伊平屋島・慶良間列島・阿嘉島・石垣島などからも知られているが個体数は少ない.

AGRYPNINAE(サビキコリ亜科)：**Oophorini**(チビコメツキ族)

Babadrasterius urabensis Ohira, 1994　ウラベチビコメツキ(写真 23)

沖縄県石垣島平久保, 2 exs., 31. XII. 1996; 同バンナ岳, 1 ♂, 2 ♀♀, 3. I. 1997; 同吉原, 1 ex., 28. IV. 2001; 4 exs., 29. IV. 2001; 同富野, 1 ex., 29. IV. 2001.

与那国島から記載され，与論島・沖縄本島・宮古島からも報告されている．本邦産チビコメツキ類は一般に小型種が殆どで，種数(12 種，1 亜種)の割に多くの 7 属からなるので分類は困難でないが多少厄介な面もある．本属は次種の属と外観的にはよく似ているが，本属の前胸背板点刻は明らかな大小 2 型のものが混合状に密布し，後角には顕著な隆起線が認められ，次属では前胸背板点刻の大きさがほぼ単一で，後角隆起線は認められない．東南アジアに広く分布し台湾と中国南部からも記録されている *triangularis* ムツテンチビの名で南西諸島から記録された種は本種の可能性が強い．

Prodrasterius agnatus (Candèze, 1873)　マダラチビコメツキ

愛知県豊田市扶桑町, 1 ♂, 1 ♀, 16. X. 1996.

本種は本邦産チビコメツキ類としては最も普遍的に分布し各地の草原地表，水辺に普通で灯火への飛来も多い．国外では済州島・朝鮮半島・中国東北の資料も検している．

Prodrasterius brachmanus (Candèze, 1859)　スジマダラチビコメツキ(写真 24)

沖縄県石垣島吉原, 1 ex., 2. V. 2001.

東南アジアに広く分布する海浜性の種で，本邦でも神奈川・千葉両県を北限として愛知県姫島・神戸市・松山市の記録があり，南西諸島の大部分の島嶼からは報告例が多い．

Prodrasterius collaris asaokai Ohira, 1994　イリオモテチビコメツキ(写真 25)

沖縄県石垣島吉原, 2 exs., 28. IV. 2001; 1 ex., 30. IV. 2001.

Candèze(1859: 422, 427)がインドから記載し，東南アジア全般に原名亜種が，別亜種が台湾と先島諸島にそれぞれ分布する．本亜種は西表島から記載され後に石垣島からも記録された．

HYPNOIDINAE(ヒサゴコメツキ亜科)：**Hypnoidini**(ヒサゴコメツキ族)

Hypolithus littoralis convexus (Miwa, 1928) キベリマルヒサゴコメツキ

北海道小清水町小清水海岸, 1 ♂, 21. VII. 1998.

典型的な寒冷地分布の海浜性コメツキで，カムチャツカから記載され，ロシア極東アムール北部の沿海部，樺太，千島諸島に分布する．世界的にこのグループの検討をした米国の Stibick (1979: 244-245)は，本種についてこれらの地域からの資料を検討し，同一原名亜種群と見なした．筆者は樺太産資料と北海道からの多くの資料を比較検討したが，北海道本土と付属諸島産の本種を新属新種(*Yezodima convexum*)とした Miwa(1928b: 39)と，次いでこれを本種の別亜種(*Hypolithus littoralis convexum*[!])とした大平(1963: 79)の見解はそれぞれの段階で妥当であろう．更に最近，本州北端部からも本種分布が知られ，尾崎俊寛氏(大館市)のご厚意で，青森県下北半島産本種資料の検討をして，これらは原名亜種とも北海道亜種とも異なる本土固有の亜種

群と見なした(Kishii, 2004b: 161-162, as *H. littoralis michinoku*).

Homotechnes brunneofuscus (Nakane, 1954)　チャグロヒサゴコメツキ(写真 19)

長野県大鹿村小渋湖畔, 1 ♀, 23-24. V. 1998; 王滝村御岳, 1 ♂, 5. VII. 1987.

静岡県静岡市二軒小屋西俣, 1 ♀, 4. VIII. 2001.

以前から知られていたが北陸・中部地域以北の本種は中国・四国・九州に分布する個体群に比し，著しく大型で色彩も明らかに濃色である．しかし近畿圏の個体群では京都市北域の低山地(貴船渓谷など)のものは西型で，高地の台高山系からは大型個体群が得られている．他の特徴と両性生殖器構造では同種であることは間違いないが，別亜種個体群に移行中の可能性があるとも思われる．また本種と共に次種を前種と同属とする報文も多いが，この両属では多くの形態的差異点があり，本種は中国南部に分布する本属の基本種 *corymbitoides* に極めて近い形態的特徴をもち，雌貯精嚢内の多数の刺状構造をもつ角質板形状も同系と見なされる．

Homotechnes motschulskyi kuratai (Kishii, 1968) センジョウミヤマヒサゴコメツキ(写真 20)

長野県長谷村北沢峠付近, 1 ♀, 31. VII. 1987.

下翅が退化し冷涼な高地の地表を生息域とする本種は，本邦のコメツキムシ中最も局地的分化の顕著な種で，現在ほぼ 60 弱の亜種が記載されており，特に関東・中部・東海・北陸などの本州中央山岳地域での分化が著しい．本県及び近接の関連山系を含めると長野県からは大凡 10 亜種個体群の分布が知られる．本亜種は小型で太短い典型的瓢型の体形で，南アルプスの塩見岳・仙丈岳から山梨県の鳳凰山塊に生息する．今回の資料は是までで最北地点からの 1 頭のみの資料なのと，やや大型で少々異質な特徴が認められ，或いは別亜種の可能性も否定できないが，資料が少ないことと近接する甲斐駒ヶ岳からの資料は検していないので本亜種と見なしておく．

Homotechnes motschulskyi (Fleutiaux, 1902), subsp. ミヤマヒサゴコメツキ亜種(写真 21)

岐阜県河合村天生峠, 1 ♀, 22. VII. 1990.

岐阜県と周辺の山系からの本種には 7 ～ 8 亜種個体群の分布が知られ，更に新しく見出される可能性も強い．今回の資料は富山・石川両県境界の白山系に近い天生峠からの資料なので，白山系亜種 *mutsuurai* ハクサンミヤマヒサゴの可能性があるが，幾つかの特徴からは同じ亜種とするには些かの難が認められた．最近本県内にお住まいの高井泰氏からの，宮村ダナ平林道産の資料(1 ♂, 22. VI. 2002)を検する機会があり，この個体は上記と同じ理由で *mutsuurai* と疑問符付きで見なした．天生峠と宮村は水系的には無関係と思えないので，改めて両資料を精査すると触角第 2 節の長さに差があるが類似性も濃厚で，同じ亜種個体群と見なしうるが資料数が少ないので，更なる資料収集による検討を進めたい．

Homotechnes motschulskyi kawasei (Ohira, 1995) ヒラクラミヤマヒサゴコメツキ

三重県美杉村三重大平倉演習林, 1 ♀, 29. V. 1988.

南北に長い三重県西部の鈴鹿山系に本種が棲息することは大分以前から知られていたが，本亜種が三重大学の平倉演習林から記載されたのは比較的最近で，鈴鹿山系北端の藤原岳コグルミ谷の資料も副模式標本とされた．筆者は最近三重昆虫談話会の多くの会員諸氏のご協力で，

山系北端の御池岳とその周辺地で得られた極めて多数の本種の資料(96 exs.)を検し，この地域の個体群は平倉演習林周辺の個体群とは異質で，その固定した特徴を基に別亜種群と見なした(Kishii, 2002: 139-143, as *oikensis*).

Homotechnes motschulskyi kongoensis (Kishii, 1969) コンゴウミヤマヒサゴコメツキ(写真 22)

奈良県御所市金剛山, 2 exs., 15. VI. 1988, 田中勇 leg.

標高 1000 m を越え本種の生息可能な環境下にあるが，当初この山からの資料を見たとき，当時としては予想外の分布域で些か驚いた．最も近い本種分布地である台高山系の亜種 *taichii* オオダイミヤマヒサゴに似た点もあるがより小型で，寧ろ徳島県高越山からの亜種 *kurotai* コウツミヤマヒサゴに似るが，両性生殖器構造では明瞭な差異点をもつ．本種の亜種群の中では体色が最も淡色の茶褐色気味である．また標高 400 m に満たない奈良市内の春日山原生林内から採集された 1 ♀資料で記載された亜種 *okudai* カスガミヤマヒサゴとは貯精嚢内ブラシ状角質板の形状がが著しく異なり，生息地の水系的な隔離も明瞭であり，極めて大型肥厚した体形からも両亜種の関連性は小さいと見て好いと思う.

Ascoliocerus saxatilis saxatilis (Lewis, 1894) ヒラタクロコメツキ

長野県白馬村猿倉, 1 ♀, 10. V. 1999; 安曇村梓川上流, 1 ♀, 9. VII. 1988.

岐阜県高根村高根ダム, 2 ♂♂, 29. IV. 1995.

本土四大島での固有種で内陸の水辺に棲息し佐渡からも記録され，北海道個体群は別亜種(*expansicornis*)とされる．本邦には他にもう一種 *fluviatilis* キアシヒラタクロも分布するが，共に雄下翅は退化縮小していて飛翔不能であるが雌では正常で，両性間での形態差も大きい.

DENDROMETRINAE(カネコメツキ亜科)：**Dendrometrini**(カネコメツキ族)

Cidnopus marginipennis (Lewis, 1894) ルイスカネコメツキ(写真 26)

長野県川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♀, 13. VI. 2004.

本属では唯一の邦産種で，前胸腹側板後縁は単純で大きく剔られる事はなく，腹側板内縁は細く二重状で前端部は僅かに凹むが溝状ではない．高山性で現在関東・中部の高地帯，新潟・栃木・神奈川・山梨・長野から知られ，夏期草原の花上で見られる．ヨーロッパ産の *aeruginosus* に体形がよく似た種であるが，やや小さく上翅側縁が赤黄色に縁取られる.

Nothodes marginicollis (Lewis, 1894) ウスチャイロカネコメツキ

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 12. VII. 2003.

岐阜県朝日村秋神川河畔, 1 ♀, 26. VI. 1999.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 4. VII. 1997.

本属も邦産種は本種のみで北米産の属基本種(*Limonius dubitans*)に極めてよく似ていて，北米には他にも数種分布する．ヨーロッパにも本属の種が唯 1 種(*Elater parvulus*)分布するがこれとは明確に異なる．前属と異なる点は前胸腹側板内縁は広く二重状で前端部は明瞭な溝状を呈する．本州と九州の低山地など，特に里山の初夏の花上で見られ少なくはない.

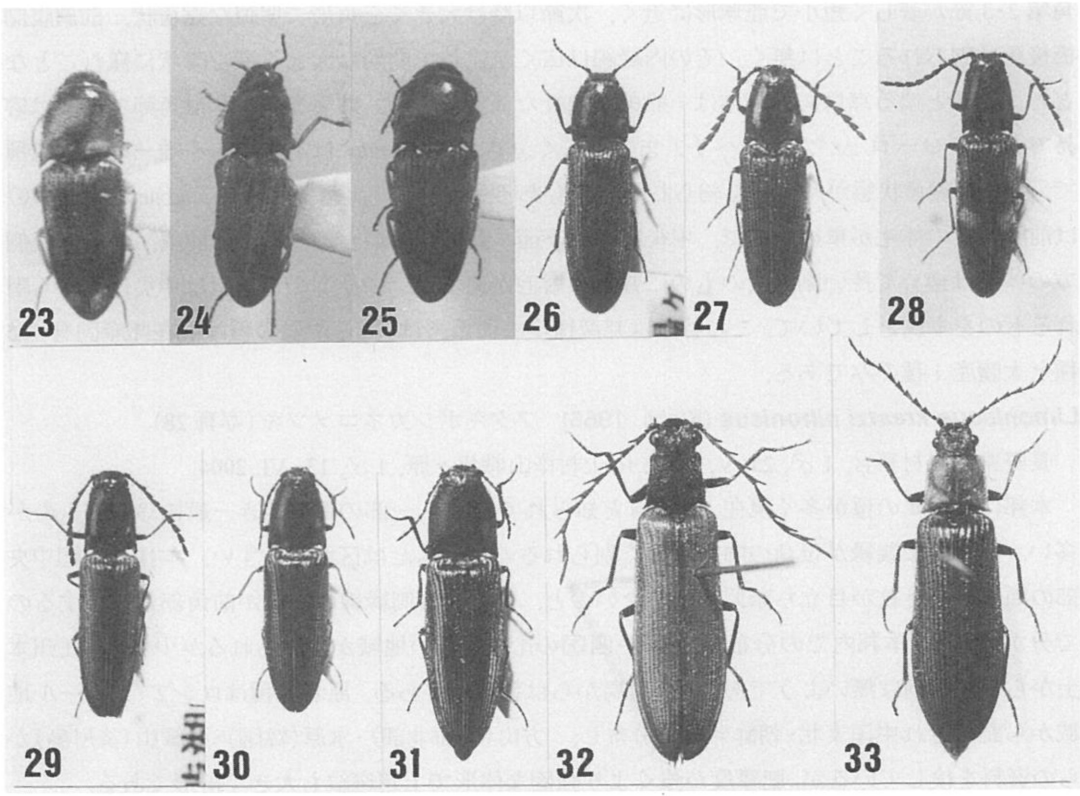

写真 **23-33**. **23**, ウラベチビコメツキ *Babadrasterius urabensis* (石垣島吉原, ♂, 4.4 mm); **24**, スジマダラチビコメツキ *Prodrasterius brachmanus* (石垣島吉原, ♂, 6.0 mm); **25**, イリオモテチビコメツキ *P. collaris asaokai* (石垣島吉原, ♂, 5.6 mm); **26**, ルイスカネコメツキ *Cidnopus marginipennis* (長野県川上村梓山戦場ヶ原, ♂, 10.1 mm); **27**, ムラサキヒメカネコメツキ *Kibunea eximia* (長野県長谷村戸台, ♂, 7.6 mm); **28**, フタキボシカネコメツキ *Limoniscus kraatzi nihonicus* (長野県長谷村戸台, ♂, 8.7 mm); **29**, ハネアカカネコメツキ *L. rufipennis* (長野県大鹿村小渋湖, ♂, 8.2 mm); **30**, ミヤマカネコメツキ *L. montivagus* (長野県長谷村戸台, ♂, 9.0 mm); **31**, シナノカネコメツキ *L. hinakurai* (長野県長谷村戸台, ♂, 12.6 mm); **32**, メスグロホタルコメツキ *Denticollis versicolor* (岐阜県高根村日和田高原, ♂, 13.8 mm); **33**, 同 (岐阜県高根村日和田高原, ♀, 14.2 mm).

Kibunea eximia (Lewis, 1894) ムラサキヒメカネコメツキ(写真 27)

長野県長谷村戸台, 2 ♂♂, 1 ♀, 25. V. 2003.

岐阜県白川村保木脇, 1 ♀, 18. V. 2003.

美麗な紫色上翅と金色光沢の強い前胸背板などで, 本邦産コメツキでは最も目立つ種の一つで, 本州・四国・九州(福岡県のみ)の低山地花上で得られる. 属名は近畿圏の著名な昆虫採集地である貴船渓谷に因んだもので本種を基本種とした(Kishii, 1966: 46). この属名について, 筆者は一時スペインの Sánchez-Ruiz (1996: 108)の意見に従い *Limomius* 属に変更したが(岸井, 2001: 5; 2003b: 2), 再検討でその属基本種指定の経過に疑問点があり訂正復活した. 本属の特徴は触

角第2･3節が著しく短小で亜球形に近く，次節以降は大きく三角形で明瞭な鋸歯状，前胸腹側板後縁は剔られることは無く，その内縁線は広く二重状で前端は大きく深く溝状に窪むことなどと，前属と似る点はあるが体は一般的に強壮な筒状に近く，顕著な鋸歯状触角節で区別は容易である．ヨーロッパからシベリアまでに広く分布する *minuta* は本属に入る唯一の大陸産種で，触角の鋸歯状態がやや弱く紛らわしい点もある．しかしチエコ共和国の Laibner(2000: 70)は前胸背板の体毛が単純一様で，中後脚の爪下面が基部近くから剔れるのを前属，前胸背板側方の体毛は極めて長い剛毛状のものに普通の短毛が密生し，中後脚の爪下面は中央近くから剔れるものを本属としていて，この特徴は邦産種全てに当てはまる．本属の種は現在邦産固有の5種と大陸産1種のみである．

Limoniscus kraatzi nihonicus (Kishii, 1966)　フタキボシカネコメツキ(写真28)

長野県長谷村戸台，1 ♂, 25. V. 2003; 川上村梓山戦場ヶ原，1 ♂, 13. VI. 2004.

本邦には本属の種が多く現在21種ほど知られていて，一部の種を除き一般に珍しいものが多い．前胸腹板後縁が後角の内側で強く剔られるので他属とは区別しやすい．本種は上翅中央部の顕著な黄色紋が目立ち類似種はいないのと，前胸背板側縁線の前端が前角部と融合するので分かり易い．本邦内での分布域は本州･四国の比較的広い地域から知られるが少ない．九州本土からの記録例は無いようであるが，対馬からは報告例がある．原名亜種はロシア･アムール地域から記載され中国東北･朝鮮半島に分布し，方山(朝鮮北部)･水原(韓国)･漢拏山(済州島)からの資料を検しているが，肥厚度が強くより強固な体形で上翅斑紋も大きく円形である．

Limoniscus rufipennis (Lewis, 1894)　ハネアカカネコメツキ(写真29)

長野県大鹿村小渋湖畔，1 ♂, 29. V. 1999.

本種は上翅が赤色で分かり易く，通常会合線にそって明瞭な黒色縦条をもつが，時に全く認められない個体もある．中部地方以西の低山地の花上で見られ，島嶼からの報告例はない．また済州島からの記録例(Lee et al., 1985: 407; Paik et al.,1995: 393)もあるが，資料未見でこの記録は疑わしい点もある．

Limoniscus atricolor (Lewis, 1879) クロカネコメツキ

京都府京都市左京区岩倉村松町，1 ♀, 4. V. 1983, 岩田隆太郎 leg.

全身が青黒い変わった色彩で，平地に近い里山など低山地の花上などで見られるが，最近はかなり少なくなったようである．関東･北陸西部から以西の四国･九州まで分布は広いが，島嶼からは平戸島の記録のみである．

Limoniscus montivagus (Lewis, 1894)　ミヤマカネコメツキ(写真30)

長野県長谷村戸台，1 ♀, 2. V. 2004.

近年本種に体形･色彩共に類似の複数の種(*hiramatsui, hosodai, takabai*)が相次ぎ記載されていて生殖器構造も互いによく似ているので同定は注意を要する．しかし脚部と体毛の色彩･前胸背板点刻･前胸腹板突起形状などの精査検討で分類は困難でない．

Limoniscus yamato Kishii, 1998 ヤマトカネコメツキ

愛知県旭町旭高原元気村，1 ♀, 14. VII. 1997.

Lewis(1894: 194)が北海道蓴菜沼付近での資料に *Limonius niponensis* と命名したものと，本土産の類似個体群は従来同種とされてきたが，この両者が異なることは明らかで本土産のものは本種と次種に分割された(Kishii, 1998: 2-7)．本州以南から *niponensis* ニホンカネとして報じられたものは本県からも記録されていて本種または次種であろう．一般的には体毛が黄金色なのが本種で低山地性で青森から九州まで広く分布し，銀白色のものが次種で高地に多い．

Limoniscus hinakurai Kishii, 1998　シナノカネコメツキ(写真 31)

長野県長谷村戸台, 1 ♀, 25. V. 2003; 王滝村御岳八海山(800-2000 m), 1 ♀, 24. VII. 2004; 木曽福島町新開, 1 ♂, 26. VI. 2004(LT).

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♂, 20. VII. 1990.

本種の確実な分布地は新潟・長野・京都・奈良・山口・愛媛で岐阜は初めてとなる．なお山梨県の個体(須玉町瑞垣山)も検している．

Limoniscus imitans (Lewis, 1894) タテジマカネコメツキ

岐阜県根尾村水鳥谷渓谷, 1 ♂, 5. V. 1986.

京都府京都市左京区岩倉, 1 ♂, 11. V. 1984.

珍しい種でないが記録例は少ない．以前次種と同種と見られ，変異型と見られると述べた例(Miwa, 1934: 106)もあり，その時期が長いので次種として記録されていた可能性が強い．東北地方南部から本州全域と高知・福岡から記録されているが，島嶼からの報告例はない．

Limoniscus vittatus (Candèze, 1873) タテスジカネコメツキ

岐阜県上宝村平湯(1300-1400 m), 1 ♀, 19. VI. 1988.

滋賀県日野市綿向山, 1 ♂, 14. V. 1983.

前種とはよく似た色彩体形のためか，記載年の早い本種名で全てが報告された可能性が強い．極めて密な前胸背板点刻のため点刻が相接し間隙が殆ど認められないのが本種で，点刻間は相離れ点刻径とほぼ等しい間隙が認められるのが前種である．また一般的な傾向としては前種が細型華奢な体形で本種は太く強壮な体形をもつことが多い．前種より分布範囲が広く，北海道・本州・四国・九州の 4 島と天売島・粟島・朝鮮・香港などの記録例もあるが，北海道・天売島のものは最近記載された *kawaharai* キタカネか或いは *katoi* エゾカネの可能性が強く，朝鮮・香港のものは未見であるが本種の可能性は弱いように思う．

DENDROMETRINAE(カネコメツキ亜科)：**Athoini**(ホソツヤコメツキ族)

Athousius humeralis (Miwa, 1927)　カタモンホソコメツキ

長野県王滝村牧尾ダム, 1 ♀, 22. VII. 1995; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♂, 3. VII. 2004.

岐阜県河合村天生峠（1300-1400 m), 1 ♂, 29. VII. 1990.

最も古典的なコメツキの属名の一つである *Athous* は，本邦でも当初は本亜科の多くの種に用いられていて，ユーラシア地域では現在も多くの種が知られているが，この仲間で本邦に分布するものは本種の属する *Athousius* と *Elathous* のみのようである．現在本邦からの本属の種は

固有の5種であるが，中国南部や東南アジア及び台湾には更に多くの種が分布する．本種は青森県の十和田湖畔で得られた資料で記載されたが，これは北端分布域となり四国・九州までの山地で，時に局所的に多数個体を見ることもあるが普遍的でなく，また雌は体色が赤茶色になる傾向が強い．他の4種は本州に3種と九州に1種が何れも局所的に分布し稀である．

DENDROMETRINAE（カネコメツキ亜科）：**Denticollini**（ベニコメツキ族）

Denticollis nipponensis nipponensis Ohira, 1973　ベニコメツキ

長野県王滝村御岳高原（1500 m），1 ♀，29. VI. 1997; 大鹿村小渋湖畔，1 ♀，6. VI. 1999; 1 ♂，26. V. 2001; 同鳥倉山林道，1 ♂，3. VI. 2001; 長谷村栗沢，1 ♂，4. VI. 2000; 川上村梓山戦場ヶ原，1 ♂，13. VI. 2004.

静岡県小山町須走，1 ♀，8. VI. 1988.

岐阜県本巣町パルプ工場土場，1 ♂，11. V. 1985; 神岡町跡津川上流，1 ♂，28. V. 1989.

愛知県稲武町面の木峠，2 ♀♀，5. VI. 1988.

本邦で最も広く普通に分布し，里山など低山地周辺の竹林の多い地域で昼間飛翔することが多く，伊豆利島・隠岐・平戸島・壱岐からの記録もある．また韓国からの記録もあるが資料未見で確認していない．利尻島を含む北海道産個体群は頭部・前胸背板・触角・交尾器などに相違点があり，別亜種（*ainu*）アイヌベニとされている．

Denticollis miniatus (Candèze, 1885) ミヤマベニコメツキ

長野県長谷村戸台，1 ♂，25. V. 2003.

静岡県小山町須走，1 ♀，8. VI. 1988.

愛知県稲武町面の木峠，1 ♀，5. VI. 1988; 同（1000-1200 m），1 ♀，9. VI. 1991; 同（1100 m），1 ♀，5. VI. 1994; 津具村面の木峠，1 ♀，10. VI. 2000; 足助町平沢，1 ♀，3. V. 1985.

本州以南の本土に分布し，島嶼からは平戸島からのみ知られ，前種よりも山地で見られる．韓国からの記録もあるが確認していない．

Denticollis versicolor (Lewis, 1894) メスグロホタルコメツキ（写真 32, 33）

長野県安曇村上高地付近，1 ♂，21. VII. 1990; 長谷村三峰川上流，1 ♀，1. VIII. 1987; 王滝村御岳八海山，1 ♂，19. VII. 1986; 同田ノ原，1 ♀，29. VII. 1995; 川上村梓山戦場ヶ原，1 ♂，7. VII. 2001; 八千穂村麦草峠（2100 m），1 ♀，7. VII. 2001.

岐阜県高根村日和田高原，4 ♂♂，1 ♀，3. VII. 1988; 1 ♂，29. VII. 1995; 1 ♂，7. VII. 1996; 2 ♀♀，19. VI. 2004; 同（1600 m），2 ♂♂，22. VI. 1997, 長谷川廣吉 leg.; 小坂町御岳濁河温泉，1 ♀，5. VII. 2003.

体色に変異の多い種で，個体毎に微妙に色彩変化が見られ，これまでに検した100頭余の中に同一色彩の個体は殆どない．雄は上翅黄褐色の個体が多く，雌では上翅黒色が多いが一概には言えず，稀に前胸部のみ赤橙色の個体もある．高地性で東北・関東・中部の山岳地に分布し，今のところ石川県と岐阜県が最西分布地である．

DENDROMETRINAE(カネコメツキ亜科) : **Hemicrepidiini**(ツヤハダコメツキ族)

Harminius galloisi Miwa, 1928　ガロアムネスジダンダラコメツキ(写真 34)

長野県王滝村松越, 1 ♂, 24. VII. 2004(LT).

岐阜県白川村大白川林道, 1 ♂, 4. VIII. 1990; 根尾村温見峠(950 m), 1 ♂, 18-19. VIII. 1990.

十和田湖と中禅寺湖からの資料で記載され, 本州・四国・九州全域の山地で灯火に来集する事が多く, 隠岐からの報告例もある. 前胸背板後縁の横隆起と明瞭な上翅毛斑で目立つ種である. 属基本種(*spiniger*)は地中海沿岸部に分布する種で, 邦産種より筒型に近く前胸背板後縁の横隆起は弱く触角も短い. 本邦からは固有の 5 種と 2 亜種が知られ, 何れもやや圧平度の強い体形で, 前胸背の横隆起は強く明瞭で触角も長い. 本種はその中でも体形が最も強壮大型で分かり易く, 上翅会合線末端に顕著な小突起をもつので紛れることはない.

Harminius singularis singularis (Lewis, 1894) ムネスジダンダラコメツキ

北海道羅臼町茂瀬苅別林道, 1 ♂, 20. VII. 1998.

前種よりやや小型で北海道南部の蕈菜沼周辺から Lewis(1894: 201)が記載し, 北海道全域から知られる. 千島産のものは別亜種(*chishimensis*)で, 本州以南に分布する個体群も次項のように別亜種である. なお, 本属の種では両性生殖器構造の形態の差異点は少ないが, 外部構造では見分けやすい点が多く分類は容易である.

Harminius singularis hondoensis Kishii,1985 コガタムネスジダンダラコメツキ(写真 35)

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 12. VIII. 2000.

岐阜県根尾村温見峠(900-1000 m), 1 ♀, 10. VIII. 2002(LT); 本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 15. VIII. 2003.

本州からは *singularis* として多数の記録例があるが, 本州以南の個体群は明らかに原産地北海道産のものと異なる個体群で, 別亜種と認められるが別種の可能性も棄てがたい. 今回得られた上記地域には本種によく似た次種も分布しているので, かって *singularis* として報告された資料は精査を要する. 本種の上翅末端は剔られてやや裁断状, 内端(会合線先端)は突出気味である. 一般に本種の体は原名亜種を小型化した長楔型で, 前胸背板は大きく上翅肩部より広く, 上翅毛斑も明瞭である. 本州分布の本属には今回の固有 4 種が知られる.

Harminius nihonicus Kishii, 1979 ニホンムネスジダンダラコメツキ (写真 36)

長野県王滝村御岳八海山(1800-2000 m), 2 ♂♂, 27. VII. 1984; 1 ♂, 30. VII. 1994.

本州・四国・九州の山地に広く分布するが, 前種及び特に次種と誤認されることの多い種である. 本種では上翅末端が単純に丸まり, 上翅毛斑は薄く消失気味となる. 体はやや軟弱気味で長く平行状で前胸背板も広くない.

Harminius nikkoensis Miwa, 1928　キムネスジコメツキ(写真 37)

長野県王滝村御岳八海山(1800-2000 m), 1 ♂, 26. VII. 1986; 1 ♂, 20-21. VII. 1991; 1 ♂, 1. VIII. 2003.

中禅寺湖畔からの資料で独立種として記載(Miwa, 1928a: 134)されたが, 後 *singularis* の ab.

form.と見なされた(Miwa, 1934: 108). しかし固有の特徴が多く, 独立種として扱うのが妥当である(Kishii, 1979: 5-6). 本種は前胸が濃黒褐色, 上翅毛斑が無く一般に一様な淡黄色または淡褐色で上翅末端は単純なので, 前2種とは容易に区別できる. 現在福島・栃木・山梨・長野から記録されているのみである.

Diacanthous undosus (Lewis, 1894) ダンダラコメツキ(写真38, 39)

北海道上川町三国峠, 1♀, 19-23. VII. 1988, 中村司 leg.; 1♀, 11. VII. 1999; 留辺蘂町石北峠, 1♀, 11. VII. 1999.

長野県安曇村梓川上流, 1♀, 9. VII. 1988.

岐阜県高根村御岳日和田高原(1600 m), 1♀, 26. VII. 1987; 1♂, 15. VI. 1991; 1♀, 4. VII. 1993; 1♂, 29. VII. 1995; 1♀, 23. VII. 1995; 1♀, 21. VII. 1997.

日光女峰山の資料で記載された高山性の種で, 日和田高原では比較的普通のようである. 北海道・本州の中央高地帯と樺太にも分布し, 三重県からの記録もあるが些か疑わしい. 御岳山からはヨーロッパ高地に分布する *undulatus* に色彩的に極めて近似の *ontakeanus* オンタケダンダラが知られ, 最近2頭目の資料を検し得た(岸井, 1997: 3). 当初本種の亜種と見なしたが混生するのと色彩・体形・前胸形状・上翅斑紋形状その他の多くの差異点で独立の別種と見られ, 御岳山には2種が混生する. なお上翅の白色毛斑は性差が明瞭で一見別種に見え, 和名のように複数(通常3)あるのが雌で, 雄では中央に1横斑が認められるのみである.

Stenagostus umbratilis (Lewis, 1894) オオツヤハダコメツキ

福島県福島市梨平茂庭林道, 1♀, 27. VII. 1983, 中村司 leg.

長野県三岳村常磐橋, 1♀, 21. VII. 1987; 木曽福島町東山土場, 1♂, 2♀♀, 20. VII. 1986; 2♀♀, 5. VII. 1987; 1♂, 22. VII. 1987; 2♂♂, 3♀♀, 5. IX. 1987; 伊那市小出, 1♀, 2. VIII. 1987; 王滝村御岳八海山, 1♂, 26. VII. 1986; 1♀, 25. VII. 1991; 同鈴が沢, 1♂, 1♀, 4. VIII. 1991; 同九蔵, 1♀, 3. VIII. 1986; 開田村開田高原鵜類沢, 1♀, 26. VII. 1996; 大鹿村小渋湖畔, 1♀, 2. VIII. 1987; 楢川村奈良井ダム灯火, 1♀, 2. VIII. 1997.

静岡県静岡市畑薙ダム(1100 m), 1♂, 4♀♀, 22. VIII. 1992; 水窪町門桁山, 1♀, 18. VIII. 2001.

岐阜県白川村白山大白川林道, 4♀♀, 4. VIII. 1990; 河合村天生峠(1300-1400 m), 1♂, 20. VII. 1990; 根尾村温見峠(950 m), 1♂, 3♀♀, 18-19. VIII. 1990; 本巣町パルプ工場土場, 1♂, 24. VI. 1990; 同温見峠(950 m), 1♂, 1♀, 15. VIII. 2003; 萩原町大洞ダム湖畔, 1♀, 6. VII. 2003.

愛知県旭町旭高原元気村, 1♂, 3. VIII. 1996; 2♂♂, 27. VI. 1998.

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1♂, 8. VII. 2002; 同白谷林道, 1♀, 9. VII. 1984.

北海道から屋久島までと大部分の付属諸島に分布し, 昼間見かけることは極めて少ないが灯火には普遍的に多数が飛来する. 国外では韓国と済州島からも知られ, 後者からの複数資料を検しているが, 外部特徴も雄生殖器共に本邦産資料と有意の差異点は認められなかった(Kishii et Paik, 2002: 5-6, Fig.8).

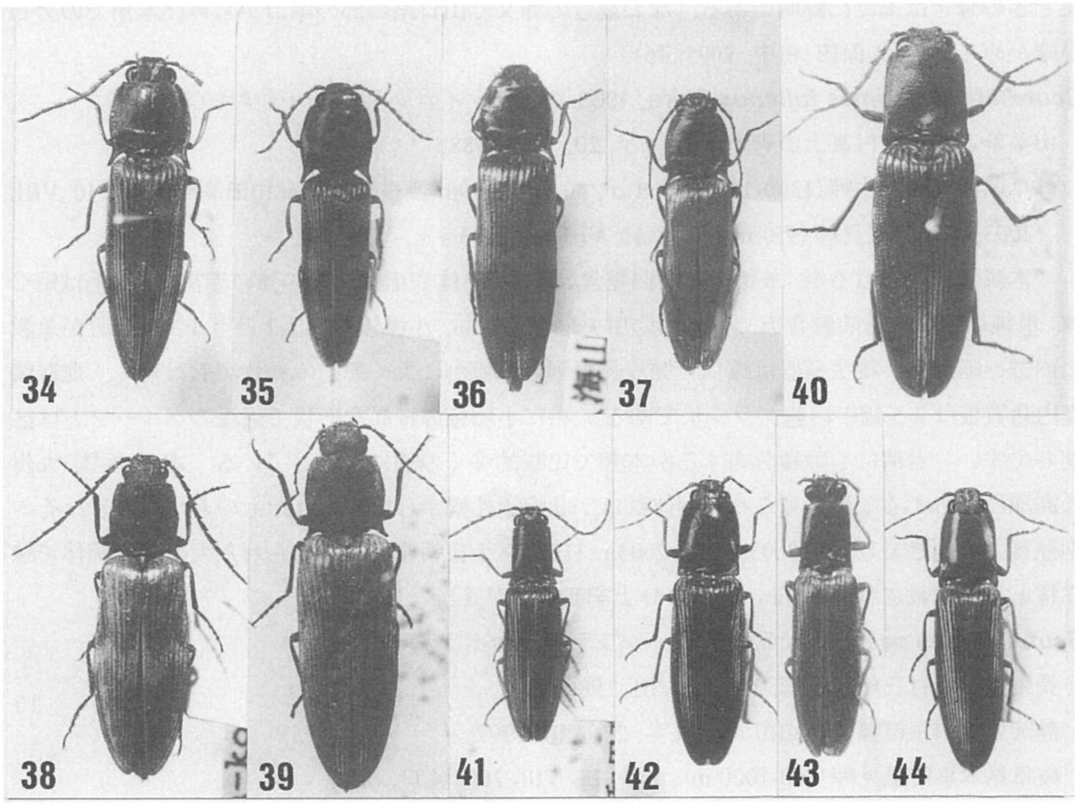

写真 **34-44**. **34**, ガロアムネスジダンダラコメツキ *Harminius galloisi*（長野県王滝村松越, ♂, 17.9 mm）; **35**, コガタムネスジダンダラコメツキ *H. singularis hondoensis*（岐阜県本巣町温見峠, ♀, 11.5 mm）; **36**, ニホンムネスジダンダラコメツキ *H. nihonicus*（長野県王滝村御岳八海山, ♂, 13.4 mm）; **37**. キムネスジコメツキ *H. nikkoensis*（長野県王滝村御岳八海山, ♂, 11.0 mm）; **38**, ダンダラコメツキ *Diacanthous undosus*（岐阜県高根村日和田高原, ♂, 14.6 mm）; **39**, 同（岐阜県高根村日和田高原, ♀, 19.5 mm）; **40**, オニツヤハダコメツキ *Stenagostus horioi*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 23.0 mm）; **41**, フジチャイロツヤハダコメツキ *Scutellathous comes fujianus*（岐阜県高根村日和田高原, ♂, 11.5 mm）; **42**, ホソアカツヤコメツキ *S. sasajii*（岐阜県本巣町温見峠, ♀, 13.1 mm）; **43**, シコクツヤコメツキ *S. shikokuanus*（徳島県東祖谷山村剣山, ♂, 12.1 mm）; **44**, ヤクチャイロツヤハダコメツキ *S. yakuensis*（屋久島屋久町荒川林道, ♀, 14.5 mm）.

Stenagostus horioi (Kishii, 1955) オニツヤハダコメツキ（写真 40）

鹿児島県佐多町杉山谷（150-200 m）, 1 ♂, 17-18. VII. 2004.

最近山口県東部の寂地高原からの 2 頭の雄個体を検したが（岸井, 2004a: 111-112）, 従来は九州でのみ知られていた大型の特徴あるコメツキで, 九州では佐賀を除く全県の山地から知られるが少ない. 種名は京都での印刷業の合間に, 国内外での甲虫採集を楽しまれた堀尾貞太郎氏に因んだもので, 半世紀前にそのコレクション中にあった, 本種の威容とも言うべき標本を見

たときの驚きは未だに鮮明である．なお最近の報文で山口県西部の華山から再び本州での分布が確かめられた(久保田・田中, 2005: 46)．

Scutellathous comes fujianus Ohira, 1963 フジチャイロツヤハダコメツキ(写真 41)

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♂, 20. VIII. 1988.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♂, 20. VII. 1990; 高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 10. VIII. 2003; 本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 15. VIII. 2003.

本属は前属に似るが, 糸状に近い弱鋸歯状の触角, 体表面は光沢の強い赤褐色, 体毛は短く疎, 単純に膨隆する前胸背板で稀に弱い中央縦溝をもち, 小楯板前部 1/2 乃至 1/3 の部分が急激に内方へ陥没し, 雄生殖器は幅広で側片先端側方は僅かに丸く膨らみ鉤状突起は無く, 雌貯精嚢内角質板は 4-5 個の円盤ブラシ状である．特に小盾板の特異な形状で近縁のグループとは区別しやすい．台湾にも数種分布するが本邦で比較的多くの種に分化している．本州・四国・九州の高地に分布する本種と見られる個体群は, 北海道札幌から記載されたものとは異なり, その別亜種とすべきで(岸井, 2003b: 4-5; 2004a: 112), 富士山朝霧高原で得られた大型の雌個体で独立種として記載された(Ohira. 1963: 16)上記亜種名が妥当と見ている．

Scutellathous sasajii Kishii, 2001　ホソアカツヤコメツキ(写真 42)

長野県長谷村三峰川上流, 1 ♂, 2. VIII. 1986.

静岡県中川根町蕎麦粒山山犬段, 1 ♀, 23. VIII. 1992.

岐阜県本巣町温見峠(900-1000 m), 1 ♀, 13. VIII. 2004(LT)．

前種によく似ていて誤認されやすいが, 本種の方が平均的にはやや大型, 体色もより濃色で光沢が強く, 前胸背板点刻は単純でより小型かつ疎で, 雄交尾器側片は細く先端に向かい明瞭に外方へ曲がり, 雌貯精嚢内のブラシ状半円形角質板は 5 個共幅が広い．上記名称でこれまでに報告されている地域は三重・京都・奈良・和歌山・高知・宮崎で, 新潟・徳島・愛媛の資料も検している．今回の 3 県から記録されるのは初めてだが, 以前 *suturalis* の名で記録されたものは本種の可能性が強い．Candèze(1873: 23-24)が Hiogo(兵庫)からの資料で *Athous suturalis* として記載した種に対し, 中根猛彦先生が石原保先生などによる石鎚山周辺のファウナ・リストを作製時, 本種をこの Candèze の命名種と誤認(石原他, 1953: 74)して以後長く用いられてきた．鈴木(1987: 3)によって上記の Hiogo 標本(holotype)が北海道大学で発見され, その検討で *suturalis* は別種で後述の *Megathous* 種であることが判明するまでこの名は長く踏襲されてきた．前種とよく似ているので混同されていたと見られる．

Scutellathous shikokuanus Kishii, 1985 シコクツヤコメツキ(写真 43)

徳島県東祖谷山村剣山, 1 ♂, 17. VII. 1988.

本種は四国特産で徳島県の剣山に多く, 愛媛の石鎚山, 高知の梶ヶ森の資料も検している．本種の雄交尾器側片先端部は本属の他種とは形状が異なり鋭角状に突出していて分かりやすい．

Scutellathous yakuensis Nakane et Kishii, 1958　ヤクチャイロツヤハダコメツキ(写真 44)

鹿児島県屋久町荒川林道, 1 ♂, 1 ♀, 10. VII. 1995.

本土の山地に広く分布する *comes* チャイロツヤハダの亜種として記載されたが, 後に本島固

有の種とされた(Kishii, 1999: 33). これまで検した資料は雄のみで, 今回初めて雌個体を検し貯精嚢内の角質構造を調査した結果, 概ね前3種のそれに似るが, 貯精嚢端部の2個の扇状角質板は共に細型で亜円形もしくは横広型のものはなく, 貯精嚢基部にある1對のブラシ状角質板も細型で前種の形状に近く, 既知種のものとは異なる(cf. Kishii, 2001a: 213, Figs. 18-21).

Yukara inornata (Lewis, 1894) キバネツヤハダコメツキ

北海道幌加内町朱鞠内, 1 ♂, 2. VIII. 1983.

夏期北海道全域の山地の各種花上に普通に見られ, 付属諸島の大部分と樺太からも記録されている. 当初前頭横溝部の構造からホソツヤコメツキ族(Athoini)の種と見なしたが(Kishii, 1987: 79-81), 脚部付節の構造と雄生殖器形態からツヤハダコメツキ族(Hemicrepidiini)に属すると考えるのが妥当である. この族では前胸背板後縁の側方部には後角部に近く明瞭な縦溝をもつが, *Yukara* 属では殆ど消失し僅かな凹みが認められるのみで, ホソツヤコメツキ族に類似の頭部構造と共に特徴とされる.

Megathous suturalis (Candèze, 1873) フトツヤハダコメツキ(写真45)

岐阜県本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 16. VIII. 2002(LT).

鹿児島県高山町甫与志岳(FIT), 1 ♂, 16-19. VII. 2004, 野田亮 leg.

本種も前種同様に特異な形状をもち, 当初本邦固有の新属新種として記載(Kishii, 1955: 79, *Harminathous nakanei*)されたが, Reitter(1905: 25)が中東産種で創設した *Harminius* 属の亜属に相当する種とされ, 種小名もそれまで *Scutellathous* 属の種に誤用されていた上記名が正しいと判明した(cf. 鈴木, 1987: 3; Platia, 1994: 180; 岸井, 2004a: 112). 本州・四国・九州の山地と御蔵島・屋久島に分布するが, 鹿児島県本土からは最初と思われる. また韓国(Kon-Kuk Univ., 1994: 159)からの記録もあるが資料未見で疑わしい点もある. 燈火誘引で得られるが少ない.

Medakathous jactatus jactatus (Lewis, 1894) メダカツヤハダコメツキ(写真46)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 10. VIII. 2003.

静岡県水窪町門桁山, 4 ♂♂, 12. VIII. 2000.

今回検した全ての資料は, これまでに広い地域からの資料で検した本種資料とは, 体表点刻・触角・前胸形状などで些か異なる特徴が認められる. 本種では稀に上翅が黒化したり, 前胸背周縁が黄色の個体もあるが, 近似の実体不明種はないので当初未記載種かとも思われたが, 雄生殖器も同じで別種とする確たる根拠が少なく更に検討したい. なお本種は北海道から九州(福岡県のみ)までの本土に分布し, 付属島嶼としては粟島のみで別亜種(*babai*)とされる. 資料未見であるが韓国(Kon-Kuk Univ., 1994: 159)からも記録されている.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

長野県白馬村猿倉, 1 ♀, 18. VIII. 2000; 安曇村梓川上流, 5 ♂♂, 3 ♀♀, 25. VII. 1987; 松本市美須々湖, 1 ♀, 6. VII. 1990; 同扉, 1 ♂, 14. VII. 1990; 伊那市小出, 1 ♀, 2. VIII. 1987; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 1 ♀, 20. VII. 2003; 同九蔵, 1 ♂, 3. VIII. 1986; 同鷹ノ湯; 1 ♀, 18. VII. 1987; 同御岳, 1 ♂, 5. VII. 1987; 木曽福島町東山, 1 ♂, 5. VII. 1987; 川上村梓山戦場ヶ原, 2 ♂♂, 3. VII. 2004.

静岡県静岡市大間, 1 ♀, 14. VIII. 1993.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 14. VII. 1997; 稲武町段戸裏谷, 3 ♂♂, 12. VII. 1987.

和歌山県古座川町大塔山松根, 1 ♂, 11. VI. 1988.

徳島県東祖谷山村剣山, 4 ♂♂, 17. VII. 1988.

本州・四国・九州に分布し，多くの付属諸島からはそれぞれ別亜種(伊豆諸島: *izuinsulanus*; 屋久島: *yakuanus*; 口永良部島: *okadomei*; 沖縄本島: *kuniyoshii*; 済州島: *hallaensis*)が知られる．里山の様な低山地から相当の高所にも普通に見られ，花上・葉上・飛翔中のものや灯火に飛来するものもある．体色は一般に艶のある黒色で，稀に上翅が濃赤褐色の個体もある．通常触角と脚部も黒色であるが，触角の基部数節と脚部全体が赤褐色から赤黄色になる個体もあり，特に四国・九州の個体群では多く見られる．

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus yakuanus Kishii, 2001 ヤククロツヤハダコメツキ

(写真 47)

鹿児島県上屋久町白谷 17 号支線, 1 ♂, 1 ♀, 11. VII. 1986; 同小瀬田, 1 ♂, 12. VII. 1986; 1 ♀, 14. VII. 1986; 同白谷雲水峡, 1 ♀, 8. VII. 1995; 2 ♀♀, 14. VII. 1995; 1 ♀, 8. VII. 2002; 同平瀬林道, 2 ♂♂, 1 ♀, 6. VII. 2002(LT); 1 ♀, 7. VII. 2002(LT); 同宮之浦, 1 ♀, 12. VII. 1995.

本島からの本種は中根・岸井(1958: 36-37)によって初めて記録され，これまでに極めて多くの報告例をもつ普通種である．当初から標高の高い小杉谷近辺と宮之浦岳辺りには本土産のものに比し小型で細く軟弱なものが殆どで *sinuatus* タイプ個体群と見ており，一方海岸線に近い低地で見られるものは大型強固でよく肥厚し，本種の大型個体と見て同種としていたが，これは本土産でも次種と見られる軟弱で脚部などが黄赤色な個体群を本種の変異型と見ていたことによる．今回の資料は低地性の大型強壮な個体のみで，明らかに *secessus* タイプであるが多くの点で本土産個体群とは異なり別亜種とした(Kishii, 2001b: 45-46)．また小型軟弱な *sinuatus* タイプとした資料は今回はなかったが，これは次項で述べるようにその別亜種である．

Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus (Lewis, 1894) コクロツヤハダコメツキ

山梨県須玉町増富, 1 ♂, 2. VII. 1988.

長野県王滝村御岳八海山, 2 ♂♂, 19. VII. 1986; 3 ♂♂, 23. VII. 1988; 1 ♂, 22. VII. 1987; 1 ♂, 25. VII. 1992; 1 ♀, 1. VIII. 2003; 同鈴が沢(1100-1400 m), 1 ♀, 25. VII. 1991; 1 ♂, 1 ♀, 27-28. VII. 1991; 1 ♂, 2. VIII. 1992; 同九蔵, 1 ♂, 3. VIII. 1986; 松本市扉, 1 ♀, 14. VII. 1990; 川上村梓山戦場ヶ原(1400 m), 1 ♀, 15. VII. 1997; 開田村開田高原西野, 1 ♀, 3. VIII. 1996.

静岡県中川根町蕎麦粒山山犬段, 4 ♂♂, 23. VIII. 1992.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 2 ♂♂, 1 ♀, 20. VII. 1990; 白川村白山大白川林道, 1 ♂, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 高根村日和田高原(1600 m), 1 ♂, 31. VII. 1994; 同本巣町温見峠(950 m), 1 ♂, 15. VIII. 2003.

京都府舞鶴市与保呂, 1 ♂, 25-26. VI. 1994.

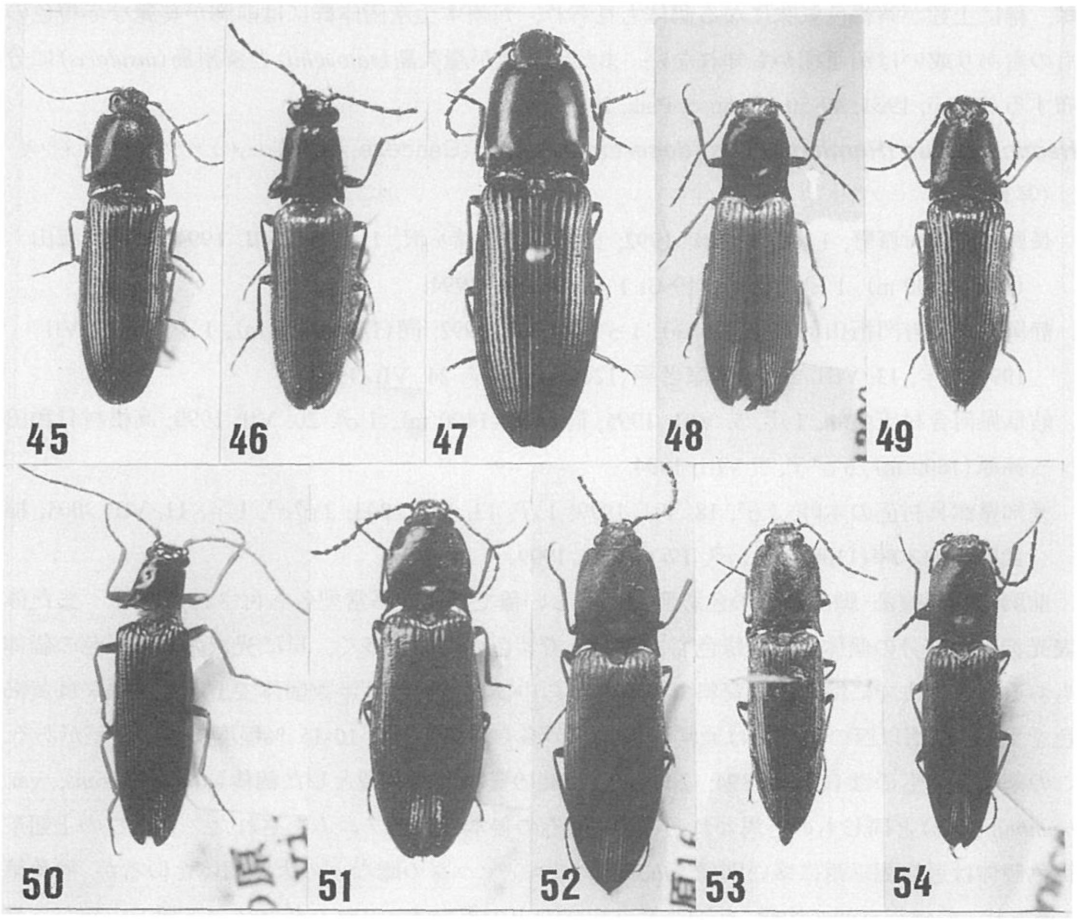

写真 **45-54**. **45**, フトツヤハダコメツキ *Megathous suturalis*（岐阜県本巣町温見峠, ♂, 15.7 mm）; **46**, メダカツヤハダコメツキ *Medakathous jactatus jactatus*（静岡県水窪町門桁山, ♂, 10.3 mm）; **47**, ヤククロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius secessus yakuanus*（屋久島上屋久町白谷雲水峡, ♀, 20.5 mm）; **48**, ヒメクロツヤハダコメツキ *H. desertor desertor*（静岡県水窪町門桁山, ♂, 13.1 mm）; **49**, ヤクツヤハダコメツキ *H. desertor yakuensis*（屋久島上屋久町白谷雲水峡, ♂, 13.6 mm）; **50**, ヒメアオツヤハダコメツキ *Mucromorphus miwai miwai*（長野県王滝村御岳, ♂, 10.9 mm）; **51**, ホソツヤヒラタコメツキ *Liotrichus affinis hypocrita*（長野県長谷村北沢峠, ♀, 12.0 mm）; **52**. ニホンフトヒラタコメツキ *Actenicerомorphus nipponensis*（岐阜県高根村日和田高原, ♀, 14.8 mm）; **53**, ミヤマフトヒラタコメツキ *A. kurofunei*（岐阜県白川村大白川林道, ♀, 15.5 mm）; **54**, ツカモトフトヒラタコメツキ *A. tsukamotoi*（岐阜県根尾村水鳥谷渓谷, ♂, 11.6 mm）.

分布域は前種とほぼ同じであるが，より高地に分布し花上に多い．以前前種の変異型とされた期間が長く続いたので，混入して記録されていた可能性が強い．前種に比し全体が軟弱でより小さく，脚部は多少とも褐色気味で黄橙色のものも多く，前胸背板点刻は極端に微小で且つ

疎，稀に上翅が茶褐色気味になる個体も見られ，九州本土産個体群には前胸が美麗な赤橙色のものもあり或いは別亜種かも知れない．また別亜種が屋久島(*satouchii*)と済州島(*insularis*)に分布する(Kishii, 1961: 49-50; Kishii et Paik, 2002: 9)．

Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor (Candèze, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ (写真 48)

長野県開田村西野，1 ♂，20. VII. 1992; 王滝村御岳鈴ヶ沢，1 ♀，23. VII. 1994; 御岳八海山(1800-2000 m)，1 ♂，31. VII. 1993; 1 ♂，24. VII. 1994.

静岡県水窪町門桁山(1300-1375 m)，1 ♂，12. VII. 1992; 同(1200-1300 m)，1 ♂，24-25. VII. 1999; 1 ♀，13. VIII. 2000; 同家老平(1200 m)，1 ♂，24. VII. 1999.

岐阜県河合村天生峠，1 ♂，5. VIII. 1995; 同(1300-1400 m)，1 ♂，20. VII. 1990; 高根村日和田高原(1600 m)，6 ♂♂，7. VIII. 1994.

愛知県津具村面の木峠，1 ♂，18. VII. 1999; 1 ♂，13. VII. 2003; 2 ♂♂，1 ♀，11. VII. 2004; 稲武町面の木峠(1100 m)，1 ♂，17-18. VII. 1999.

前胸・上翅・腹部・脚部などの色彩変異の著しい種で多くの異常型名も付されている．また体表光沢も大部分の個体では金緑色であるが，青紫色のものも多く，単に光沢のある黒色の個体もある．これまでに検し得た資料では東北から中部地域のほぼ半数個体で上翅が茶褐又は黄褐色を呈し，東海以西の地域では通常の黒色型が多く茶褐色型は 10-15 %程度で著しい差がある．この茶褐色のものは Lewis(1894: 200)が和田峠の資料で変異型とした個体(*Athous virens*, var. *brunneipennis*)と同じものと思われ，*virens* はその後本種のシノニムとされた．またこの上翅茶褐色個体は近畿圏以西に多い別種 *kibane* キイロツヤハダの雌などの大型個体と似るが，触角第 3 節形状，前胸背点刻の状態，前胸後角部形状などで異なる．ツヤハダコメツキ類で上翅が茶褐色又は黄褐色型のものは *kibane* の大部分の個体，伊豆諸島分布の *secessus* の亜種 *izuinsulanus* イズツヤハダの大部分，*sinuatus* コクロツヤハダで稀に見られる．本種の茶褐色型は *secessus* のそれに似ているが，これら類似種の触角第 3 節形状が幅広の三角形鋸歯状であるのに対し，本種では第 3 節も前節の延長状の長三角型で明瞭な鋸歯状でないこと，前胸背点刻が大きく密，後角部先端と隆起線末端はあきらかに分離している点などで区別できる．

Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor yakuensis Kishii, 1969 ヤクツヤハダコメツキ (写真 49)

鹿児島県上屋久町白谷 17 号支線，1 ♂，11. VII. 1986; 同小瀬田，1 ♀，12. VII. 1986; 同大株歩道，1 ♀，11. VII. 1995; 同平瀬林道，1 ♂，7. VII. 2002(LT); 同白谷雲水峡，1 ♂，1 ♀，12. VII. 1995; 1 ♂，8. VII. 2002; 1 ♂，9. VII. 2002.

本種の屋久島・対馬・奄美大島の個体群では特に体色変化が顕著で，更に他の特徴でも変異が認められ，それぞれの島特有の別亜種とされている(対馬: *taishu*; 奄美大島: *amamicola*; 済州島: *chejuanus*)．屋久島のものは腹部が赤橙色になる個体が極めて多い．

Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyaneus (Motschulsky, 1866) ルリツヤハダコメツキ

長野県諏訪市霧ヶ峰池のくるみ，1 ♀，5. VII. 1997; 木曽福島町東山土場，1 ♂，1 ♀，20. VII.

1986; 2 ♂♂, 2 ♀♀, 5. VII. 1987; 1 ♂, 26. VII. 1987; 1 ♀, 5. IX. 1987; 同下中沢, 1 ♂, 20. VII. 2003; 王滝村九蔵(1100 m), 3 ♀♀, 21. VII. 1991; 南木曽町上在郷, 1 ♀, 19. VII. 1997; 長谷村戸台, 1 ♀, 28. VII. 1985; 同三峰川上流, 1 ♀, 2. VIII. 1986.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 29. VII. 1988.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♀, 27. VI. 1998.

光沢の強い美麗な青藍色で強固な上翅の本属では極めて珍しい体形の種で, 類似のものはユーラシアに広く分布する多くの種には見られず, 北米産の *morio* が黒色であるが体構造では本種同様極めて強固で異質である. 北海道から九州までの本土と島嶼では奥尻・国後・隠岐の山地で見られる本邦固有の種で, 雄個体に比し雌が極めて多く得られる傾向がある.

DENDROMETRINAE(カネコメツキ亜科) : **Senodoniini**(アオツヤハダコメツキ族)

Mucromorphus miwai miwai Kishii, 1962　ヒメアオツヤハダコメツキ(写真 50)

長野県王滝村八海山(1800-2000 m), 1 ♂, 31. VII. 1993; 1 ♂, 24. VII. 1994; 同御岳田ノ原(2000 m), 5 ♂♂, 27. VII. 1992; 1 ♂, 24. VII. 1994; 1 ♂, 29. VII. 1995; 1 ♂, 20. VII. 1997; 長谷村北沢峠付近, 1 ♂, 31. VII. 1987; 同仙丈岳馬の背, 2 ♂♂, 1 ♀, 31. VII. 1987; 八千穂村麦草峠(2100 m), 1 ♂, 7. VII. 2001.

冷涼高所性の種で本邦特有の固有属一種のみ知られる美麗なコメツキである. 中部山岳地の南北両アルプス高山地帯が本種の南西分布限界と見られ, 東北では山形・福島からの報告例もある. 北海道高地と利尻島からは次項の別亜種が知られ, 特異な形態と強い緑色金属的光沢で分かり易い. 共に飛翔中の雄個体が多く雌は少ない傾向が強い. またその系統的な位置は研究者によって説が分かれていて更なる検討を要する. カネコメツキ亜科は多くの族と亜族に分けられ, これも定説的なものは確定していない.

Mucromorphus miwai yushiroi W. Suzuki, 1985　アオツヤハダコメツキ

北海道上川町三国峠, 1 ♀, 19-23. VII. 1988, 中村司 leg.; 羅臼町知床道路羅臼湖入口, 2 ♂♂, 20. VII. 1998.

本州脊梁山系の高山に分布する原名亜種に比し, 本亜種の方が大型で緑色金属光沢も強く触角はより暗色である. 三輪(Miwa, 1934: 113)により北海道大雪山雲ノ平・倶知安・利尻島・西駒ヶ岳・日光・鞍馬山の資料を基に *Athous (Crepidophorus) montanus* の名で記載され, 鈴木(W. Suzuki, 1985: 88-89)により Candèze(1860)の *Athous montanus* のホモニムである事が分かり上記種小名となった. なお三輪の報じた京都市鞍馬山からの資料はデータ誤記と考えられる. 北海道では低高度の山地でも見られ利尻島と国後島からも記録されている.

DENDROMETRINAE(カネコメツキ亜科) : **Prosternini**(ヒラタコメツキ族)

Liotrichus affinis hypocrita (Lewis, 1894) ホソツヤヒラタコメツキ(写真 51)

長野県長谷村北沢峠付近, 1 ♀, 31. VII. 1987.

前種と同じく南北両アルプス高山帯以北に見られ，ヨーロッパ原産で極東北域まで分布する属基本種であるが，本州産個体群は Lewis が独立種とした記載種がその本土固有亜種(岸井, 1985a: 10)，北海道・利尻島・南千島諸島・樺太・ロシア沿海州・中国東北分布のものは，幌筵島資料で独立種とされた *kurilensis*(Miwa, 1928a: 144)がその亜種とされている(大平・楠井, 1975: 24)．しかし Gurjeva(1989: 42-43)はロシア全域分布のものを *affinis* とし，本邦産の *hypocrita* は独立種で *kurilensis* をその亜種としたが，筆者が検した沿海州と中国東北産資料は *kurilensis* と見られる(岸井, 2000: 7-8)．雌個体は雄に比して著しく肥大していて一見別種の感があり，かって別種(*alpensis*)と見なされていた事もある(Miwa, 1928a: 143; Kishii, 1985: 10)．

Acteniceromorphus selectus (Candèze, 1865) エゾフトヒラタコメツキ

北海道上川町三国峠, 1 ♀, 19-23. VII. 1988, 中村司 leg.; 生田原町安国, 1 ♀, 20. VII. 1988, 中村司 leg.; 羅臼町ルサ川林道, 1 ♀, 21. VII. 1998; 幌加内町白樺, 1 ♀, 10. VII. 1999; 留辺蘂町石北峠(800-1000 m), 2 ♂♂, 11. VII. 1999.

本属の基本種で，Gurjeva(1986: 552)は前属の亜属と見なし，Tarnawski(1996: 593)もその様に扱っている．この両グループは一般的な形態ではよく似ているが異なる属とみて好いと思う．前属の前胸背板後角の隆起線は極めて明瞭で長く，前胸腹板側縁線は単純で後端部のみ僅かに二重平滑，前胸腹板突起は基部で明瞭に内方に湾曲するが，本属では前胸背板後角の隆起線は弱く極めて不分明で，前胸腹板側縁線は少なくとも前端部と後端部は多少とも二重平滑状，前胸腹板突起は後方へ直線上に伸びるなどの点で異なる．現在 21 種程が知られ中東とロシア東部に 3 種，北米に 4 種分布する以外は全て邦産種である．本邦産 14 種の内北海道からは本種のみで奥尻島と国後島を含めて特有の固有種である．夏期エゾニュウなどの多くの花上で普通に見られる代表的な北海道のコメツキと言えよう．

Acteniceromorphus nipponensis Ohira, 1973 ニホンフトヒラタコメツキ(写真 52)

長野県大鹿村大塩, 1 ♂, 25. V. 2003; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♀, 13. VI. 2004.

岐阜県高根村日和田高原(1600 m), 1 ♀, 16. VI. 1991.

高地性の種で長野・静岡以北～青森からの記録は信頼でき，今回の岐阜県も分布は当然であろう．和歌山と広島からの報告例があるがこれは再検が必要と思われる．上翅が赤色から黄赤色の本邦産種は 3 種知られ，本種の上翅は最も濃い赤紅色，前胸背板光沢は紫色を帯び，前胸背板中央の縦陥部は殆ど消失して普通は認められず，冷涼高地の花上で得られるが少ない．

Acteniceromorphus kurofunei (Miwa, 1934) ミヤマフトヒラタコメツキ(写真 53)

山梨県須玉町増富, 1 ♂, 2. VII. 1988.

長野県長谷村戸台, 1 ♀, 25. V. 2003; 大鹿村小渋湖畔, 1 ♀, 29. V. 1999; 同鳥倉山林道, 1 ♀, 20. VII. 2001; 同大塩, 2 ♀♀, 25. V. 2003.

岐阜県白川村大白川林道, 4 ♂♂, 3 ♀♀, 18. VI. 1988; 本巣町日当土場, 1 ♀, 10. V. 1986; 同谷山谷, 1 ♂, 1. V. 1988; 根尾村水鳥谷, 1 ♀, 29. IV. 1987.

兵庫県波賀町音水渓谷, 1 ♂, 28. IV. 1985.

本州から九州までの山地で飛翔中のものや各種花上で見られ，本属としては最も普遍的な分

布をする種であるが，近来多くの類似種が記載されているので同定には注意を要する．特に四国・九州の資料では詳しい比較検討が必要である．体表はほぼ真鍮様光沢を帯び，微軟毛も黄色で，脚部は赤褐色である．総じて雄生殖器構造に分かり易い差異点は少なく，雌貯精嚢内は一面に淡い網目構造状の膜で被われ，種間でも殆ど同様で分類の難しいグループである．

Acteniceromorphus tsukamotoi Kishii, 1966 ツカモトフトヒラタコメツキ(写真 54)

長野県王滝村御岳鈴ヶ沢(1100-1400 m)，1 ♂, 27-28. VII. 1991; 長谷村三峰川上流，1 ♂, 2. VIII. 1986; 1 ♂, 1. VIII. 1987.

岐阜県根尾村水鳥谷渓谷，1 ♂, 5. V. 1986.

前種によく似るが銀白色の体毛，濃赤色の脚部は端部が暗色になる傾向が強く，体表光沢は強いが真鍮様ではなく寧ろ鈍い鉛色状である．富山・山梨・滋賀・和歌山から記録され，山形・石川・長野・京都・兵庫・鳥取の資料も検している．

Acteniceromorphus ozeanus (Nakane et Kishii, 1954) クロフトヒラタコメツキ(写真 55)

長野県川上村梓山戦場ヶ原，1 ♀, 13. VI. 2004.

東北・北陸・関東・中部地域の山地から知られ，京都北山地域の大悲山からの個体(1 ♂, 24. V. 1948, 上住泰 leg.)も検しているが，以後近畿圏からの報告例はない．体は一様に黒く，体表の微軟毛も前種に似て白色，脚部は殆ど黒色であるが稀に部分的に褐色を呈する個体もある．しかし上翅の圧平度が強く，間室も圧平され隆まることはない．本属の種は一部を除いて多くの種で体形，色彩，生殖器構造がよく似ているので，同定には入念を要するグループである．

Acteniceromorphus fulvipennis (Lewis, 1894) アカハネフトヒラタコメツキ(写真 56)

長野県長谷村戸台，1 ♂, 25. V. 2003.

上翅の赤い邦産本属の種は本種及び *chlamydatus* ベニバネフトヒラタと前述の *nipponensis* の 3 種が知られ，長野県からは本種のみ記録例がない様である．上翅色彩は橙色味が強く，前胸背板は真鍮様の光沢を持ち中央縦溝は明瞭である．本種はより低高度の山地で見られ，よく似た *chlamydatus* は本種分布域より南西地域に多いようで，北陸・関東・中部・東海地域にも分布すると思われるが，その記録例については個々に再検討が望ましい．

Corymbitodes gratus (Lewis, 1894) ドウガネヒラタコメツキ

新潟県板倉町魚倉，3 ♂♂, 31. V. 1987, 金田吉高 leg.

富山県利賀村水無，1 ♀, 23. V. 2004.

長野県王滝村御岳八海山，1 ♂, 2 ♀♀, 19. VII. 1986; 1 ♀, 20-21. VII. 1991; 1 ♂, 23. VII. 1995; 同御岳，1 ♂, 5. VII. 1987; 開田村開田高原西又，1 ♂, 24. V. 2003.

岐阜県高根村御岳日和田高原，1 ♂, 1 ♀, 3. VII. 1988.

本属はシベリア中東部・日本列島・台湾・ミャンマー・北米に 20 種程分布し，本邦からは 7 種記載されていて，上翅黒色で金属的光沢をもつ 4 種(*concolor, gratus, kiiensis, takabai*)と，上翅は黄橙色又は濃茶褐色の 3 種(*nikkoensis, rubripennis, obscuripes*)があり，本種を除き他は全て本邦固有種である．本種は本邦本土全域と奥尻・国後・佐渡・隠岐・御蔵・対馬・屋久などの付属諸島からも知られ，樺太の記録(Gurjeva, 1989: 53)もある．里山から高地の各種花上で見られ燈火にも

飛来する．外部形態で固有の幅広の強壮な体と青紫色光沢の特徴が明らかな種で分かり易い．本属の種も前属と同じように雄生殖器構造に差異点は少なく，雌貯精嚢内は網目構造状の膜で被われていて種間の差異点を見いだすのはやや困難である．

Corymbitodes concolor (Lewis, 1894) ホソヒラタコメツキ

長野県長谷村戸台, 1 ♂, 2. V. 2004; 鬼無里村戸隠西岳林道, 1 ♂, 1 ♀, 31. V. 1980.

岐阜県白川村白山大白川林道, 3 ♀♀, 18. VI. 1988.

前種と同じ様な地域と環境で見られるが，付属諸島からの記録はない．前種より細く華奢で鉛状から薄い真鍮様の光沢で被われる．最近本種と前種の中間的特徴を持つ 2 種(*kiiensis*, *takabai*)が相次いで記載されているので，同定には注意を要する．また一般的には本種の雌個体では脚部が鮮明な黄色のものが多く，雄個体では暗化して黒褐色のものが多い．

Paraphotistus niger (Miwa, 1928) クロオオヒラタコメツキ(写真 57)

富山県上平村桂湖畔, 1 ♂, 2. V. 1999.

長野県長谷村戸台, 1 ♂, 3. V. 2003; 1 ♂, 25. V. 2003; 開田村開田高原西又, 1 ♀, 24. V. 2003.

岐阜県本巣町谷山谷, 1 ♂, 1. V. 1988.

本種は Miwa(1928a: 142)が Candèze(1873: 25)記載の *Corymbites notabilis* の変種として，Mt. Takao からの資料で発表したが，後に Lewis(1894: 259)の *Corymbites praenobilis* と同じものとした(Miwa, 1934: 121)．しかしこの Lewis 種は *Actenicerus* 種であることが分かり，三輪命名のものが独立種とされた(W. Suzuki, 1987: 3)．本属は本邦固有属で 3 種 1 亜種が分布し，内 1 種 *notabilis* は済州島（金源澤, 1984: 197-211; 1993: 261-441)及び朝鮮半島(Heyden, 1887: 256)からの記録もあるがこれらは共に疑わしい．大型ヒラタコメツキ類の種として上翅の霜降り状斑紋の弱い *Actenicerus infirmus* がこの地域に広く分布していて，これを誤認した可能性が強い．本種の分布域は北陸・関東以西の本土各地と五島列島で余り多い種ではない．また雄交尾器は幅が広く側片先端の鈎状部は特異な形状で他の本族の種には見られないものである．

Actenicerus pruinosus Motschulsky, 1861 シモフリコメツキ

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♂, 18. VI. 1988; 同保木脇, 1 ♂, 4. V. 2002; 根尾村高尾谷, 1 ♂, 25. IV. 1987.

愛知県稲武町段戸裏谷, 1 ♂, 6. VI. 1993.

邦産シモフリコメツキ類の分化は著しく，現在 24 種 4 亜種ほどが知られているが更に増えそうな状況である．属基本種はヨーロッパ原産でこの地にはこの種のみ分布し(カザフスタン・シベリア西部と北米北東部にも分布)，別にシベリア東部・朝鮮半島・中国東北部と南部・台湾・東南アジアなどから 6 種余り知られる．本種は本邦から最も早く記載された種で，当初は，現在別の独立種と確定している複数種も全て本種の変種とされていた(Miwa, 1934: 115-116)．しかし一般の外部形態のみならず，本属の両性生殖器形状には明瞭な種間相違点が認められるため多くの種の存在が明らかになった．本種は赤銅色の光沢が強く上翅の白色毛斑と，疎で大きな前胸背板点刻は中央部では互いに明瞭に離れ，前胸背板光沢は極めて明瞭である．北海道から九州・粟島・隠岐・平戸島・福江島までの広い範囲から記録されていて，国後島・カムチャツカ・樺

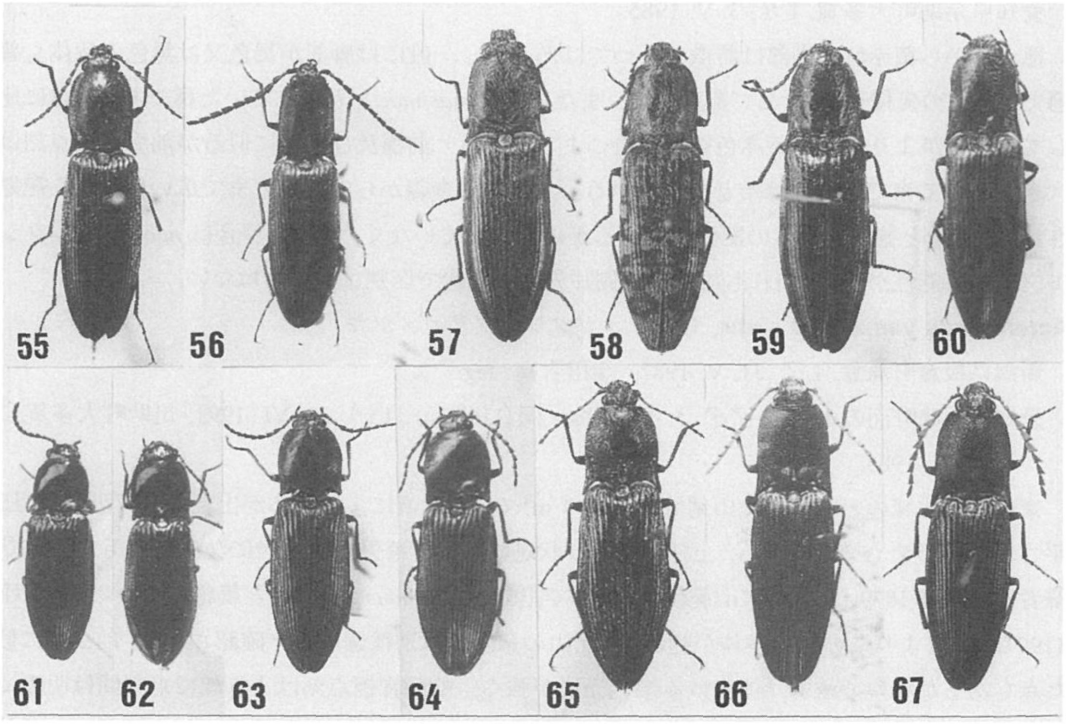

写真 **55-67**. **55**, クロフトヒラタコメツキ *Actenicerомorphus ozeanus* (長野県川上村梓山戦場ヶ原, ♀, 14.3 mm); **56**, アカハネフトヒラタコメツキ *A. fulvipennis* (長野県長谷村戸台, ♂, 11.9 mm); **57**, クロオオヒラタコメツキ *Paraphotistus niger* (岐阜県本巣町谷山谷, ♂, 20.9 mm); **58**, シモフリコメツキ一種 *Actenicerus* sp. (長野県開田村開田高原西野, ♀, 19.6 mm); **59**, オンタケシモフリコメツキ *A. toyoshimai* (長野県王滝村御岳田の原, ♂, 14.6 mm); **60**, シコクシモフリコメツキ *A. naomii* (徳島県東祖谷山村剣山, ♀, 15.8 mm); **61**, チャグロヒラタコメツキ *Calambus mundulus* (長野県王滝村御岳八海山, ♂, 8.2 mm); **62**, クロツヤヒラタコメツキ *C. japonicus* (静岡県水窪町門桁山, ♀, 7.2 mm); **63**, オオクロヒラタコメツキ亜種 *Pseudanostirus dilatatus* subsp.(岐阜県高根村日和田高原, ♂, 12.1 mm); **64**, 同 (静岡県静岡市二軒小屋西俣, ♀, 12.4 mm); **65**, ミヤマヒラタコメツキ *Mosotalessus impressus sachalinensis* (岐阜県高根村日和田高原, ♀, 15.7 mm); **66**, アカヒゲヒラタコメツキ *Neopristilophus serrifer serrifer* (鹿児島県高山町甫与志岳, ♂, 19.2 mm); **67**, ヤクアカヒゲヒラタコメツキ *N. serrifer yakuanus* (屋久島上屋久町平瀬林道, ♂, 12.2 mm).

太からの報告例もある. しかし筆者は信頼できる北海道産の資料を検していないのと, 北海道・南千島諸島にはよく似た別種 *kurilensis* チシマシモフリが広く棲息しているので, 北海道など北方地域には分布しないものと考えている.

Actenicerus kiashianus (Miwa, 1928) ホソシモフリコメツキ

長野県小谷村鎌池, 2 ♂♂, 22. VI. 1996.

愛知県足助町大多賀, 1 ♀, 3. V. 1985.

種小名から黄赤色の脚部は特徴の一つではあるが，一般には脚部が褐色又は黒色の個体も普通で，前種の変種(var.)として記載され，また以前 *yamashitai* ともされていた種である．雄に比して雌の方がより鮮明な黄赤色脚部を持つようである．前種及び次種に似るが前胸背板点刻は大きく極めて密で点刻間は殆ど接している．本州では青森から中国地方まで広い地域から記録され，北海道と徳島県からの記録例もあるが確認はしていなく，四国の場合は *naomii* シコクシモフリの可能性が強い．何れも雄交尾器側片先端の形状で区別は難しくはない．

Actenicerus yamashiro Kishii, 1998　コガタシモフリコメツキ

新潟県板倉町魚倉, 1 ♂, 31. V. 1987, 金田吉高 leg.

愛知県稲武町面の木峠, 2 ♂♂, 5. VI. 1988; 同(1100 m), 1 ♂, 20. VI. 1993; 足助町大多賀, 1 ♂, 3. V. 1985.

京都盆地北域のいわゆる北山地域(600-800 m)で 5-6 月頃に多数個体が出現し，小型軟弱で圧平された体形をもつ種である．上翅の霜降り状斑紋が殆ど消失し無紋状になるものが大部分で，筆者は Lewis(1879: 157)が Kii(紀伊)の資料で記載した *Athous aerosus* と誤認していたが，大平(1997: 93)によりこの種の実体が判明し，北山の個体群は別種個体群と確認された．前 2 種に似た点もあるが小型で軟弱，体表は赤銅色光沢が強く，前胸背板点刻はより疎で点刻間は明瞭に離れ平滑，上翅間室点刻もより微細で，雄生殖器側片先端の側方突起はより短く端部は半球状に丸まる．北陸・東海・近畿・中国の低山地に広く分布し，前述した様に京都北山個体群では上翅霜降状毛斑は極めて不明瞭で，雄では一様な灰白毛で被われ無紋状のものが多いが，分布域が近畿圏より離れるに伴いこの毛斑は両性共に明瞭になる傾向が強いようである．

Actenicerus orientalis (Candèze, 1889)　オオシモフリコメツキ

愛知県足助町平沢, 1 ♀, 3. V. 1985.

岡山県中央町西幸, 1 ♂, 1. VI. 1986, 小田中健 leg.

邦産種で大型の上翅毛斑が明瞭な個体は，従来その殆どが本種と見られていたが，雄生殖器構造の検討が進むにつれ，中には多くの別種個体群が包含されていたことが判明した．続く 3 種もそうで，他にも未記載と見られる種を含めて幾つかの別種と見られる個体群が存在する．現在本州・四国・九州の殆どの地域と佐渡島から報告されているが，検した四国からの資料は全て *naomii* シコクシモフリで四国分布は疑わしく，九州本土からの資料では本州産のものとは異なる特徴も見いだされるので再検が必要で，未記載種の可能性もある．

Actenicerus sp. シモフリコメツキ一種(写真 58)

長野県開田村開田高原西野, 1 ♀, 24. VII. 1992.

長野県には本属の未記載と見られる個体群が複数分布し，今回の開田高原の資料もその一つで，これと同じものを山之内町と岐阜県神岡町からも複数個体見ており，前種や次種との間には幾つかの類似点もあるので精検後明確にしたい．

Actenicerus toyoshimai Arimoto et Watanabe, 1993 オンタケシモフリコメツキ(写真 59)

長野県王滝村御岳田の原, 1 ♂, 27. VII. 1992

岐阜県高根村御岳日和田高原(1600 m), 1 ♂, 22. VI. 1997.

御岳の高所湿地帯に発生する種で，近似の種とは短大な体形や短い触角などで分かり易いが，近似種などとの雄生殖器構造の差異点は小さい．今回の資料は基産地と同じ地域のもので，基準資料(paratype)に比して上翅の霜降状斑が殆ど認められず，前胸背板と上翅間室の点刻などは一見 *ohbayashii* ムネダカシモフリに極めて似るが大型で触角が著しく短い．本邦産のシモフリ類には局所的分布が顕著な種もあり，飛騨山系には本種以外にも，乗鞍岳周辺及び上宝村から大多和峠周辺に類似の未記載と見られる別種個体群が得られている．

Actenicerus naomii Kishii, 1996 シコクシモフリコメツキ(写真 60)

徳島県東祖谷山村剣山, 1 ♂, 17. VII. 1988.

本種は従来 *orientalis* オオシモフリとして報告されていたが，四国全土からの多くの資料を検した所，近畿・中国・九州各本土の *orientalis* と見なされるものとは異なり，体はやや細く小型で上翅毛斑はより明瞭などの点で分かり易いもので，今のところ四国山地からの *orientalis* と認められる個体は見ていない．

Actenicerus aerosus aerosus (Lewis, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ

富山県利賀村水無, 1 ♀, 23. V. 2004.

長野県開田村開田高原西又, 1 ♀, 24. V. 2003.

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 1. VII. 2001.

岐阜県白川村保木脇, 1 ♂, 1 ♀, 18. V. 2003.

愛知県瀬戸市定光寺, 1 ♂, 11. VI. 2004.

邦産種の中では特異な形態を持つ種で,これまでにも異名で発表されたものが多く(*modestus, sjaelandica chokai* ab. horioi, *otsukae, pruinosus* var. minoensis etc.)，両性生殖器も形態的には本属と同系統のものであるが他種とは些か異なっている．本州・四国・九州・隠岐から記録されていて，色丹島と済州島からの報告例もあるがこれらは共に疑わしい点がある．また屋久島には別亜種(*miyanouranus*)が分布する．

Calambus mundulus (Lewis, 1879) チャグロヒラタコメツキ(写真 61)

長野県王滝村御岳八海山, 1 ♂, 25. VII. 1992; 1 ♂, 1. VIII. 2003; 同御岳田の原, 1 ♀, 27. VII. 1992; 同(2000 m), 1 ♀, 20. VII. 1997.

邦産のこの属は 3 種知られ，本種と次種は共に本州・四国・九州・隠岐の同じ様な環境で得られ，他の 1 種(*kusuii*)は北海道に分布する．従来北海道・国後・択捉・樺太から本種名で記録されていた種はこれと見られる．本種は茶褐色気味の体色と，触角節の形状などで次種とは容易に区分できる．また冬季ケヤキの樹皮下で越冬中のものを多数得たことがある．

Calambus japonicus (Fleutiaux, 1902) クロツヤヒラタコメツキ(写真 62)

長野県安曇村梓川上流, 1 ♂, 9. VII. 1988; 長谷村戸台, 1 ♂, 19. V. 2002; 開田村開田高原西又, 1 ♀, 24. V. 2003.

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 1. VII. 2001; 1 ♀, 12. VII. 2003.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♂, 4. VIII. 1990; 高鷲村ひるがの高原, 2 ♀♀, 17. V. 2003.

愛知県稲武町面の木峠, 1 ♀, 28. VI. 1986.

前種と分布域もほぼ同じで，漆黒の体色とやや数珠状の触角の特徴を除くとよく似ている．本種は対馬からも得られているが同じ種かやや疑問の点がある．

Anostirus (Ipostirus) daimio (Lewis, 1894) ダイミョウヒラタコメツキ

岐阜県白川村白山大白川林道, 2 ♀♀, 18. VI. 1988; 1 ♂, 16. VI. 2001; 高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 8. VIII. 1999; 1 ♂, 1 ♀, 16. VI. 1991; 1 ♀, 10. VII. 1994; 1 ♀, 23. VII. 1995.

北海道から九州と北方付属諸島及び佐渡・隠岐の広い範囲から知られ，黄色上翅の顕著な黒紋で著名である．本属はユーラシア大陸に多くの種が分化しているが，本邦には本種と属の基本種の本邦亜種 *A. (A.) castaneus japonicus* ツマグロヒラタの 2 種が分布する．本種はシベリア東部や樺太で多く見られる *boeberi* ウスモンヒラタの有紋型と似た点があり，朝鮮半島から本種名で報告されたものはこれの有紋型を誤認した可能性もある．

Pseudoanostirus dilatatus (Miwa, 1928), subsp. オオクロヒラタコメツキ亜種(写真 63, 64)

静岡県静岡市二軒小屋西俣, 1 ♀, 4. VIII. 2001.

岐阜県高根村御岳日和田高原(1600 m), 1 ♂, 22. VI. 1997.

本属は Dolin(1964: 120)により前属の亜属として創設され, Gurjeva(1984: 295-297; 1989: 155-176)は独立属としてユーラシア大陸中北部で多くの種(18 種, 1 亜種)を本種を含めて記録した．邦産種は本種のみで樺太・北海道・利尻・国後などと，本州ではこれまで群馬・山梨・長野三県の冷涼高地でのみ知られ稀な種である．本種については北海道産のものについて大平・飯島(2001: 47-51)が詳しく解説しているが，本州産個体群については記録例が少なく特にその雄個体の精査を望んでいた(岸井, 2003b: 6-7)．今回の日和田高原の資料は雄で，交尾器側片は北海道産個体と比して太く短め且つ直線的に伸び，北海道のものの様に明瞭に内方に曲がることなく，先端部は丸まり鈍端状ではない点などで異なる．また雌貯精嚢内の角質小突起は本州産のものに比し明らかに大型である点などでも異なり，両地域に分布する本種はそれぞれ別亜種群と見られる．Miwa(1928: 143)は札幌産個体で記載しているので，本州産個体群は別亜種となると見なされる．なお静岡・岐阜両県からの記録は初めてで，山梨県瑞牆山で得られた雌個体 3 頭の様な赤褐色上翅ではなく共に完全な濃黒灰色であった．

Mosotalesus (Mosotalesus) impressus sachalinensis (Miwa, 1928) ミヤマヒラタコメツキ(写真 65)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 30. VII. 1989.

本種はユーラシア大陸中北部の冷涼高地に広く分布し，南限分布域は本州中部高山帯とみられ，樺太から本邦北部に見られる個体群は別亜種(樺太産個体で記載)とされている．朝鮮半島とロシア沿海州からの記録もあるが本亜種との関連は明らかでない．当初 Miwa(1928: 141)は和名をカラフトヒラタコメツキとしたが，長く上記名(大平, 1954: 30, as *Ctenicicera-Selatosomus impressa*[!])が用いられているので変えることもないと思う．また従来 *Selatosomus* 属種とされていたが，構造上の差異点から異質性が高く，その別新亜属 *Mosotalesus*(岸井, 1977a: 27, 31)として創設されたが，Gurjeva(1989: 181)と Tarnawski(1995: 2)は昇格して独立属と見なした．主

として中央アジアとその周辺から 15 種ほど記録され，別亜属 *Setasomus* も新設され 3 種が北米などから報じられている．なお大台ヶ原山からの報告例もあるがこれは疑わしい．

Neopristilophus serrifer serrifer (Candèze, 1873)　アカヒゲヒラタコメツキ(写真 66)

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 4. VII. 1997.

鹿児島県高山町甫与志岳(FIT), 3 ♂♂, 16-19. VII. 2004, 野田亮 leg.

他の邦産種に比し外観が幾分エキゾチックな感じの風貌をもつ本種は，ヨーロッパ南東部分布の属基本種 *depressus* に類似し，本属唯一の本邦固有種で本州から九州まで広く分布している．全世界からほぼ 30 種記載され，その内 20 種程がアフリカ産で他はマダガスカル・インド・東南アジア・北米などに分布する．朝鮮半島からも多くの資料記録が報告(Kim, 1978: 114, pl. xiii, EL. 12)されているが，付された写真の個体は明らかに本属の種では無く，多分 *Melanotus* クシコメツキ種と見られるもので，本種の朝鮮半島分布は疑わしい．

Neopristilophus serrifer yakuanus Kishii, 1982　ヤクアカヒゲヒラタコメツキ(写真 67)

鹿児島県上屋久町宮之浦, 4 ♂♂, 12. VII. 1995; 同大株歩道, 1 ♂, 11. VII. 1995; 同平瀬林道, 2 ♂♂, 6. VII. 2002(LT).

屋久島のものは両性生殖器構造に明瞭な差異点があり別亜種として記載されたが，Tarnawski (1996: 629)は独立種としている．

Selatosomus (Selatosomus) puncticollis (Motschulsky, 1866) コガネコメツキ

北海道生田原町生田原駅土場, 1 ♀, 19. VII. 1994, 芦田久 leg.; 札幌市八剣山, 1 ♀, 25-27. VI. 1983, 中村司 leg.

静岡県静岡市二軒小屋東俣, 1 ♀, 5. VIII. 2001.

上翅が青緑色または青藍色の金属的光沢をもつ美麗な冷涼高地性種で，北海道・北方付属諸島・本州中部以北と樺太に分布し，本州西端分布域は富山・長野あたりで，京都市貴船渓谷産のラベルをもつ雄個体(1. VIII. 1963, J. Kawai leg.)を検したが，この個体の上翅に金属的光沢はなく，一様な黒紫色で北海道産個体に屡々見られ，本州産では少なく山形県鳥海山からの 1 個体を見たのみである．なおその後京都近辺での再発見はなく分布の可能性は小さい．韓国からの記録(Kon-Kuk Univ., 1994:159)もあるが，これはよく似た *coreanus* の誤認と見られる．

Selatosomus (Pristilophus) onerosus (Lewis, 1894) トラフコメツキ

岐阜県谷汲村岐礼谷, 1 ♂, 12. V. 1985.

本邦固有種で早春から初夏の候，本州から九州までの低地から里山に掛けて広く分布し，邦産種では珍しい色彩斑紋を持つ種であるが最近は少ないようである．ユーラシア大陸北部に広く分布する同じ亜属の *cruciatus* に似るが，これはより強壮で鮮明な斑紋と短い触角及び雄生殖器の明らかな違いをもつ．また北米産の *semivittatus* に似た色彩斑紋のため誤認されたこともある．本邦からは本種によく似た，より小型の別種 *pacatus* コガタトラフが東京からの資料で本種と同時に記載されたが，これまで本種の小型個体と見られていて確実な再報の例はない．本種 *onerosus* とされる資料にはこの様な小型個体も屡々得られており，一般に得られる大型個体とは生殖器側片先端部に微妙な差異点もあり，*pacatus* が独立種の可能性はある．

ELATERINAE(コメツキ亜科) : **Megapenthini**(ツヤケシコメツキ族)

Gamepenthes versipellis (Lewis, 1894) メスアカキマダラコメツキ(写真 68)

北海道幌加内町白樺, 1 ♂, 26. VII. 1998; 留萌市幌糠, 1 ♀, 27. VII. 1981, 中村司 leg.

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♂, 1 ♀, 20. VIII. 1988.

長野県王滝村御岳鈴ヶ沢(1100-1400 m), 1 ♀, 25. VII. 1991; 1 ♀, 27-28. VII. 1991; 同八海山(1650 m), 1 ♂, 2 ♀♀, 29. VII. 1988; 南木曽町大平峠, 2 ♀♀, 2. VIII. 1997.

静岡県水窪町門桁山, 2 ♂♂, 22. VII. 2000.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 2 ♂♂, 1 ♀, 6. VIII. 1988; 白川村白山大白川林道(1200-1400 m), 1 ♀, 7. VIII. 1988; 根尾村温見峠(700-1050 m), 1 ♀, 9. VIII. 1991.

宮崎県霧島山皇子原, 1 ♂, 27. VII. 1989, 森一規 leg.

本種は色彩体形共に性差の明瞭な種であるが, 今回の静岡県門桁山で得られた 2 頭の雄の一頭は極めて小型(体長 5.5 mm, 写真 68)で且つ黒化傾向が強く, 特に上翅は基部に不明瞭な黄褐色縦斑を持つのみであった. 雄個体は小型ではあるが一般には 6.4 ～ 8.0 mm で, 6 mm 未満の個体は初めてである. 北海道から九州まで満遍なく知られ, 夏期低地から山地の各種花上で見られるが, 付属島嶼からの記録例は無いようである.

Gamepenthes ornatus (Lewis, 1894) コキマダラコメツキ

長野県木曽福島町永田, 1 ♂, 1 ♀, 20. VII. 2002.

岐阜県根尾村温見峠(900-1000 m), 1 ♂, 10. VIII. 2002 (LT).

愛知県旭町旭高原元気村, 2 ♀♀, 27. VI. 1998.

前種に似るがより細型で両性とも前胸は黒く, 上翅基部の黄斑は太く肩部も黄色で黒くなることはない. 分布域も生息環境もほぼ同じであるが, 北海道からは未発見で前種より少ない.

Gamepenthes pictipennis (Lewis, 1894) キマダラコメツキ

福島県福島市梨平茂庭林道, 1 ♀, 2. VIII. 1983, 中村司 leg.

長野県長谷村三峰川上流, 1 ♀, 2. VIII. 1986; 1 ♂, 3 ♀♀, 1. VIII. 1987; 同三峰大曲, 1 ♂, 2 ♀♀, 28. VII. 1985; 上村しらびそ高原, 2 ♀♀, 27. VII. 1985; 木曽福島町東山土場, 1 ♂, 20. VII. 1986.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 20. VII. 1990; 白川村白山大白川林道, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 高根村日和田高原, 1 ♂, 16. VIII. 1992; 1 ♂, 23. VII. 1995; 2 ♀♀, 18. VIII. 2002; 本巣町温見峠(950 m), 1 ♂, 10. VIII. 2002(LT); 2 ♂♂, 1 ♀, 15. VIII. 2003; 中津川市恵那山黒井沢, 1 ♀, 3. VIII. 1987.

愛知県稲武町面の木峠(1100 m), 1 ♀, 1. VIII. 1998.

前 2 種よりは本州の山地に多く見られ, 分布域も似ているが四国・九州からの記録例は極めて少なく, 北海道分布の個体群は次項で述べるように別亜種個体群と見られる.

Gamepenthes pictipennis (Lewis, 1894), subsp.キマダラコメツキ北海道亜種(写真 69)

北海道幌加内町白樺, 1 ♂, 26. VII. 1998.

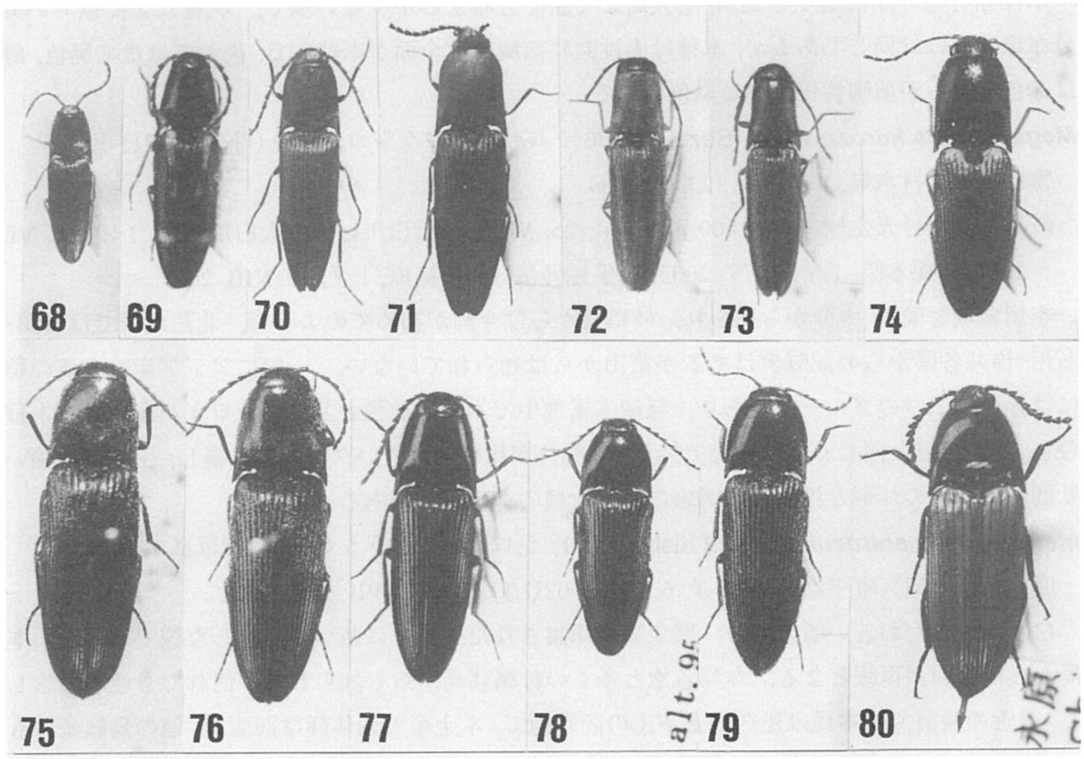

写真 **68-80**. **68**, メスアカキマダラコメツキ *Gamepenthes versipellis*（静岡県水窪町門桁山, ♂, 5.5 mm）; **69**, キマダラコメツキ北海道亜種 *G. pictipennis* subsp.（北海道幌加内町白樺, ♂, 6.1 mm）; **70**, クロサワツヤケシコメツキ *Megapenthes kurosawai*（岐阜高根村日和田高原, ♂, 9.1 mm）; **71**, 同（岐阜県河合村天生峠, ♀, 10.8 mm）; **72**, シロウズツヤケシコメツキ *M. shirozui shirozui*（屋久島上屋久町平瀬林道, ♂, 7.6 mm）; **73**, ホソキコメツキ *Hayekpenthes pallidus pallidus*（屋久島上屋久町平瀬林道, ♂, 7.4 mm）; **74**, ニセコナガコメツキ *Neopenthes pallidihumeralis*（石垣島屋良部岳, ♂, 10.3 mm）; **75**, コナガコメツキ *Ectamenogonus plebejus*（静岡県静岡市畑薙ダム, ♀, 14.9 mm）; **76**, フトナガコメツキ *E. robustus*（長野県開田村開田高原西野, ♂, 13.3 mm）; **77**, ヤクチャイロコメツキ *Haterumelater bicarinatus yaku*（屋久島屋久町大川林道, ♂, 10.3 mm）; **78**, アメイロコメツキ *Kometsukia vesticorni*（岐阜県本巣町温見峠, ♀, 9.6 mm）; **79**, アラハダチャイロコメツキ *Reitterelater rugipennis*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 11.2 mm）; **80**, ハネビロアカコメツキ *Ampedus puniceus*（鳥取県溝口町大山福永原, ♀, 11.7 mm）.

前記の本土産の資料とは外部形態にも差異点があり，雄生殖器形状では更に明瞭な差異点が認められるので互いに別亜種であることは間違いないと見られるが，別種の可能性もあるようなので精査の上改めて述べたい．なお北海道からは既に本種としての記録はあるが少ないようである（佐々木, 1985: 99）.

Megapenthes opacus Candèze, 1873　ムネアカツヤケシコメツキ

静岡県水窪町門桁山（1200-1300 m）, 1 ♀, 24-25. VII. 1999.

本邦固有種で北海道から九州・屋久島まで広く分布するが少ない種で，次種によく似ていて分布環境もほぼ同じであるが，本種は両性共に前胸部は全面が赤紅色で，後者では雄で黒色，雌は赤色であるが前胸背板後縁は黒色である．

Megapenthes kurosawai W. Suzuki, 1986 クロサワツヤケシコメツキ(写真 70, 71)

富山県利賀村水無, 1 ♂, 1 ♀, 23. V. 2004.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 25. VII. 1992; 白川村白山大白川林道, 1 ♂, 16. VI. 2001; 同保木脇, 1 ♀, 18. V. 2003; 高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 10. VIII. 2003.

本州全域と愛媛・大分から知られ，岐阜県からは今回が初めてのようで，北陸地域では新潟・石川・福井各県からの記録例はあるが富山からは知られていない．一般にアジア産の本属の種には体形に二つのグループがあり，邦産本属種中で本種は前種と共にヨーロッパ産の属基本種(*Elater lugens*)と同じく体は強固で黒色，雄触角が比較的に短いグループに属し，圧平度の強い軟弱淡茶褐色の体形と雄触角が明瞭に長い次種のグループがある．

Megapenthes shirozui shirozui Kishii, 1959　シロウズツヤケシコメツキ(写真 72)

鹿児島県上屋久町平瀬林道, 1 ♂, 6. VII. 2002(LT); 1 ♀, 7. VII. 2002(LT).

白水隆先生がお若い頃(1950)，屋久島で採集されたペアーに基づき記載した種であるが，本島からは今回が再報となる．本邦各地と多くの付属諸島からも知られたが何れでも極めて珍しく，最近の検討では本種は屋久島と本土の固有種で，本土産の個体群は別亜種，他の島嶼産のものは触角などの形態差や雄生殖器構造の差異点が明瞭なことなどで，それぞれの島(対馬・奄美大島・宮古島・小笠原母島)での固有別種であることは確実で，近く発表の予定である．

Hayekpenthes pallidus pallidus (Lewis, 1894) ホソキコメツキ(写真 73)

長野県木曽福島町東山, 1 ♂, 5. VII. 1987.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 15. VIII. 2003; 同 (950-1000 m), 1 ♀, 13. VIII. 2004(LT).

鹿児島県上屋久町平瀬林道, 1 ♂, 2 ♀♀, 6. VII. 2002(LT); 1 ♀, 7. VII. 2002(LT); 同白谷雲水峡, 1 ♀, 8. VII. 2002; 屋久町大川林道, 1 ♀, 17. VII. 1993; 同荒川林道, 1 ♂, 14. VII. 1995; 同小楊子林道, 1 ♂, 5. VII. 2002(LT).

一見して前種とよく似た体型や色彩をもつが，前頭横溝が中央部でも広く完全なのが本属で，触角の第 2 節より次節が長くその合計長は第 4 節より長い．前属 *Megapenthes* では前頭横溝の上下両縁が中央で極めて近接し溝が狭まり，触角の第 2･3 節が短小でその合計長も第 4 節より短い．前種と共に燈火飛来性が強く，今回は両種共に同時に採集された．本州・四国・九州・佐渡・粟島・隠岐・屋久島から知られる本邦固有種で，徳之島・沖縄本島・石垣島と西表島にはそれぞれ別亜種(*tokunoshimensis, okinawensis, masakii*)が分布する．

Agaripenthes helvolus (Candèze, 1873)　ヒメホソキコメツキ

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♂, 20. VIII. 1988.

岐阜県本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 15. VIII. 2003.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♀, 27. VI. 1998; 1 ♀, 5. VII. 1998.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 2 ♂♂, 4 ♀♀, 17-18. VII. 2004.

当初 *Procraerus* 属の亜属(*Agaripenthes*)の基本種とされたが, 触角節形態の差異点などでGurjeva(1973: 450)はこれを独立属とし, 筆者もその様に判断している. 本属の種は何れも極めて微小な種が知られ, 本邦から南西諸島の多くと台湾で現在8種程が記載されているが, 本土産は固有の本種のみで北海道から九州と利尻島・冠島・隠岐・五島列島・対馬・屋久島までの広い分布域をもつ. 夏期各種花上で見られるが走光性も強い.

Abelater pulcherus (Miwa, 1933) キバネツヤケシコメツキ

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 2 ♀♀, 28-30. IV. 2001.

Fleutiaux(1947: 379, 384-385)が創設した本属は東南アジアに広く分布し, 極めて多くの種が知られ前属同様に小型微小種が殆どであるが, 前胸背板や上翅の色彩斑紋の違いが種毎に顕著で分かり易い, 本邦では南西諸島に4種分布し, 本種は先島諸島の石垣・西表・与那国の3島固有種で, 前胸背後角部と上翅は黄色で, 上翅の会合線と側縁は黒色である.

Neopenthes pallidihumeralis Kishii, 1973 ニセコナガコメツキ(写真74)

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 30. IV. 2001; 2 ♂♂, 3. V. 2001.

上唇中央に明瞭な縦隆起をもち, 触角節の構造と前胸後角部の隆起線状態, 雄生殖器構造などに基づき, 西表島の資料で新属新種として記載され(Kishii, 1973: 9-10), 後に石垣島・与那国島の分布も知られた.前胸背後縁は細く黄色で上翅基部にやや広い淡黄色斑をもつ. 台湾からも別の種が知られるが, 本族(Megapenthini)の中では特異な形態をもつ.

Ectamenogonus plebejus (Candèze, 1873) コナガコメツキ(写真75)

静岡県静岡市畑薙ダム(1100 m), 1 ♀, 22. VIII. 1992.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 1 ♂, 17-18. VII. 2004.

本種は *Ludius* 種として記載されたが所属に変遷が多く *Caledonelater, Crigmus, Homotechnes, Megapenthes, Neotrichophorus, Penthelater, Rhodopenthes, Trichophorus* などが用いられ, Platia・Cate(1990: 111-114)により Buysson(1893: 314)の *Ectamenogonus* が現在有効属名として用いられている. 本種は Candèze(1873: 23)が Lewis の蒐集資料(Nagasaki, Kagosima, Hiogo の何れかと見られる)で記載したもので, 現在記録されている地域は殆ど日本全土と台湾・朝鮮半島などであるが, 国外のものは何れも別種の可能性が強い. また本邦内でも少なくとも屋久島・対馬・先島諸島のものには何れも本種と共に別種も含まれるようで, 更に本種に極めて近似の次種もあり, 従来の記録は全て確認の要があるが, 両性生殖器構造では種間の差異点が明瞭なので区別は困難でない. また殆どの場合燈火飛来で得られている.

Ectamenogonus robustus (Kishii, 1966) フトナガコメツキ(写真76)

長野県開田村開田高原西野, 1 ♂, 3. VIII. 1996.

岐阜県根尾村温見峠(900-1000 m), 1 ♀, 10. VIII. 2002.

岐阜県温見峠で得られた個体(♂, 10. VIII. 1956, 庄司武夫 leg.)に基づいて記載され, 北海道から鹿児島まで広く分布する本邦固有の種で, 前種に極めてよく似た体型色彩をもち共に燈火飛来性が強く, ほぼ同じ環境条件の地域で得られるので紛らわしいが, 本種の触角第3節が前

節より明瞭に長い点と，著しく幅の広い雄交尾器形状で前種との違いは分かり易い．

ELATERINAE（コメツキ亜科）：**Ampedini**（コメツキムシ族）

Haterumelater bicarinatus bicarinatus (Candèze, 1873) チャイロコメツキ

岐阜県本巣町温見峠（950 m），1 ♀，10. VIII. 2002（LT）．

愛知県豊田市山中，1 ♀，8. IX. 1996.

鹿児島県佐多町杉山谷（150-200 m），9 ♂♂，2 ♀♀，17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓，1 ♀，5. IX. 2004，野田亮 leg.; 高山町甫与志岳（FIT），2 ♂♂，16-19. VII. 2004，野田亮 leg.

本邦固有種であるが分布範囲は広く，原名亜種は本土四島と主な付属諸島で灯火に飛来する事が多く，別亜種が伊豆諸島（*hachijoensis*）・高知沖ノ島と対馬（*insulanus*）・屋久島（*yaku*）・口永良部島（*heianus*）・南西諸島（*shibatai*）で知られ，何れも雄生殖器側片先端形状の差と複眼間の幅などで分かれる．種としては鹿児島県黒島からの記録もあるが，亜種関係は不明である．近縁の別種が小笠原諸島に分布する．

Haterumelater bicarinatus yaku Kishii, 1976 ヤクチャイロコメツキ（写真 77）

鹿児島県屋久町栗生，1 ♂，16. VII. 1993; 同大川林道，1 ♂，1 ♀，17. VII. 1993; 同小楊子林道，1 ♂，5. VII. 2002（LT）; 上屋久町平瀬林道，1 ♂，6. VII. 2002（LT）．

原名亜種や体形の類似する高知県沖ノ島と対馬に分布する亜種とは，背面での複眼径が大きく複眼間は狭く，交尾器側片先端は三角形状に側方へ明瞭に突出している．

Haterumelater bicarinatus shibatai Ohira, 1968 シバタチャイロコメツキ

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道，1 ♀，26-29. VI. 2003.

奄美大島からの資料で記載され，南西諸島のトカラ中之島・悪石島から以南の先島諸島までの多くの島嶼に分布する亜種で，交尾器側片先端の構造は原名亜種に似るがより細く，また一般的に体形は細く小型である．なお先島諸島に分布する個体群では，島嶼群によって交尾器側片先端の構造に微妙な形態差が認められる．

Kometsukia vesticornis Kishii, 1957 アメイロコメツキ（写真 78）

静岡県静岡市二軒小屋西俣，1 ♀，4. VIII. 2001.

岐阜県本巣町温見峠（950 m），2 ♂♂，15. VIII. 2003.

本属については Gurjeva（1979: 139）が Buysson（1912: 138）の *Brachygonus* 属と同じものとしたが，その基本種（*Elater Megerlei*: フランス産，det. by Dr. Cate）を検したところ，本属基本種である *vesticornis* では触角第 2・3 節はほぼ球状で小さくその合計長は第 4 節より明らかに短く，4 節から強く鋸歯状で各節には明瞭な長毛をほぼ直立密生し，前頭横溝は中央部で広く認められ，前胸背板後角の 2 隆起線は共に明瞭に隆起し，雌貯精嚢内の小刺状突起は小型のもの 10-15 本の端に大型のもの 3-4 本が存在する刺列が 1 對認められる．一方 *megerlei* では触角第 2・3 節は共に長くその合計長も第 4 節より明らかに長く，4 節から弱い鋸歯状で各節には通常の微毛と長毛数本をもち，前頭横溝は中央部で狭まり殆ど消失し，前胸背板後角の 2 隆起線の外方のも

のは極めて不明瞭, 雌貯精嚢内の小刺状突起(Gurjeva, 1979: 140, fig. 245 参照)は長短混在し計40-50本位が存在していて異質性が強く, この両種を同じ属とは見なし得ない. 本種は本邦固有の1属1種と見られ多くはないが温見峠を含むこの山系には稀でなく, 奥美濃の河合村水無峠で得られた複数個体も検している(岸井, 1984: 23). 外見上次種に色彩体形共に極めてよく似るが, 触角節の形状で区別は容易である. 北海道から対馬・屋久島まで分布範囲は広い.

Reitterelater rugipennis (Lewis, 1894) アラハダチャイロコメツキ(写真79)

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 12. VIII. 2000.

岐阜県白川村大白川林道, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 荘川村御母衣ダム(800 m), 1 ♀, 28. VII. 1990.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 3 ♂♂, 4 ♀♀, 17-18. VII. 2004.

本種の属名としては従来 *Ectamenogonus*(現在 Megapenthini)が長く安定的に用いられていたが, 前述の *plebejus* コナガの項でも触れたように, Megapenthini 族の *Ectamenogonus* 属の基本種(*Steatoderes Montandoni*)の構造がコナガと一致するとの Platia・Cate (1990: 111-114)の研究により, Buysson(1893: 314)の *Ectamenogonus* は Ampedini 族の本種には不適として新設の上記属名が提唱され, 更に本種は Platia によりこの新属の種と確認された. 前種と共に主として低地から山地の照葉樹林帯での灯火採集時飛来する事が多い. 神奈川県が基産地で北海道から九州・屋久島・対馬まで広い地域から知られるが, 今回の静岡県からの記録例は見ていない. また手元には報告例の無い高知県(沖ノ島)と宮崎県(オマタ峠)の資料もある. 一見した外観では前種によく似た体型色彩をもち, 殆ど同じ環境条件で燈火飛来の資料が得られることが多いが, 触角第2・3節共に亜球形状で短小な前種に対し, 長三角形状で長い第3節の本種は残る各節に直立長毛を密生することもなく分かり易い.

Ampedus (Parelater) puniceus (Lewis, 1879) ハネビロアカコメツキ(写真80)

岐阜県蛭川村恵那峡上野木, 1 ♂, 10. IV. 1999.

鳥取県溝口町大山福永原, 1 ♀, 11. VI. 1994.

本亜属では上翅の第2-5間室が基部で隆起し, 特に2・3間室の隆起は後方へ伸びる. 邦産種では両性共に体は短大, 触角は両性共に短く前胸背板後角端に達しない. インド原産の亜属基本種(*Elater coccineus*)や南西諸島・台湾などに分布する種は, 本邦本土産の種とは上翅隆起間室の位置, 触角節形状や体形などで幾分異質である. 本種は美麗なアカコメツキの一つで, 本州全域から記録され四国・九州では少なく徳島と大分のみの様で, 韓国からも報告例(Kon-Kuk Univ., 1994: 160)があるが, Kolbe(1886: 197-199)が朝鮮半島から記載した2種の *Elater* 種(*subcostatus*, *analogicus*)を検した Gurjeva(1979: 275-276)はこれを共に *Parelater* 種として記録しているので, この何れかの種との誤認の可能性が強いと見られる.

Ampedus (Miwaelater) carbunculus (Lewis, 1879) ヒメクロコメツキ

長野県駒ヶ根市駒ヶ岳 S.A.内, 1 ♂, 9. V. 1999.

岐阜県谷汲村岐礼谷, 1 ♂, 12. V. 1985.

京都府京都市左京区久多峠, 1 ♀, 29. VI. 1985; 同岩倉, 1 ♀, 11. V. 1984.

奈良県奈良市高畑, 1 ♀, 11. VI. 1995.

初夏に各種花上に多い本邦固有種で，薩南諸島以南の島嶼を除き北海道から九州および多くの付属諸島に分布し，済州島からの報告例もあるが資料未見でこれは疑わしい．本亜属は台湾産種(*Elater habunensis* Miwa, 1934)を基本種とし，その触角第3節の顕著な形状に基づき新亜属 *Pseudelater* の名を付され，台湾と本邦から10種ほど知られるが，名称先取のため *Miwaelater* に変更された（W. Suzuki, 1999: 142）．しかし本種以外では形態，両性生殖器の形状共に一般の *Ampedus* 属種とよく似るが，本種のみ被毛が長くやや密で交尾器側片先端形状も独特で，他種とは著しく異なる特徴ある形態をもち，本邦固有の別属又は別亜属とも考えられる．

Ampedus (Ampedus) takeuchii Kishii, 1955 ウススジキバネコメツキ(写真81)

北海道留辺蘂町石北峠(800-1000 m)，1 ♀，11. VII. 1999.

上翅が淡汚黄色で翅端から肩部内方に伸びる細い淡褐色縦条をもち，一般に翅端部では明瞭で肩部で淡色となるが，全体が極めて不鮮明な個体もある．体形は前胸半ばより上翅のほぼ2/3近くまで平行状で，小型であるが太短く重厚な感じが強い．全体に光沢は鈍く触角は雄でも極めて短く，両性生殖器共に他のアカコメツキ類とはかなり異質である(cf. 岸井, 2003a: 5, fig. 8, ♂)．ユーラシア大陸北部から知られる上翅縦条の広い *tristis* に似ているが，淡色で前胸背板中央の中央縦溝状の凹みは痕跡的である．半世紀以上前になるが京都山科に居られたハバチ類の権威，竹内吉藏博士の膨大な所蔵昆虫標本を，そのお住まいの横の別棟の研究室標本庫で拝見し，コメツキ資料検討のお許しを得て見つけた北海道産の本種(♀)は，一見して新種に相違なしと判断し，中根猛彦先生の所蔵標本にも1頭(♂)の資料があることが分かり，ご意見でも新種であろうとのことで記載した種である．北海道はアカコメツキ類が種数，個体数共に多く見られるが，本種は少なく北東部で時折得られているに過ぎない．

Ampedus (Ampedus) azurescens scutellaris (Lewis, 1894) セダカアカコメツキ(写真82)

長野県長谷村戸台，1 ♀，25. V. 2003; 開田村開田高原西又，1 ♀，8. VI. 2003; 木曽福島町下中沢，1 ♂，20. VII. 2003.

小盾板が垂直状に前傾し，上翅会合線基部が上方に隆起するので分かり易い種であるが，この会合線基部の隆起傾向は小盾板がほぼ水平な大部分の *Ampedus* 種にも稀に見られる．原名亜種は北海道に分布し，Lewis(1894: 35)が中禅寺湖畔と女峰山からの資料で記載したものが今回の本州亜種で，記載時札幌産個体も用いられたが，互いに両性生殖器構造に差異点があり，前胸部形状も異なるので互いに別亜種とするのは妥当である(Kishii, 1985: 17; 岸井, 2002: 13)．本州の近畿圏以北に分布するが，四国・九州からの報告例もある．

Ampedus (Ampedus) sapporoensis W. Suzuki, 1985 マルムネアカコメツキ(写真83)

北海道上士幌町三俣14の沢，1 ♀，27. VI. 1989, 中村司 leg.; 上川町三国峠(1100-1200 m)，2 ♀♀，11. VII. 1999.

北海道産アカコメツキの中では大型の肥厚した体形をもち，次種とよく似るが平均的にはより大型で，前胸背板の光沢は鈍く，両性生殖器構造は明らかに異なる．当初三輪勇四郎博士により札幌からの資料に基づき *Elater rotundicollis* の名で記載されたが，北米産種とのホモニムとなり上記の置換名を与えられた(W. Suzuki, 1985: 84)．

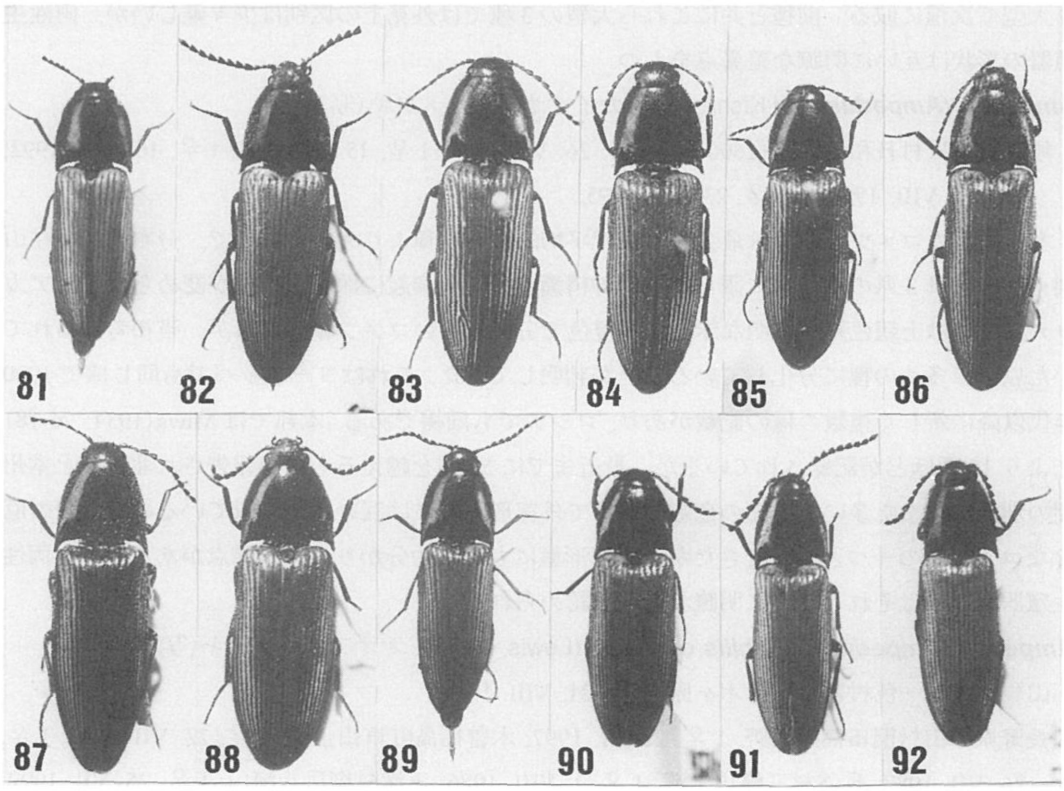

写真 **81-92**. **81**, ウススジキバネコメツキ *Ampedus takeuchii* (北海道留辺蘂町石北峠, ♀, 9.5 mm); **82**, セダカアカコメツキ *A. azurescens scutellaris* (長野県長谷村戸台, ♀, 13.3 mm); **83**, マルムネアカコメツキ *A. sapporoensis* (北海道上川村三国峠, ♂, 14.4 mm); **84**, フトアカコメツキ *A. pachycollis* (岐阜県高根村御岳日和田高原, ♀, 14.5 mm); **85**, カイオオアカコメツキ *A. kai* (岐阜県高根村御岳日和田高原, ♀, 14.5 mm); **86**, オオアカコメツキ *A. optabilis optabilis* (長野県王滝村御岳八海山, ♂, 14.2 mm); **87**, アカコメツキ黒化型 *A. orientalis* (愛知県稲武町面の木峠, ♀, 12.4 mm); **88**, ツガルアカコメツキ *A. tsugaru* (長野県王滝村御岳田の原, ♀, 12.1 mm); **89**, マトバアカコメツキ *A. matobai matobai* (北海道斜里町温音別河口, ♀, 10.7 mm); **90**, アカコメツキ一種 *A.* sp. (長野県王滝村御岳田の原, ♂, 9.9 mm); **91**, ミヤマアカコメツキ *A. alticola alticola* (岐阜県河合村天生峠, ♂, 9.6 mm); **92**, クラマアカコメツキ *A. kurama* (岐阜県高根村御岳日和田高原, ♀, 10.3 mm).

Ampedus (Ampedus) pachycollis Ohira, 1973　フトアカコメツキ(写真 84)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 3 ♀♀, 3. VII. 1988; 1 ♀, 30. VII. 1989; 1 ♀, 10. VI. 1990; 3 ♀♀, 15. VI. 1991; 3 ♀♀, 24. VII. 1992; 1 ♀, 19. VI. 2004; 同(1600 m), 3 ♀♀, 23. VII. 1995; 小坂町御岳濁河温泉, 1 ♀, 8. VIII. 1994.

本州中部と周辺の高地及び北海道に分布する大型肥厚度の強い種で, 岐阜及び長野両県には多く東北・北陸・紀伊山地からも記録されている. 本州産個体に比し北海道の資料は平均してよ

り大型で次種に似る．前種と共にこれら大型の3種では外見上の区別は少々難しいが，両性生殖器の形状は互いに明瞭な差異点をもつ．

Ampedus (Ampedus) kai Kishii, 1986 カイオオアカコメツキ(写真85)

岐阜県高根村日和田高原(1600 m)，1 ♀，26. VII. 1987; 1 ♀，15. VI. 1991; 1 ♀，16. VIII. 1992; 1 ♀，7. VIII. 1994; 2 ♀♀，23. VII. 1995.

本州産アカコメツキ類では最大級の種で平均的には前種より大きく太めで，分布域は現在山梨・長野・岐阜3県の高地帯に限られ，雌貯精嚢内の刺状突起に顕著な特徴が認められる．アカコメツキ類は上翅色彩が鮮明な赤褐～赤橙色で分かり易いコメツキであるが，当初考えられていた以上に多くの種に分化していることが判明してきた．これはヨーロッパでも同じ様で1990年代以降に新しく複数の種の記載があり，ロシアでも同様である．本邦ではMiwa(1934: 76-78)により15種ほどが記録されているが，最近までに50種を越えるものが報告され北海道と本州間の別亜種もまた多い．上翅の色彩を含めて外部形態的には互いによく似ているので分類の厄介なコメツキの一つとされてきたが，外部形態にも比較的分かり易い差異点があるのと，両性生殖器構造にはそれぞれ更に明瞭な相違が認められる．

Ampedus (Ampedus) optabilis optabilis (Lewis, 1894) オオアカコメツキ(写真86)

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原，1 ♀，21. VIII. 1988.

長野県開田村開田高原西野，1 ♀，22. VI. 1997; 木曽福島町東山土場，1 ♀，22. VII. 1987; 1 ♀，26. VII. 1987; 長谷村三峰川上流，1 ♀，2. VIII. 1986; 王滝村御岳八海山，1 ♀，25. VII. 1992; 1 ♀，28. VII. 2001.

静岡県水窪町門桁山(1300-1375 m)，1 ♀，12. VII. 1992; 同(1200-1300 m)，1 ♀，24-25. VII. 1999; 1 ♀，22. VII. 2000.

岐阜県白川村白山大白川林道，2 ♀♀，18. VI. 1988; 高根村御岳日和田高原1 ♀，21. VII. 1997; 1 ♀，8. VIII. 1999; 1 ♀，10. VII. 1994; 1 ♀，1. VIII. 2003; 朝日村秋神川河畔，1 ♂，26. VI. 1999.

前3種に次ぐ大型のアカコメツキで本邦で最も広く分布し普通に見られる種の一つで，体形的にはやや細目で特に前胸背板は梯形状で，全身が黄褐色毛で被われる．北海道から九州まで広くみられ，北海道(*kusuii*)と四国(*awa*)に分布する個体群はそれぞれ別亜種とされる．なお従来本種として報告された資料には前述の大型種が含まれている可能性もあると思われる．

Ampedus (Ampedus) orientalis (Lewis, 1894) アカコメツキ(写真87)

山梨県須玉町増富，1 ♀，2. VII. 1988.

長野県王滝村御岳八海山，1 ♀，31. VII. 1993.

静岡県水窪町井戸口山，1 ♂，7. XII. 1986; 1 ♀，15. VII. 1987.

岐阜県白川村白山大白川林道，1 ♀，16. VI. 2001; 河合村天生峠，1 ♀，1. VIII. 1999; 高根村御岳日和田高原，1 ♀，29. VII. 2000; 1 ♀，27. VII. 2002.

愛知県稲武町面の木峠，1 ♀，5. VI. 1988; 同段戸裏谷，1 ♀，22. VII. 2000.

本邦産アカコメツキの中では低地から山地まで最も普遍的に分布し個体数も多い．今回の面

の木峠産個体の上翅は濃黒褐色(写真 87)であった. 本種では稀に上翅の黒化(濃赤褐色～黒色)するものもあり, いわゆるクロコメツキ類の様な資料(宮城県金華山島, 1♂, 2♀♀ ; 新潟県佐渡島, 1♂ ; 三重県南亦山, 1♀ ; 京都府芦生演習林, 1♀)を検しているが, 今回の資料はその中間的な型でやや赤味の強い個体であった.

Ampedus (Ampedus) tsugaru Kishii, 1992 ツガルアカコメツキ(写真 88)

長野県王滝村御岳田の原, 1♀, 27. VII. 1992.

種小名の様に本州北端津軽地方の岩木山山頂付近で得られた一頭の雌資料のみ知られ, 中型で全体的には光沢の極めて強い重厚な種である. 種類の多い邦産アカコメツキ類でも特異な体形で似た種はなく再報はなかったが, 最近長野県山ノ内町からの 1 資料(♀, 11. VI. 1992)を検する機会があり(岸井, 2003d: 6-7), 今回続いて上記個体を見出した. 共に基本資料と貯精嚢内刺状突起の形態から同種と判断したが, これまでの資料は全て雌個体なので, 今後この中間地域での棲息と雄の発見を期待している. 一般的にこの仲間の雄は極端に少ない.

Ampedus (Ampedus) matobai matobai Kishii, 1982 マトバアカコメツキ(写真 89)

北海道斜里町温音別河口, 1♀, 21. VII. 1998.

やや小さい中型アカコメツキで本州中央山地にも別亜種(*yamayai*)が分布する. 近似の種が多いので, 両性共に生殖器構造を検する必要がある. 本種は前胸背板点刻が大きく極めて密な為に光沢が鈍い点で分かり易い(岸井, 2003c: 5, fig. 18, ♂; Kishii, 1992: Plate II, fig. 36, ♀).

Ampedus (Ampedus) ainu ainu (Lewis, 1894) アイヌアカコメツキ

北海道上士幌町三俣 14 の沢, 1♀, 27. VI. 1989, 中村司 leg.; 同三俣, 1♀, 19. VII. 1998; 上川町ユーニ・イシカリ川河畔, 1♀, 19. VII. 1998; 留辺蘂町石北峠(800-1000 m), 1♀, 11. VII. 1999; 羅臼町知床道路羅臼湖入口, 1♀, 20. VII. 1998.

本種は道内で最も普遍的に見られる代表的なアカコメツキで夏期花上で普通に見られ, 利尻島・礼文島・奥尻島と南千島諸島からも記録されている. 本州中部山地(新潟・長野・岐阜)には別亜種(*hondoensis*)も分布する.

Ampedus (Ampedus) fagi fagi (Lewis, 1894) アカアシアカコメツキ

愛知県稲武町面の木峠(1100 m), 1♀, 4. VII. 1999.

従来, 脚部の赤いアカコメツキ類の大部分が本種と見なされていたが, 富士山周辺からの個体で記載された本種は東海・中部地方以北を分布域とする. 北海道にも分布するが, 触角第 3 節が長く両性生殖器構造にも差異点をもち, 脚部の暗化傾向が強いので別亜種(*kitami*)とされる. 近畿圏以西からの資料は見ていないが, 近似の別種(*beppin* と *otome*)が分布している. 静岡・長野両県の資料は検しているが, 愛知県のものを確認したのは初めてである.

Ampedus (Ampedus) sp. アカコメツキ一種(写真 90)

長野県王滝村御嶽田ノ原(2200 m), 1♂, 24. VII. 1994.

一般的外部特徴では諏訪市霧ヶ峰産の“アカコメツキの一種”として記録した種(岸井, 2003d: 6)及び, *gozaishi* ゴザイシアカや *motoshigei* キイアカに似るが, それぞれの生殖器構造には異なる特徴が認められ, 未記載種の可能性が強い.

Ampedus (Ampedus) alticola alticola Silfverberg, 1977 ミヤマアカコメツキ(写真 91)

長野県王滝村御嶽田ノ原(2200 m), 1 ♂, 24. VII. 1994.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 6. VIII. 1988; 高根村日和田高原(1600 m), 1 ♀, 23. VII. 1995.

日光産の資料で記載(Lewis, 1894: 36-37, *Elater montanus*)されたが, Silfverberg(1977: 92)により Scopoli(1763: 92)の記載種(現在 *Adrastus* 種)のホモニムとされ上記置換名が付された. 東北・関東・中部の山地帯に分布するが, 和歌山・兵庫の両県産資料も検している. 北海道産個体群は多少大きく, 貯精嚢内刺状突起は小型で細く別亜種(*tokoro*)とされる.

Ampedus (Ampedus) kurama Kishii, 1983 クラマアカコメツキ(写真 92)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 29. VII. 2000; 1 ♀, 19. VI. 2004.

京都洛北の鞍馬山で得られた 5 頭の資料(3 ♂♂, 2 ♀♀, 5. V. 1965)で記載され, その後長く記録はなかったが, 同じ洛北の八瀬渓谷からの個体(1 ♂, 1. IV. 1993)を最近検し得た. 体表の光沢が著しく美麗な上翅の赤橙色と共に最も美しいアカコメツキの一つであろう. これまで京都以外からの報告はないが今回の日和田高原産の 2 雌資料は, この京都産個体と主特徴が酷似し同種と見られる. ただ貯精嚢内の刺状突起が形状は同じであるが 33 本あり, 京都産個体の 22-25 本よりやや多いが, 地域的な個体変異の範疇に入るものと見ている.

Ampedus (Ampedus) convexicollis (Lewis, 1894) ムネダカアカコメツキ(写真 93)

岐阜県高根村御岳日和田高原(1600 m), 1 ♂, 22. VI. 1997.

愛知県豊田市千鳥町, 1 ♀, 29. IV. 2002.

Lewis(1894: 35-36)が日光からの 2 頭の資料で記載した種で, これまでに青森・埼玉からの記録もあるが希少性の高い種である. 筆者は長野県上高地産の雌資料を検したが, これはハバチの著名な研究者であった竹内吉蔵博士が上高地で採集(17. VII. 1919)されたもので, 三輪勇四郎博士の同定ラベルが付されていた(*Elater convexicollis* Lew., det. Y. Miwa). かの素木標本と見られる Lewis の基本資料(Nikko VI, 1880, G. Lewis leg.)を, Miwa(1934: 76-77)は検しているので同定は正しいと考えられる. 今回得られた岐阜と愛知からのものはこの上高地からの資料と同じ形態特徴を備えており, 本種と同定できるものであった.

Ampedus (Ampedus) takaoensis Ohira, 1973 タカオアカコメツキ(写真 94)

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 7. VIII. 1988.

種名の様に東京都の高尾山からの雌資料で記載された種で, 現在までに福井・富山・新潟・栃木・山形からの資料を検しており, 主として関東周辺山地から越後山系に分布するようで, 北海道小清水町産の 1 雌資料(岸井, 2003a: 6)も見ている. 両性生殖器構造に明瞭な特徴をもつ種で判別は容易であるが, 外部形態では少々困難な点があり, 殆どの部分では原記載に適合するが, 上翅末端の暗色傾向には両性共に変異が認められるものもあるので注意を要する.

Ampedus (Ampedus) kibane Kishii, 1994 エゾキバネコメツキ(写真 95)

北海道上士幌町十勝三股, 2 ♀♀, 19. VII. 1998.

上翅は黄褐色に近く, 個体によっては淡汚黄色から橙黄色のものもあるが, 常に黄色が基調

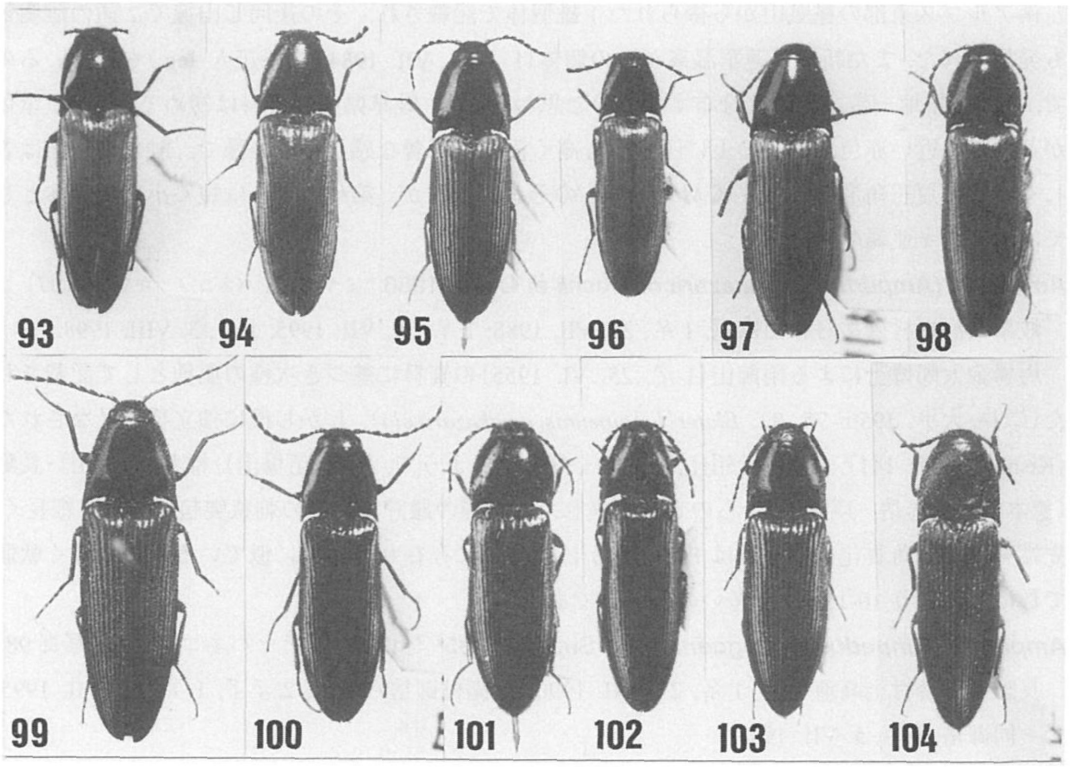

写真 **93-104**. **93**, ムネダカアカコメツキ *Ampedus convexicollis* (岐阜県高根村日和田高原, ♂, 9.7 mm); **94**, タカオアカコメツキ *A. takaoensis* (岐阜県河合村天生峠, ♀, 11.3 mm); **95**, エゾキバネコメツキ *A. kibane* (北海道上士幌町十勝三股, ♀, 9.1 mm); **96**, ホウオウホソアカコメツキ *A. houwau* (岐阜県高根村日和田高原, ♂, 8.4 mm); **97**, ミヤマチャバネコメツキ *A. amakazaricola* (岐阜県高根村日和田高原, ♀, 11.5 mm); **98**, ミヤマホソチャバネコメツキ *A. tokugoensis* (長野県王滝村御岳, ♀, 9.5 mm); **99**, ヤクアカハラクロコメツキ *A. hypogastricus kosugi* (屋久島屋久町荒川林道, ♂, 14.5 mm); **100**, ホソクロコメツキ *A. temistriatus* (岐阜県高根村日和田高原, ♂, 9.1 mm); **101**, ケブカコクロコメツキ *A. aureovestitus aureovestitus* (岐阜県高根村日和田高原, ♀, 8.5 mm); **102**, エゾコクロコメツキ *A. aureovestitus katoi* (北海道上川町三国峠, ♂, 8.9 mm); **103**, タカハチクロコメツキ *A. takahachi* (愛知県稲武町段戸裏谷, ♀, 11.4 mm); **104**, ケブカクロコメツキ *A. vestitus vestitus* (静岡県水窪町門桁山, ♂, 10.7 mm).

色で，特に基部は明瞭な黄色斑紋状に見え，翅端部は広く多少とも暗色気味になる個体もある．脚部も一様に黄色のものが多く，稀に各節の中央部が暗化する．前述の *takeuchii* ウススジキバネと同じく触角は両性共に短いが，体形など一般形態は普通のアカコメツキ類に似ており，両性生殖器構造もそうである(Kishii, 1994: Pl. III, fig. 36, ♂; 岸井, 2003a: 8, fig. 21, ♀)．現在北見市周辺の地域で殆どの資料が得られており，全体としても道東部でのみ記録されている．

Ampedus (Ampedus) houwau Kishii, 1990 ホウオウホソアカコメツキ(写真 96)

岐阜県高根村日和田高原(1600 m)，1 ♀, 15. VI. 1991.

南アルプス東部の鳳凰山から得られた1雄個体で記載され，その後同じ山塊で2頭の雌個体も発見された．また新潟県蓮華温泉からの個体(1 ♂, 5. VII. 1984, 山屋茂人 leg.)も見ているので，中部山岳地一帯には広く分布するものと思われるが，岐阜県産の資料は初めて検した．全体が茶褐色に近い赤色，細身の上に圧平度も高く極めて華奢な感じの強い種で，触角第3節は著しく幅広の短三角形のため亜属 *Miwaelater* のそれに似るが，第4節よりは短く小型で全体としてはコメツキ亜属の特徴をもつ．

Ampedus (Ampedus) amakazaricola Kishii et Ohira, 1956 ミヤマチャバネコメツキ(写真97)

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 29. VII. 1988; 1 ♀, 29. VII. 1995; 1 ♀, 3. VIII. 1998.

馬場金太郎博士による雨飾山(1 ♂, 25. VI. 1955)の資料に基づき次種の亜種として記載された(岸井･大平, 1956: 75, 83: *Elater longipennis amakazaricola*)．しかし後に独立種と見なされた(Kishii, 1987b: 141)．本州中部山岳地に広く分布するようで，新潟(苗場山)･福井(赤兎山)･長野(徳本峠，白馬岳，戸隠山)からの資料も検した．本種の雌貯精嚢内の刺状突起は小型で細長く，先端を除くと角質化は弱く数は110本程がほぼ2列に存在し，次種に似ているがより細く軟弱で数はそれより10-15%程度多いのが普通である．

Ampedus (Ampedus) tokugoensis W. Suzuki, 1985 ミヤマホソチャバネコメツキ(写真98)

長野県安曇村上高地付近, 1 ♀, 21. VII. 1990; 王滝村御岳八海山, 2 ♂♂, 1 ♀, 23. VII. 1995; 同御岳, 1 ♀, 5. VII. 1987.

静岡県静岡市二軒小屋西俣, 1 ♂, 1 ♀, 4. VIII. 2001.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 1 ♂, 14. VII. 2001; 1 ♂, 27. VII. 2002.

本邦の本科甲虫を初めて体系化した三輪勇四郎博士の学位論文で記載(Miwa, 1934: 76)され，徳本峠産の *Elater longipennis* の名称が別種に先取のため，上記置換名となったものである(W. Suzuki, 1985: 84)．本種はその特徴ある体形で分かり易いが，よく似た複数の別種個体群も多く，正確な同定には生殖器構造の精査が必要で，これについては山梨県秩父山塊からの資料に基づき，前2種と共に類似の3種間の両性生殖器構造における関係を示した(岸井，2003b: 9-10; Kishii, 2004a: 67-79)．本種は青森から奈良まで多くの高地からの記録があるが，検し得た資料では山形県月山，栃木県金精峠，山梨県瑞牆山と大菩薩峠，長野県高地帯，岐阜県濁河温泉などで，この範囲内の地域にのみ分布するものと見られる．

Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ

新潟県粟島, 1 ♂, 29. IV. 1984, 中村司 leg.

長野県大鹿村小渋湖畔, 1 ♀, 2. VI. 2001; 木曽福島町東山土場, 1 ♀, 26. VII. 1987; 1 ♀, 26. VI. 2004.

岐阜県本巣町パルプ工場土場, 1 ♀, 9. VI. 1985; 谷汲村岐礼谷, 1 ♀, 12. V. 1985; 根尾村宇津志, 1 ♂, 11. V. 1985.

愛知県稲武町面の木峠(1100 m), 1 ♂, 17-18. VII. 1999; 津具村面の木峠, 1 ♂, 11. VII. 2004; 豊田市六所山, 2 ♂♂, 9. V. 1987; 同山中, 1 ♀, 18. V. 1985; 2 ♀♀, 5. VI. 1999.

京都府京都市左京区久多峠, 2 ♀♀, 29. VI. 1985; 同岩倉, 2 ♂♂, 5 ♀♀, 11. V. 1984.

兵庫県波賀町音水渓谷, 1 ♀, 28. IV. 1985.

本属の種としては付属諸島を含め本邦全域で，里山を中心に海岸から山地で最も普遍的な固有種と見られる．済州島·韓国本土からの記録もあるが，前者にはよく似た別種 *sanorum* が見られ，朝鮮半島には分布していないと思われるが，幼虫がマツ材に関連が深いので移入されている可能性はある．なお北海道と屋久島(次項)のものはそれぞれ別亜種である．

Ampedus (Ampedus) hypogastricus kosugi Kishii, 1982 ヤクアカハラクロコメツキ(写真 99)

鹿児島県上屋久町大株歩道, 3 ♀♀, 11. VII. 1995; 同平瀬林道, 1 ♀, 7. VII. 2002(LT); 屋久町荒川林道, 1 ♂, 10. VII. 2002.

屋久島亜種では平均的に本土産原名亜種個体に比べ大型で肥厚した体形と，雄交尾器側片先端の鈎状突起が細長く，側方突起も長く突出し，雌貯精嚢内刺状突起は細く長い．

Ampedus (Ampedus) tenuistriatus (Lewis, 1894) ホソクロコメツキ(写真 100)

富山県利賀村水無, 1 ♂, 23. V. 2004.

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♀, 21. VIII. 1988.

長野県安曇村梓川上流, 1 ♀, 25. VII. 1987; 長谷村戸台, 1 ♀, 19. V. 2002; 1 ♂, 25. V. 2003; 王滝村御岳, 1 ♂, 5. VII. 1987; 同八海山, 1 ♀, 20-21. VII. 1991; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♀, 7. VII. 2001; 1 ♀, 13. VI. 2004; 1 ♀, 3. VII. 2004; 大鹿村小渋湖畔, 1 ♂, 25. V. 2003; 鬼無里村戸隠西岳林道, 1 ♀, 31. V. 1980; 木曽福島町新開, 1 ♀, 26. VI. 2004(LT).

静岡県静岡市二軒小屋東俣, 1 ♀, 5. VIII. 2001; 水窪町門桁山, 1 ♂, 1 ♀, 1. VII. 2001.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 18. VI. 1988; 1 ♂, 16. VI. 2001; 高根村日和田高原, 2 ♀♀, 3. VII. 1988; 同(1600 m), 1 ♀, 16. VI. 1991; 1 ♂, 22. VI. 1997; 高鷲村ひるがの高原, 1 ♂, 1 ♀, 17. V. 2003.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 4. VII. 1997; 2 ♀♀, 27. VI. 1998; 稲武町面の木峠, 1 ♂, 24. V. 1987; 2 ♀♀, 5. VI. 1988; 同(1000-1200 m), 2 ♀♀, 25. VI. 1989; 足助町大多賀, 1 ♀, 18. V. 1985.

本州の中央部山地には普遍的に分布するが，極めてよく似た複数の種があるので同定は少々厄介で，次種及び四国·九州に多い *ohtsukai* オオツカクロとは特に類似性が高く，前胸背板点刻状態と両性の生殖器構造の精査検討も欠かせない．分布面では次種が本種より低温地域で多く見られ，*ohtsukai* は現在四国·九州からのみ知られている．本種は Lewis(1894: 39-40)が主として関東周辺山地からの資料で記載し，用いられたものには熊本県湯山のものも含まれていて，四国·九州からも多くの記録報告例があるがこの地域の本種とされた資料は精査が必要で，屋久島には別亜種(未記載)と見られるものもある．

Ampedus (Ampedus) aureovestitus aureovestitus Kishii, 1966 ケブカコクロコメツキ(写真 101)

新潟県板倉町魚倉, 1 ♂, 31. V. 1987, 金田吉高 leg.

長野県小谷村鎌池, 1 ♂, 30. V. 1992; 2 ♀♀, 22. VI. 1996; 長谷村三峰川上流, 1 ♀, 2. VIII. 1986; 開田村開田高原折橋峠, 1 ♂, 2 ♀♀, 5. VII. 1997; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 26. VII.

1986; 1 ♀, 22. VII. 1987; 1 ♀, 3. VIII. 1987; 1 ♀, 4. VII. 1993; 1 ♂, 31. VII. 1993; 2 ♂♂, 1 ♀, 23. VII. 1995; 同御岳, 1 ♂, 1 ♀, 5. VII. 1987; 大鹿村鳥倉山林道, 1 ♂, 3. VI. 2001.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 4. VIII. 1990; 1 ♀, 16. VI. 2001; 河合村天生峠, 1 ♀, 18. VI. 1989; 上宝村平湯(1300-1400 m), 1 ♀, 19. VI. 1988; 高根村日和田高原(1600 m), 6 ♂♂, 1 ♀, 15. VI. 1991; 同(1600-1700 m), 2 ♂♂, 13-14. VI. 1992; 1 ♀, 29. VII. 1995; 同御岳日和田高原(1600 m), 1 ♂, 3. VII. 1988; 1 ♀, 22. VI. 1997; 1 ♀, 3. VIII. 1997.

前種とは極めて類似性が高いが，本種の方が低温嗜好性が強いようで近畿圏の山岳地帯から以北の山地に見られ，体は比較的軟弱扁平に近く，被毛も長く密で軟毛且つ黄味がかっている．前種は関東から以西の低山地に分布するようで，体は強固肥厚型に近く被毛は普通黒色で直立型，両性生殖器構造にも差異点を認め得る．北海道分布個体群は次項の別亜種である．

Ampedus (Ampedus) aureovestitus katoi Kishii, 1998　エゾコクロコメツキ(写真 102)

北海道上川町三国峠, 1 ♂, 19-23. VII. 1988, 中村司 leg.

オホーツク沿岸の女満別と北見市の資料で記載したが，後に小清水町と愛山渓温泉からの個体も検している．この愛山渓産の個体を報じた際にも述べたが，今回の個体と共に未だに雌資料を検していないので貯精嚢内の刺状突起構造は不明である(岸井, 2003c: 6-7)．一般に本属の種では野外で雌個体を得る機会が多いが，本種では雌個体の検討が望まれる．

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus Silfverberg, 1977　アカアシクロコメツキ

長野県安曇村梓川上流, 1 ♀, 9. VII. 1988; 長谷村戸台, 1 ♂, 1 ♀, 4. V. 2003; 南箕輪村権平峠, 1 ♂, 21. VII. 2001; 木曽福島町東山土場, 1 ♀, 20. VII. 1986; 同新開, 1 ♂, 26. VI. 2004 (LT).

静岡県水窪町井戸口山, 2 ♂♂, 2 ♀♀, 7. XII. 1986; 1 ♂, 6. XI. 1988; 1 ♀, 17. XI. 1991; 2 ♀♀, 1. VII. 2001; 門桁山家老平(1200 m), 2 exs., 24. VII. 1999.

岐阜県本巣町パルプ工場土場, 1 ♀, 5. V. 1986; 根尾村水鳥谷, 1 ♀, 29. IV. 1987.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 27. VI. 1998; 稲武町面の木峠, 1 ♀, 5. VI. 1988; 同(1100 m), 1 ♀, 17. VII. 1999; 同段戸裏谷, 1 ♂, 21. VII. 1996; 豊田市猿投山, 2 ♂♂, 4. V. 1988; 同六所山, 4 ♂♂, 1 ♀, 9. V. 1987; 1 ♀, 15. II. 1988.

Lewis (1894: 40)が神奈川県(Miyanosita, Hakone, Oyama)と熊本県(Konose)からの資料で記載した *Elater rufipes* は，ヨーロッパ産の同名の種に種名が先取されていて上記の置換名が与えられた．本州･四国･九州各地と佐渡の分布が知られ，屋久島･トカラ中之島には別亜種(次項)が棲息する．なお筆者が北海道から本種の亜種として記載した *okhotskanus* (Kishii, 1997: 10-11)は筆者の単純な勘違いミスで，*hypogastricus* アカハラクロの北海道亜種とすべきもので，その処置は別に報告したい．

Ampedus (Ampedus) japonicus kosugiensis Kishii, 1983　ヤクアカアシクロコメツキ

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1 ♀, 9. VII. 2002.

屋久島産個体の雄交尾器側片先端の鉤状突起は短く側方突起は長い．トカラ諸島の中之島からも一頭の雄個体が得られていて同一亜種と見られる．

Ampedus (Ampedus) takahachi Kishii, 1985 タカハチクロコメツキ(写真 103)

愛知県稲武町段戸裏谷, 1 ♀, 6. VI. 1993.

鳥取県の高鉢山が基産地で，後に広島·京都·山梨の資料も検しているが，上記資料を本種と見なすにはやや疑問な点もある．貯精嚢内の角質刺状突起の形状には差異点はないが，30 本程度で極めて少なく，近畿以西の資料では 45 本前後で，山梨県御座石鉱泉の資料で 50 本弱である．地域的な変異の範疇内の可能性も考えられるが資料集積の上結論を出したい．

Ampedus (Ampedus) ivanovi (Jakobson, 1913) クロコメツキ

鹿児島県内之浦町大浦(材中), 1 ♂, 1 ♀, 2. I. 2005.

Lewis(1894: 38-39)により神奈川(Miyanosita)と熊本(Oyayama)の資料で *Elater nigroventris* の名称で記載されたが，既に Reitter(1889: 112)により *Elater pomorum* var. *nigriventris* も記載されており Jakobson(1913: 750)が上記の置換名を付したものである．北海道から九州まで広く記録されているが島嶼からの報告例は無い．今回検した雄の交尾器形状は近畿圏からの資料とは微妙な差が認められるが，外部特徴の違いはない．

Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus (Lewis, 1894) ケブカクロコメツキ(写真 104)

静岡県水窪町門桁山, 1 ♀, 22. VII. 2000; 1 ♀, 12. VIII. 2000.

愛知県稲武町面の木峠(1100 m), 1 ♀, 5. VI. 1988; 1 ♀, 28. VI. 1986; 同(1100 m), 1 ♀, 20. VI. 1993.

北海道から九州及び隠岐に分布し，本邦固有種と見られ済州島からの記録例もあるが，これはアカハラクロの項でも述べたように誤認の可能性が強い．前種とよく似るが体表被毛は本種の方が黄褐色，前胸背板の点刻は大きく極めて密，腹節周縁，特に末端節は通常黄橙色を帯び，雄交尾器側片の側方先端は小さく細く突出するが，前種では太く厚めである．また雌貯精嚢内の刺状突起は本種の方が多く強固である．クロコメツキ類も近似種が多いので同定には注意を要し，特に両性生殖器構造の検討が重要である．

Ampedus (Ampedus) vestitus yakuinsulanus Kishii, 1983 ヤクケブカクロコメツキ

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1 ♀, 12. VII. 1995.

屋久島産の本種は当初複数の雌個体のみ検し，貯精嚢内刺状突起が本土産のものに比し少なく，顕著に短大なので亜種 *yakuensis* としたが(Kishii, 1979: 7)，その前年既に屋久島から得られた大型のアカコメツキを，*A. yakuensis* ヤクオオアカコメツキとして記載しており上記名に訂正した(Kishii, 1983b: 53)．雄個体はその後トカラの中之島と屋久島宮之浦から得られ，交尾器側片先端の鈎状部形状が本土産のものと異なることが確かめられた．

Ampedus (Ampedus) yaku ohdai Kishii, 1983 オオダイクロコメツキ(写真 105)

愛知県稲武町面の木峠, 1 ♀, 5. VI. 1988.

本種は屋久島宮之浦岳花之江河での 1 雌で記載され（Kishii, 1969: 7-8)，後に緒方健氏(小郡市)の採集した雄資料も検し得た(Kishii, 1983a: 35-36)．雌上翅は全体が淡黄褐色で会合線周縁のみ暗褐色，雄では全体黒色で僅かに基部と側縁は赤褐色である．当初屋久島固有種と思われたが，1960 年代以降に両性共に上翅黒色の種で，その他の外部形態と両性生殖器構造がこの屋

久島産種と酷似する，比較的多数の個体が紀伊半島台高山系で採集され，別亜種とみなして記載した(Kishii, 1983b: 53-54)．本亜種はその後，栃木·三重·滋賀·和歌山·愛媛からも得られ，山梨(笹子峠)·長野(蓼科山)の資料も検していて，本土産個体群は独立別種の可能性が強いかも知れない．また邦産 *Ampedus* 属の黒色小型種，いわゆるコクロ又はホソクロ類では次種のような近似種が多く，時に上翅に黄褐色或いは赤褐色の縦条をもつものもあり，大部分は高所性で稀なグループであるが，近来多くの方々のご好意で少なからぬ資料を検討し得た．これまでこの様な個体は，日光の中禅寺湖畔で Lewis が 1881 年 8 月中旬頃に 2 頭採集して記載した *Elater gracilipes* (1894: 42)ミヤマタテスジとされていた向きが強い．このグループ全体の両性生殖器構造には比較的明瞭な差異点があり，複数種の混在が明らかとなっていて(Kishii, 2004a: 67-79)，調査が進めば更に種が増える可能性をもつグループである．

Ampedus (Ampedus) gyojya Kishii, 2004　ギョウジャホソクロコメツキ(写真 106)

愛知県稲武町面の木峠，1 ♀，5. VI. 1988.

マレーゼトラップによる秩父山塊(瑞牆山周辺)からのコメツキ資料を山梨県森林総合研究所の大澤正嗣氏のご依頼で検討した際，前述のように小型細身のクロコメツキ類には未記載のものが相当数あることが判り(岸井, 2003b: 10-12)，本種もその一つで三重·奈良·徳島からの資料と共に記載(Kishii, 2004a: 71-73, 78)し，今回愛知県での分布も明らかになった．

Ampedus (Ampedus) pauxillus (Lewis, 1894) チビクロコメツキ(写真 107)

長野県王滝村鈴が沢，1 ♀，4. VIII. 1991; 同御岳八海山(1800-2000 m)，1 ♀，22. VII. 1994; 開田村開田高原折橋峠，1 ♂，5. VII. 1997.

静岡県水窪町門桁山，1 ♀，13. VIII. 2000.

岐阜県高根村日和田高原(1650 m)，1 ♀，26. VII. 1987; 1 ♂，18. IX. 1988; 1 ♂，1 ♀，7. VIII. 1994; 1 ♀，29. VII. 1995; 1 ♀，28. VII. 2001; 小坂町御岳濁河温泉，1 ♀，9. VII. 1994.

邦産本属種では最小の種の一つであまり多くないが，マレーゼトラップでは多くの個体が得られたこともある(岸井, 2003b: 12)．本州北端から紀伊半島の台高山系の山地と徳島県からの記録もある．岐阜県山地には多いがこれまで報告例は未見で，静岡県からも初めてのようであるが，目立たない種なので見過ごされている可能性が大きい．

ELATERINAE(コメツキ亜科)：**Physorhinini**(アシブトコメツキ族)

Podeonius aquilus aquilus (Candèze, 1873) クリイロニセコメツキ

岐阜県根尾村温見峠(950 m)，1 ♂，18-19. VIII. 1990; 1 ♀，8. VIII. 1998; 本巣町温見峠 (950 m)，2 ♀♀，15. VIII. 2003.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m)，4 ♂♂，6 ♀♀，17-18. VII. 2004; 高山町甫与志岳 (FIT)，2 ♂♂，16-19. VII. 2004, 野田亮 leg.

邦産アシブトコメツキ類は Candèze(1873: 8)以来，Le Conte(1853: 459)による北米南部分布の *Anchastus digitatus* を基本種とする *Anchastus* 属種とされ，Fleutiaux(1928: 37-43)も東南アジ

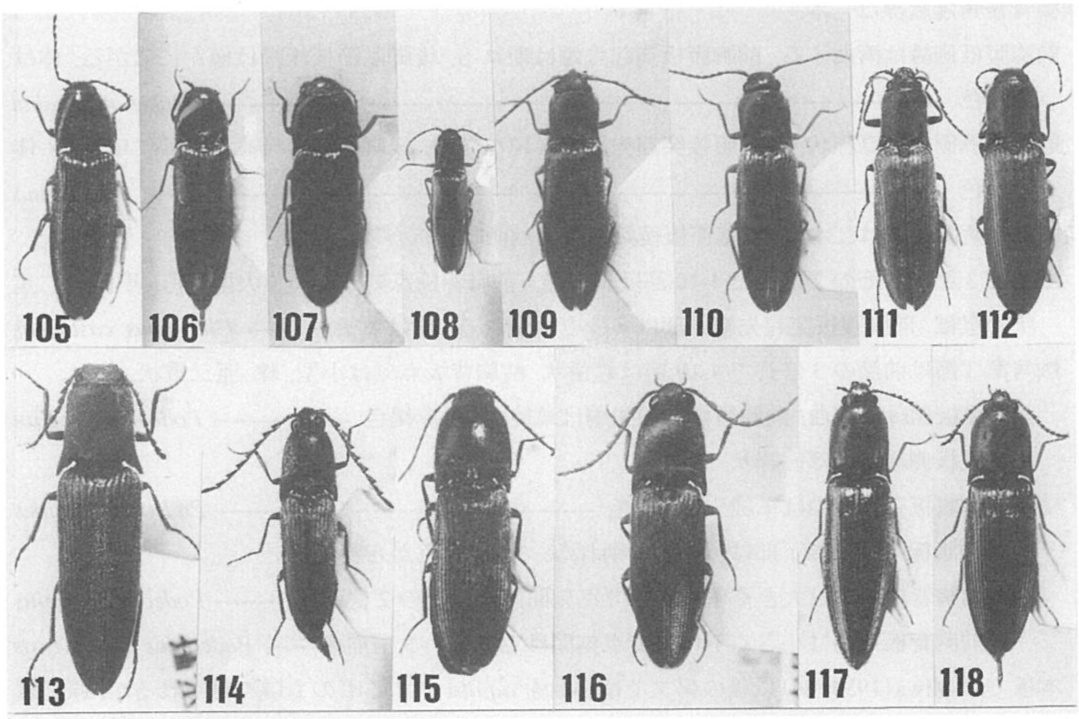

写真 **105-118**. **105**, オオダイクロコメツキ *Ampedus yaku ohdai*（愛知県稲武町面の木峠, ♀, 8.8 mm）; **106**, ギョウジャホソクロコメツキ *A. gyojya*（愛知県稲武町面の木峠, ♀, 6.7 mm）; **107**, チビクロコメツキ *A. pauxillus*（長野県王滝村御岳八海山, ♀, 5.9 mm）; **108**, クロスジヒメコメツキ *Dalopius patagiatus*（岐阜県高根村日和田高原, ♂, 6.1 mm）; **109**, ニホンヒメコメツキ *D. niponensis*（長野県大鹿村鳥倉山林道, ♀, 6.7 mm）; **110**, ナオミヒメコメツキ *D. naomii*（長野県長谷村戸台, ♀, 7.9 mm）; **111**, ヒダムネナガカバイロコメツキ *Ectinus hidaensis*（岐阜県高根村日和田高原, ♂, 11.5 mm）; **112**, オオカバイロコメツキ *E. dahuricus persimilis*（岐阜県高根村日和田高原, ♀, 11.5 mm）; **113**, オキナワホソコメツキ *Ludioschema okinawensis*（石垣島平野, ♂, 13.1 mm）; **114**, コヒゲナガコメツキ *Mulsanteus linteatus*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 8.9 mm）; **115**, 同（鹿児島県佐多町杉山谷, ♀, 9.7 mm）; **116**, リュウキュウコナガコメツキ *M. aureopilosus*（石垣島吉原, ♂, 12.0 mm）; **117**, コガネホソコメツキ *Sericus bifoveolatus*（長野県王滝村鈴が沢, ♂, 11. 6 mm）; **118**, 同（岐阜県河合村天生峠, ♀, 11.2 mm）.

ア産の種には *Anchastus* と *Anchastelater* を用いた. しかしユーラシア大陸分布の種は全てこれとは異質性が高いとし, Dolin(1976: 645-647), Gurjeva(1979: 123-129)など旧ソ連系研究者は *Podeonius, Astanchus, Chastanus, Porthmidius* の 4 属に分割して論じた. また大平(1996: 1-14)は *Anchastus* として邦産種 7 種と 1 亜種を報じたが, 後にこの全てを *Podeonius* 種とした(大平, 2003: 19-21). 筆者は本邦産種の所属は以下の様になると考えているが, 小笠原諸島から記載された *Anchastus yamamotoi* は資料未検で除き, また *castaneus* とされる資料中には別種と見られる個体があるがこれも除外した.

前胸背後角隆起線は一本.

前胸腹板側縁は湾曲する. 前胸腹板突起先端は剔れる. 後脚基節板後縁は僅かに広がる. 体は赤褐色 ---------- *Suzukielater babai*

前胸腹板側縁は直線状. 前胸腹板突起先端は単純な鈍端. 後脚基節板後縁は顕著に広がる. 体は黒色 ---------- *Akitsu mus*

前胸背後角隆起線は二本. 後脚基節板後縁中央部は明瞭に広がる.

触角第3節は前節の2倍長で4-10節は長方形. 前胸背板点刻は極めて大型, 密, 明瞭に二重状で粗雑. 前胸腹板突起先端下部は多少とも剔れる. 体は黄褐色 ------ *Chastanus castaneus*

触角第3節は前節の3倍長で4-10節は鋸歯状. 前胸背板点刻は小型, 疎, 亜二重状.

前胸腹板側縁は湾曲. 前胸腹板突起先端は単純. 体は赤褐色 ---------- *Podeonius nagaoi*

前胸腹板側縁はほぼ直線状.

前胸腹板突起先端は単純. 体は黒色 ---------- *Podeonius rufipes*

前胸腹板突起先端下部は多少とも剔れる. 体は栗色から黄褐色.

前胸背板点刻は大きく寧ろ均質で点刻間は点刻径の2倍前後 -------- *Podeonius aquilus*

前胸背板点刻は小さく不均質で点刻間は点刻径の3倍前後 ----- *Podeonius amamiensis*

本種ではMiwa(1934: 86)以後の報文で種小名を *aquilis* とするものも屡々見られるが, 原記載では *aquilus* である. 北海道を除く本土全域と殆どの付属諸島及び南西諸島の大部分, 国外では台湾に分布し燈火飛来が多く, 奄美大島から先島諸島(*ryukyuensis*)及び台湾(*formosensis*)の個体群はそれぞれ別亜種とされるが, それぞれ独立種の可能性もある. また済州島からの記録例もあるがこれは資料未見で少々疑わしい点もある.

Podeonius aquilus ryukyuensis (Ohira, 1968) リュウキュウアシブトコメツキ

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 26-29. VI. 2003.

前種の島嶼型亜種として奄美大島から西表島までの多くの島々に分布し, これまで種子島と屋久島で得られる個体群も同じものとされていたが, これらの地域と高知県一部には原名亜種と本亜種と見られるものが混じて分布し, それぞれ別種と見なすのが妥当かもしれない.

ELATERINAE(コメツキ亜科) : **Agriotini**(カバイロコメツキ族)

Dalopius ainu Kishii, 1962 エゾナカグロヒメコメツキ

北海道羅臼町茂瀬苅別林道, 1 ♂, 20. VII. 1998.

北海道産 *Dalopius* 属の種は従来本種のみであったが, 音別町キナシベシ浜から *kushiroensis* クシロヒメが記載され2種となる. 本種は利尻・礼文・奥尻・国後・色丹島と樺太(Gurjeva, 1979: 352)からも記録されているが, 最近イタリアのS. Riese から同定依頼の樺太産資料47頭には既知種でないもの数種も含まれ, 本種は国後島からの1雌個体を除き認められなかった. なお従来北海道から報告された別種名称の本属種は全て本種であろう(Lewis, 1894: 316, as *patagiatus* from Junsai; Miwa, 1934: 135-136, as *marginatus* from Sapporo, etc.).

Dalopius exilis Kishii, 1956　ナガナカグロヒメコメツキ

長野県安曇村上高地付近, 2 ♂♂, 21. VII. 1990; 同梓川上流, 1 ♀, 25. VII. 1987; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 19. VII. 1986; 1 ♂, 27. VII. 1986; 4 ♂♂, 5. VII. 1987; 2 ♂♂, 25. VII. 1987; 1 ♂, 2. VIII. 1987; 1 ♂, 5. IX. 1987; 2 ♂♂, 23. VII. 1988; 1 ♂, 3 ♀♀, 4. VII. 1993; 1 ♂, 28. VII. 2001; 1 ♀, 1. VIII. 2003; 同(1800-2000 m), 1 ♀, 24. VII. 2004; 同鈴が沢, 1 ♂, 4. VIII. 1991; 上村しらびそ高原, 1 ♀, 1. IX. 1990; 長谷村三峰大曲, 1 ex., 28. VII. 1985.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 18. VI. 1989; 1 ♂, 20. VII. 1990; 1 ♂, 29. VII. 1990; 高根村日和田高原(1600 m), 1 ♂, 16. VI. 1991; 1 ♂, 7. VIII. 1994; 1 ♂, 29. VII. 1995; 2 ♀♀, 3. VIII. 1997; 2 ♂♂, 2 ♀♀, 31. VII. 2004(LT); 本巣町温見峠(950 m), 5 ♂♂, 15. VIII. 2003.

属の基本種(*Elater marginatus*)はヨーロッパからモンゴル辺りまで分布する様で, かってはロシア沿海州・中国東北・朝鮮半島・樺太・本邦からも記録されていた. しかしこの地域分布の個体群は Gurjeva(1979: 344-353)により本邦を除き別の 3 種に分けられた. *Dalopius* 属は北米で極めて多くの種に分化していて(Brown, 1934, 42 spp.), 本邦産のものも最近までの研究で大凡 13 種が記載され, 更に数種の未記載種も存在する. 本種はその中では細長い体形と上翅間室が圧平され, 雄生殖器形状は前種に似るが他種より長いので分かり易い. 分布範囲は広く本州全域と佐渡から知られるが, 中国地方と四国・九州からの記録例は検討を要する.

Dalopius tamui Kishii, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♂, 2 ♀♀, 20. VIII. 1988; 2 ♀♀, 21. VIII. 1988.

和歌山県古座川町大塔山松根, 1 ♂, 11. VI. 1988.

徳島県東祖谷山村剣山, 1 ♀, 17. VII. 1988.

本種は前種および次種と共に東海・近畿圏を中心に最も広い分布域をもつ種の一つで, 北陸・関東・中部・中国・四国・九州の一部からの報告例もあるが, 外部形態からは同定の難しいグループなので誤認のものが含まれる可能性もある. しかし通常種毎の雄交尾器形状に顕著な形態差が認められ, また雌貯精嚢内の羽毛状角質構造でも形態的な違いがあるので, その比較精査での確認は欠かせない.

Dalopius patagiatus (Lewis, 1894) クロスジヒメコメツキ(写真 108)

長野県王滝村御岳八海山, 1 ♀, 19. VII. 1986; 1 ♂, 26. VII. 1986; 1 ♂, 22. VII. 1987; 1 ♀, 25. VII. 1991.

静岡県静岡市二軒小屋西俣, 1 ♀, 4. VIII. 2001.

岐阜県高根村日和田高原, 2 ♂♂, 1 ♀, 3. VII. 1988; 同(1600 m), 2 ♂♂, 2 ♀♀, 15. VI. 1991; 1 ♀, 10. VII. 1994; 1 ♂, 29. VII. 1995; 1 ♂, 29. VII. 2000.

愛知県稲武町段戸裏谷, 7 exs., 18. V. 1985; 同面の木峠, 1 ♂, 2 ♀♀, 2. VI. 1985; 1 ♀, 28. VI. 1986; 1 ♀, 24. V. 1987.

Lewis(1894: 315-316)が Chiuzenji, Hakone, Wada-toge, Junsai から記載したが, この資料中に複数の別種が含まれていた事が Miwa(1928b: 49; 1934: 136)や中根(1959: 91-93)により判明し

処理された．本種は本州中央山地に広く分布し上翅の黒条は明瞭，直線状で中央部も広がらず，本属種としては比較的分かり易い．近畿地方から東北地方までの山地での資料を確認しているが，従来報告例をもつ中國・四国・九州に関しては誤認の可能性もあると見られる．

Dalopius japonicus Kishii, 1984 ミヤマナカグロヒメコメツキ

長野県王滝村鈴が沢，1 ♂，4. VIII. 1991.

前胸部は一般に赤褐色から黒褐色，上翅の黒条はやや薄く中央部は側方に広がる傾向が強く，体も前種より小さく軟弱である．よく似た次種との比較では雄生殖器中片は特異的に幅が広く大型で分かり易い．中部以北の山地に分布する．

Dalopius miwai Ohira, 1972 ナカグロヒメコメツキ

岐阜県高根村日和田高原，2 ♀♀，26. VII. 1987.

前種によく似るが一般に上翅の黒条は細く中央部が側方に広がる事は殆ど無い．体も前種より小さい．よく似た前種とは雄生殖器形状が明らかに細く，特にその中片は多くの他種同様に幅が細いので分かり易い．中部・関東以北の山地に分布し佐渡からも記録されている．

Dalopius niponensis Ohira, 1970　ニホンヒメコメツキ（写真 109）

長野県大鹿村塩川，1 ♀，2. VIII. 1987; 同鳥倉山林道，1 ♀，30. IX. 2003.

静岡県静岡市赤石ダム（1200 m），1 ♂，23. VIII. 1992.

一般に細身で全身が黒灰色を帯び黄色部は無いのが普通（稀に上翅側縁部が僅かに黄褐色）なので分かり易いが，よく似た小型の未記載種が台高山系で多く採れており注意が必要である．伊豆半島天城山の資料で記載され，現在までに記録のある地域は少なく，福井・神奈川・静岡・山梨・三重位であるが関東・中部の山岳地に広く分布すると見られる．

Dalopius naomii Kishii, 1981 ナオミヒメコメツキ（写真 110）

長野県松本市扉，1 ♂，14. VII. 1990; 長谷村戸台，1 ♀，25. V. 2003.

直海俊一郎博士が岐阜県新穂高温泉で採集された資料と，新潟・長野両県からの標本に基づいて記載したもので，その後東北・関東の山地帯に広く分布することが判明した．他の本属種では同じフイールドで多数個体が得られるのが一般であるが本種では少ない．大分県からの記録もあるがこの資料は検していない．邦産本属種の中では最も特異な種で，全体が赤茶色で上翅に暗色縦条斑を持たず，雄交尾器が極めて短大幅広の形状で本邦では他に類を見ない．

Ectinoides insignitus insignitus (Lewis, 1894) ヨツキボシコメツキ

長野県長谷村戸台，1 ♀，25. V. 2003; 1 ♂，2. V. 2004.

静岡県三ヶ日町本坂峠，1 ♂，4. IV. 1987.

邦産 Agriotini 族種の中では上翅に鮮明な 4 黄斑をもつ特異な種で，前胸腹板側縁溝と後端の形態，中胸腹板孔形状，両性生殖器形状の特異性から独立属とみなした（Kishii, 1966: 40; 1984: 12, 21-22）．本種は当初 Candèze（1873: 30）の記載した *Agriotes leucophaeatus* とされていたが，大平（1972: 69-72）はインドシナ辺りのものの混入か誤認によるものと推認し，Lewis が神奈川県の資料で記載した上記名が本種名称とされた．Gurjeva（1979: 431, fig. 773）は *leucophaeatus* 名で本種をロシア沿海州から記録しているが，この報告で図示された雄生殖器は少なくとも本種

のものではなく *Ectinus insidiosus* キアシクロムナボソに似た点がある. 本州・四国・九州・粟島から知られ, いわゆる里山など低山地が主たる棲息域で, 屋久島産の個体は上翅の黄色斑が大きく広がり, 斑紋輪郭が不明瞭で別亜種(*ogatai*)とされる. 本土産原名亜種では斑紋は鮮明で小型化するものが多く, 稀に斑紋の大きいものもあるが常に輪郭は明瞭である.

Ectinus insidiosus (Lewis, 1894) キアシクロムナボソコメツキ

富山県利賀村水無, 1 ♀, 23. V. 2004.

長野県安曇村梓川上流, 1 ex., 25. VII. 1987.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ex., 10. VIII. 2003; 1 ex., 1. VIII. 2004.

日光からの資料で記載された本邦固有種で, 本州全域の山地の花上に普通で佐渡からも知られるが, 四国・九州からの記録例はやや少ない. 触角基部数節の形状と長さ, 前胸腹板突起先端の小さな剔れ, 両性生殖器共に他の本属種のものとはやや異質な特徴をもつ.

Ectinus higonius (Lewis, 1894) クロムナボソコメツキ

富山県利賀村水無, 1 ♀, 23. V. 2004.

前種より分布範囲は広く北海道・粟島・奥尻島・屋久島からも記録され, 夏期山地の花上に多い本邦固有種である. 邦産 *Ectinus* 属は現在 15 種知られるが, 両性生殖器構造の特徴から交尾器側片先端部形状の異質性が高いもの(*exulatus, higonius* と *insidiosus*), *Agriotes* 種に類似の交尾器形状のもの(*koshiki*), 貯精嚢内の角質板が亜半月形(匂玉状)のもの(*dahuricus, obakoae, saitoanus, sepes, sericeus*)及び貯精嚢内角質板が円盤形(パレット状)の(*hidaensis, longicollis, miyakei, nipponicus, obscurolineatus, puberulus*)の大凡 4 グループに分けられる.

Ectinus longicollis (Lewis, 1894) ムネナガカバイロコメツキ

長野県安曇村梓川上流, 1 ♂, 1 ♀, 25. VII. 1987; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♀, 13. VI. 2004; 同鳥倉山林道, 5 ♂♂, 3 ♀♀, 3. VI. 2001; 王滝村御岳八海山, 9 ♂♂, 4 ♀♀, 19. VII. 1986; 3 ♂♂, 2 ♀♀, 26. VII. 1986; 1 ♂, 27. VII. 1986; 3 ♂♂, 9 ♀♀, 22. VII. 1987; 2 ♀♀, 3. VIII. 1987; 1 ♀, 1. VIII. 2003; 同御岳黒沢口, 4 ♂♂, 25. VII. 1992; 同氷ヶ瀬, 1 ♀, 29. VII. 1988.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♂, 18. VI. 1989; 2 ♀♀, 20. VII. 1990.

日光からの資料で記載されたが, 一般的形態・色彩・両性生殖器形状などの酷似した複数の別種があり, それぞれ次種, *nipponicus* ニホンカバイロ, *obscurolineatus* コゲチャムナボソとされた. 本種の東北地方から近畿圏までの個体は確認しているが, 四国・九州から記録されたものは次種とコゲチャムナボソの可能性が強い. 触角各節の形状と長さの比, 前胸背板点刻状態, 前胸腹板突起形状, 交尾器側片先端形状などの比較精査が必要である.

Ectinus hidaensis Ohira, 1998 ヒダムネナガカバイロコメツキ(写真 111)

長野県安曇村梓川上流, 1 ♂, 9. VII. 1988.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 27. VII. 2002; 1 ♂, 19. VI. 2004.

岐阜県を基産地として記載された本種は, 更に山梨・長野・奈良・大阪・愛媛からも記録されており比較的広く分布する. 前種によく似ているが触角第 2・3 節の長さの比較で区別は容易で, 似た別種としては前述のように他にも数種あるので注意を要する.

Ectinus puberulus (Miwa, 1928)　キンケオオカバイロコメツキ

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♀, 20. VIII. 1988; 1 ♂, 21. VIII. 1988.

札幌と岩手からの資料で記載され，北海道・本州の高地帯に分布し四国・九州からの報告例もある．しかし体形の類似する *miyakei* ミヤケムネナガと誤認される可能性もある．これは大分県久住山原産で，四国山地と紀伊半島の台高山系では両種ともに確認されている．

Ectinus dahuricus persimilis (Lewis, 1894)　オオカバイロコメツキ（写真 112）

北海道千歳市支笏湖, 1 ♂, 12-14. VII. 1988, 中村司 leg.

山梨県須玉町増富, 1 ♂, 2. VII. 1988.

長野県安曇村梓川上流, 1 ♀, 25. VII. 1987; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♀, 13. VI. 2004.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 1 ♀, 3. VII. 1988.

原名亜種はシベリア東部からの資料を基に Candèze (1863: 394) が記載し，ロシア沿海州までの広い地域に分布する．Gurjeva (1979: 359-360) は Lewis が北海道から記載した邦産の *persimilis* をシノニムと見なしたが，大平 (1968: 1-4) は上記のように別亜種とした．両者の雄生殖器はよく似ていて明らかに同系であるが，差異点もありこの処置は妥当と見られる．しかし北海道産と本州産の個体群間にも微妙な差が認められるので更なる検討をしてみたい．

Ectinus sepes (Lewis, 1879)　キアシムナボソコメツキ

愛知県稲武町面の木峠, 1 ♂, 24. V. 1987.

現在知られている本属邦産種では本種は最も小型で，*exulatus* ムナボソの小型個体に似ているが，触角基部数節，前胸腹板突起先端部形状，雌性生殖器構造などに明瞭な違いが認められる．近畿圏以西に分布し，北東部では三重・愛知・富山の資料を検したのみである．

Ectinus sericeus sericeus (Candèze, 1878) カバイロコメツキ

北海道小清水町野上峠, 1 ♂, 23. VII. 1998.

新潟県板倉町魚倉, 1 ex. 31. V. 1987, 金田吉高 leg.

山梨県上九一色村富士山青木ヶ原, 1 ♀, 20. VIII. 1988.

長野県王滝村御岳, 1 ♂, 5. VII. 1987; 同八海山, 1 ♀, 3. VIII. 1987; 開田村開田高原西野, 1 ♀, 15. VI. 1992; 同折橋峠, 1 ♀, 5. VII. 1997; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♂, 2 ♀♀, 13. VI. 2004; 同信州峠, 2 ♂♂, 3 ♀♀, 3. VII. 2004; 木曽福島町新開, 2 exs., 19. VI. 2004 (LT); 11 exs., 26. VI. 2004 (LT).

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 18. VI. 1988; 1 ex., 5. VII. 1997; 高根村日和田高原, 1 ♀, 29. VII. 1995; 1 ♂, 20. VII. 2003; 本巣町温見峠 (950 m), 1 ♂, 19. VII. 1999; 神岡町跡津川上流, 1 ♂, 28. V. 1989.

愛知県旭町旭高原元気村, 8 exs., 4. VII. 1997; 2 exs., 23. VI. 1998; 1 ex., 5. VII. 1998; 稲武町面の木峠, 1 ♂, 28. VI. 1986; 豊田市六所山, 5 exs., 9. V. 1987.

北海道とその付属諸島・本州・四国・九州・粟島・佐渡・隠岐に分布し，低山地から高地帯まで最も普遍的な種で樺太からの記録もある．対馬に分布するものは別亜種 (*babai*) とされ，類似の別種 (*tamnaensis*) が済州島に分布する．Gurjeva (1979: 361) はロシア沿海州からも記録しているが

資料未見で幾分疑わしい点もある．普通上翅のみ茶褐色で時に全体が黒色の個体もあり，中部以北から北海道産の個体は上翅茶褐色のもののみで，黒化型は近畿圏の台高山系個体でほぼ半数，中国西部・四国・九州あたりでは殆どが暗色系で，上翅茶褐色個体は極めて稀となる．

Agriotes elegantulus Lewis, 1894 ヒメカバイロコメツキ

長野県王滝村御岳八海山(1650 m)，1 ♀，29. VII. 1988; 南木曽町大平峠，1 ♀，2. VIII. 1997.

岐阜県根尾村温見峠(700-1050 m)，1 ♂，3 ♀♀，9. VIII. 1991; 同(900-1000 m)，1 ♀，10. VIII. 2002(LT)．

ユーラシア大陸では本属の分化が著しく極めて多くの種が知られ，その幼虫が各種の草本植物根茎食害虫として著名なものも含まれる．一般には中型種が殆どであるが，本種は小型で夏期花上飛来個体を多数見かける．この様な小型種は南西諸島にも2種分布するが，台湾など東南アジアでは極めて多くの種が見られる．東北地方南部から四国・九州まで広く分布するが付属島嶼からの記録はない．三輪勇四郎博士が九州大学の安松京三先生による祖母山で採集された12頭の資料(3. VIII. 1931)で記載された種(三輪, 1933b: 69 & 71, as *Agriotes yasumatsui*)と同じもので，後に本種のシノニムとされた(岸井, 1955: 109)．

ELATERINAE(コメツキ亜科)：**Elaterini**(オオナガコメツキ族)

Ludioschema vittiger fuscomarginatum (Lewis, 1896) クロヘリツヤコメツキ

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道，1 ♂，1 ♀，26-29. VI. 2003.

本種に相当すると見られるコメツキが本邦から報告されたのは，Lewisによると見られる資料に基づきCandèze(1873: 31)が鹿児島からの1頭をインド東部原産の*Agonischius obscuripes*としたのが最初で，更にLewis(1894: 314)はJanson標本とされる“Central Japan[!]”の資料2頭を検したと述べた．しかしこの種の本邦本土近辺での分布については疑問が多くその可能性は極めて低い．本邦周辺産資料に基づき最初に記載したのはHeyden(1887: 267-268)で朝鮮半島産資料を*Agonischius vittiger*と命名し，次いでLewis(1896: 337)が“Oshima(奄美大島)”からの資料を*Aphanobius fuscomarginatus*と命名したが，この際Janson標本についても*obscuripes*についても触れていない．これまでに筆者が検した朝鮮半島産資料(Hokusanmen, Corea, 2 ♂♂, 19. VI. 1933, K. Yamauchi leg.)と多数の奄美大島産資料の形態から，この両者は明らかに同種で，互いに別亜種関係となるものである．またMiwa(1927a: 18)が沖縄本島と石垣島産の資料を*Megapenthes vitticollis*と記載した種は，後に*vittiger*と同物とされ(Miwa, 1929: 350)，南西諸島産個体群はすべてLewisの*fuscomarginatus*と見なされた．従来このグループの所属には変遷が多く*Agonischius, Aphanobius, Megapenthes*(Megapenthini)，*Chiagosnius*等の属名が用いられていたが，Platia・Gudenzi(1998: 60-61)によりReitter(1891: 238)が創設した*Ludioschema*の名称が復活有効名となり，Suzuki(1999: 178, 252)により台湾及び本邦産の種にも適用され，属名のジェンダーの関係で上記名称となったものである．本亜種は奄美大島から西表島まで南西諸島には広く分布し奄美では普通で，台湾産個体群は別亜種とされ原名亜種個体群によく似る．

Ludioschema okinawensis (Miwa, 1927)　オキナワホソコメツキ(写真 113)

沖縄県石垣島平野, 4 ♂♂, 29. IV. 2001.

本種の頭・前胸・上翅の色彩は黒・茶褐・赤色および，その組み合わせなどに変化が多く，それぞれ複数の変異名が付されおり，今回のものは全て上翅と触角が濃黒褐色で，他は全て紅橙色の Miwa(1927a: 20)により *Megapenthes iwasakii* と命名されたもので，本種の色彩変異の一つと見なされ，沖縄本島と先島諸島に分布する．前種と共に本属の種は色彩変異が著しいが，交尾器形態では種間の明瞭な差異点が認められるので分類はさほど困難ではない．

Mulsanteus junior junior (Candèze, 1873)　ヒゲナガコメツキ

奈良県奈良市春日山白亳寺, 1 ♂, 11. VI. 1995.

本種の属名も前々種や前種同様に変遷が多く，*Ludius, Trichophorus, Neotrichophorus, Nairus* などが用いられ，スペインの Sánchez-Ruiz (1996: 154)により Gozis(1875: 50)の上記属名が有効適格名となった．北海道から九州までと多くの付属諸島から知られ灯火飛来が多く，低山地でのマレーゼトラップで多くの個体を見ることがある．屋久島産は別亜種(*yakuensis*)とされ，原名亜種より触角は短めで雄交尾器形態にも相違点が認められる．

Mulsanteus linteatus (Candèze, 1873)　コヒゲナガコメツキ(写真 114, 115)

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 11 ♂♂, 1 ♀, 17-18. VII. 2004; 屋久町栗生, 1 ♂, 16. VII. 1993.

北陸・近畿圏以西の照葉樹林帯での灯火採集で極めて稀に見られるが，今回杉山谷で 12 頭も得られたのは大変珍しい事である．屋久島はその南限分布地で，奄美以南の南西諸島及び朝鮮半島からの記録例もあるが疑わしく，次種の可能性が強いであろう．雌(写真 115)は短い触角のみならず体形も大きく肥厚し，上翅色彩も暗色で雄(写真 114)との性差が強く，兵庫県丹波産の本種雌個体に *Neotrichophorus? aureopilosus yamamotoi* の名が与えられたが(Nakane et Kishii, 1955a: 44-45)，後に本種の雌であることが判明している(岸井, 1985b: 21-22)．

Mulsanteus aureopilosus (Miwa, 1934) リュウキュウコナガコメツキ(写真 116)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♂, 30. IV. 2001; 1 ♂, 4. V. 2001.

西表島からの平山修次郎氏の資料(1 ex., V. 1932, 平山修次郎 leg.)で記載され，奄美大島(Ohira, 1967: 29)・沖縄本島(中條, 1973: 26-27)・伊平屋島(大平, 1978: 14)・石垣島(岸井, 1984: 21)からも記録されているが，竹富島(1 ♂, 1 ♀)と与那国島(1 ♂)の資料も検している．大平(1998: 24)は本種を前種の亜種と見なしたが，本土産前種とは異なり独立種と見て良いと考えている．本種より大型でよく肥厚した台湾原産の *rubuginosus* が石垣島から報告されているが(Ohira, 1967: 30, as *Neotrichophorus rubiginosus*[!])，本種の誤認の可能性がある．

Sericus bifoveolatus (Lewis, 1894) コガネホソコメツキ(写真 117, 118)

山梨県須玉町増富, 1 ♀, 2. VII. 1988.

長野県王滝村鈴が沢, 1 ♂, 20-21. VII. 1991.

岐阜県河合村天生峠(1300-1400 m), 1 ♀, 7. VIII. 1988; 高根村御岳日和田高原(1600 m), 1 ♂, 22. VI. 1997; 根尾村温見峠, 1 ♀, 1. VIII. 1998.

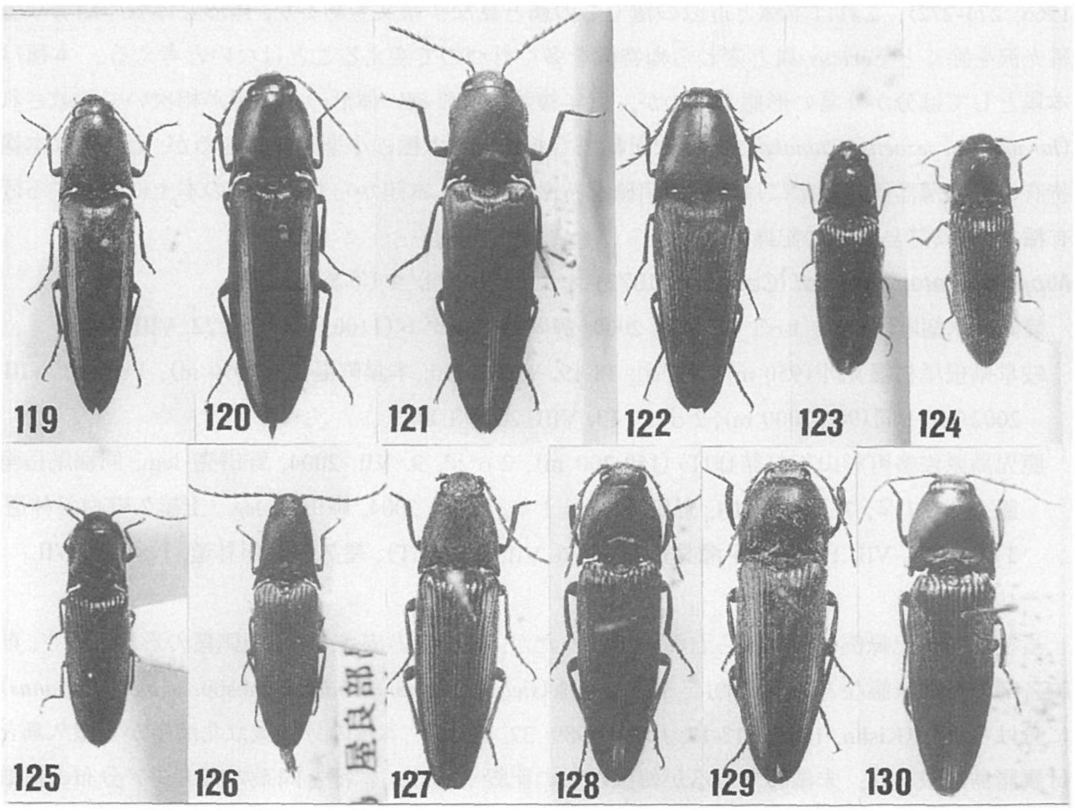

写真 **119-130**. **119**, オオナガコメツキ *Nipponoelater sieboldi*（岐阜県根尾村温見峠, ♂, 24.1 mm）; **120**, ヒメオオナガコメツキ *N. kometsuki*（長野県王滝村松越, ♀, 26.6 mm）; **121**, アマミオオナガコメツキ *N. amami*（奄美大島第二油井岳林道, ♀, 29.0 mm）; **122**, ヒメクロナガコメツキ *Elater georgelewisi*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 22.3 mm）; **123**, アマミツヤクチブトコメツキ *Okinawana hatayamai amami*（奄美大島第二油井岳林道, ♂, 7.3 mm）; **124**, ヨナグニクチボソコメツキ *Glyphonyx yonaguni*（石垣島オモト岳, ♂, 8.5 mm）; **125**, シバタクチボソコメツキ *G. shibatai*（奄美大島第二油井岳林道, ♂, 7.1 mm）; **126**, アカホソクシコメツキ *Priopus ferrugineipennis ferrugineipennis*（石垣島屋良部岳, ♂, 10.9 mm）; **127**, ヤクヒラタクシコメツキ *Melanotus issikii*（屋久島上屋久町白谷雲水峡, ♂, 14.2 mm）; **128**, ヒメクシコメツキ *M. legatoides*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 17.2 mm）; **129**, ルイスクシコメツキ *M. lewisi lewisi*（鹿児島県佐多町杉山谷, ♂, 19.4 mm）; **130**, スケナガクシコメツキ *M. sukenagai*（石垣島屋良部岳, ♂, 19.3 mm）.

愛知県稲武町面の木峠, 1 ♀, 27. VI. 1992.

本種は当初 *Megapenthes* 種として記載されたが, *Vuilletus* 種として本族に移され（岸井, 1955: 109）, 更に両性生殖器構造の相似性が高い *Sericus* 種と見なされた（Kishii, 1987b: 173）. *Sericus* 属はユーラシア大陸に広く分布する *Elater brunneus* が基本種で本邦にも分布し, Miwa（1928b: 40-41）が樺太から記載した *Pittonotus sachalinensis* はその亜種で（鈴木, 1987: 6-7）, 北海道と本州の個体群も同じ亜種とされる. 台湾産の *Shirozulus formosanus* が新属新種で記載され（Ohira,

1966: 271-272), これは本種と近似の種でこの属と見なす報文もあるが, 体形と体表の顕著な金属光沢を除くと *Sericus* 属と変わらぬ特徴を多くもつので変えることはないと考える. 本種は本属としては分かり易い形態をもつが, 近年複数のより細い体形の小型種が相次いで記載され (*hiramatsui, jezoensis, tanakai* etc.), 未記載種もあり全て本種の小型個体に似るが, それぞれ本属特有の雄生殖器側片形状には種毎の明確な特徴をもつ. 本州から九州までの本土に分布する固有種で, 付属諸島からの記録例はない.

Nipponoelater sieboldi (Candèze, 1873) オオナガコメツキ (写真 119)

静岡県水窪町門桁山, 1 ♂, 12. VIII. 2000; 静岡市畑薙ダム (1100 m), 1 ♀, 22. VIII. 1992.

岐阜県根尾村温見峠 (950 m), 2 ♂♂, 18-19. VIII. 1990; 本巣町温見峠 (950 m), 1 ♂, 10. VIII. 2002 (LT); 同 (900-1000 m), 2 ♂♂, 13. VIII. 2004 (LT).

鹿児島県佐多町杉山谷打詰 (FIT) (150-200 m), 2 ♂♂, 9. VII. 2004, 野田亮 leg.; 同稲尾岳南麓, 1 ♂, 1 ♀, 7. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 1 ♀, 5. IX. 2004, 野田亮 leg.; 上屋久町白谷林道, 3 ♂♂, 14. VII. 1984; 同平瀬林道, 1 ♂, 6. VII. 2002 (LT); 屋久町大川林道, 1 ♂, 18. VII. 1993.

当初本種の記録例は本邦から台湾まであったが, 複眼間の広さ, 触角節側葉の形状と長さ, 前胸各部の点刻状態などで地域的に 3 種 2 亜種 (*sieboldi, amami, babai*; subspp. *seinoi, taiwanus*) に分けられた (Kishii, 1987a: 12-17; 岸井, 1989: 37, 49-50). 本種の分布域は北海道から屋久島と付属諸島に限られ, 未確認であるが韓国からの記録もある. 本種と同系の東アジア分布の複数種など類似数種の所属を北米系の *Orthostethus* 属とする報文もあるが, アジア系の種では中胸腹板は単純で, 腹板溝側縁は直線状, 一方 *Orthostethus* 基本種の北米産 *Aphanobius infuscatus* では, 中胸腹板のほぼ中央が内方に段刻状に大きく屈曲し, 腹板溝もほぼ中央で直角的に陥没湾曲する. 背面観は互いによく似るがそれぞれの地域で互いに別系統分化したもので, アジア系の種群ではこれらの特徴に基づく上記属名 (Kishii, 1985: 23) と見なすのが妥当と考える.

Nipponoelater kometsuki (Kishii, 1985) ヒメオオナガコメツキ (写真 120)

長野県王滝村松越, 1 ♀, 24. VII. 2004 (LT).

岐阜県根尾村温見峠, 1 ♂, 8. VIII. 1998; 本巣町温見峠 (950 m), 1 ♂, 10. VIII. 2002 (LT); 1 ♂, 15. VIII. 2003; 同 (900-1000 m), 1 ♂, 13. VIII. 2004 (LT).

長野・岐阜両県からは初めてだが筆者の手元には伊那谷の資料もある (1 ♀, Inadani, 14. VIII. 1989, 林靖彦 leg.). 茨城 (holotype)・新潟・京都の資料で記載したが, これまでに千葉・神奈川・東京・愛知・奈良・岡山・鳥取・広島・徳島・香川からも報告され分布域は広いが前種よりは少ない. 前種によく似た種であるが平均的に小型で光沢は強く, 前胸背板点刻はより疎, 前胸腹板突起後方下面の段刻は突起中央より後方で短小, 触角第 3 節以降の側葉先端の発達は弱く, 上翅末端部は鈍端状で刺状に突出しない. この上翅末端部形状の図示で記載時 (Kishii, 1985: 22-24) に付図の表示番号を誤記したので下記のように訂正する.

［記］ p. 22: 図番号 : 70 (誤) → 72 (正), 72 (誤) → 70 (正); 図説明と記載文の図説名 (p.23) は変更なし.

Nipponoelater amami (Kishii, 1987) アマミオオナガコメツキ(写真 121)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 1 ♀, 26-29. VI. 2003.

本邦に広く普通に分布する前々種の亜種として記載され，後に奄美大島と加計呂麻島に特有の独立種とされた(大平, 2003: 16)．なお，奄美大島にはよく似た *N. babai seinoi* アマミフトナガも分布するので注意を要するが，触角節の形状が異なるので分かり易い．この種の原名亜種は西表島原産で，沖縄本島と石垣島の分布も知られ，別亜種(*taiwanus*)が台湾に分布する．

Elater (Parallelostethus) georgelewisi W. Suzuki, 1985 ヒメクロナガコメツキ(写真 122)

岐阜県本巣町温見峠(950 m), 1 ♂, 15. VIII. 2003.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 5 ♂♂, 17-18. VII. 2004.

Lewis(1894: 265)は長崎で採集した資料(curious species)に，当時のコメツキムシ研究の権威 Dr. Candèze に献名して *Ludius Candezei* と命名したが，同名別種が既に記載されていることが判り，上記置換名が付された(W. Suzuki, 1985: 88)．本州北端から九州本土及び京都冠島と高知沖ノ島から記録されているが多くはない．四国本土からは報告例はなく，九州では基産地長崎以外に福岡・大分・熊本からの記録もあるが，鹿児島は初めてのようである．よく似た *E. (Elater) niponensis* オオクロナガは北海道から長崎及び屋久島に分布し本種とよく似ているが，これは体形がより肥厚し，本科の基本種ヨーロッパ産の *E. ferrugineus* と近似の種で色彩のみ異なり，前胸腹板突起先端の段刻は突起のほぼ中央近くで大きく円弧状に剔れている．

Vuilletus viridis (Lewis, 1894) ミドリヒメコメツキ

長野県大鹿村小渋湖畔, 1 ♀, 23. V. 1998.

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♂, 1 ♀, 18. VI. 1988; 1 ♂, 16. VI. 2001; 同保木脇, 1 ♀, 18. V. 2003; 根尾村水鳥谷渓谷, 1 ♀, 5. V. 1986; 谷汲村岐礼谷, 1 ♀, 12. V. 1985.

愛知県稲武町段戸裏谷, 1 ♀, 12. VII. 1987; 足助町平沢, 1 ♀, 3. V. 1985.

本属の種は体表全体が顕著な緑色金属光沢をもつ美麗なもので，南西諸島を経て東南アジアに多い．本邦固有種で広く本州・四国・九州の各種花上に普通であるが，付属諸島からの記録例はない．前胸背板点刻は大きくやや疎で点刻間は明らかに離れて平滑であるが，微細な皺状構造で被われる個体(ab. form. *subopacus*)もあり，これを別種又は亜種と見なす研究者もいる．この属の種では両性生殖器構造に差異点が少なく分類の難しいグループである．

Vuilletus yamazakii Ohira, 1987　ツヤミドリヒメコメツキ

岐阜県高根村御岳日和田高原, 2 ♂♂, 2 ♀♀, 26. VII. 1987.

段戸山(愛知)・上高地(長野)・平倉(三重)の資料で記載され，後に新潟・福井・山梨・岐阜・奈良からも報告された．兵庫県の福知渓谷産資料(1 ♂, 1 ♀, 3. VI. 1976, M. Yuma leg.)も見ているので，近畿圏から東海・中部山地帯に分布する．本種については岸井・大平(1956: 74)が，新潟県黒川村の馬場金太郎博士の蒐集資料で，*Metaricus nitidicollis* Nakane et Kishii (MS) (Ctenicerinae ヒラタコメツキ亜科)の新属新種の名称で報告したのが初めてで(1958: 35-36; 未記載で無効)，後に中根(1959: 93-94)は BMNH 所蔵の *Sericosomus viridis* Lewis, 1894 のタイプ資料と照合の上これと同物とみなしたが，Ohira(1987: 285-287)が命名した本種は明らかに上記の本種つまり

nitidicollis で，*viridis* とは異なる種と見なして好い．この両者間には外部形態で差異点が認められ，*viridis* よりやや大きく肥厚度も強く，色彩と光沢は赤紫色に近い個体が多い．また前胸背板点刻は大型密で後角部は殆ど平滑部で占められ，僅かな微小点刻があるのみである．中根は同時に本邦各地産の資料を検討した結果として，主として前胸背板の点刻と点刻間の微細構造の特徴などで，2 亜種と 1 異常型(subsp.及び f.と表記)を新設したが，その分布域の殆どで重なることが多く，同じ発生期や花上で見いだされるなどで，岸井(1986: 32)は命名規約の主旨に従いその全てを独立種としたが，確定的な処置とするには検討課題も多い．また本属の本土産種個体群間では両性生殖器構造は互いに類似し，明確な違いを見いだすのは困難である．

Vuilletus peropacus (Nakane, 1959)　ツヤケシミドリヒメコメツキ

岐阜県白川村白山大白川林道, 1 ♀, 18. VI. 1988.

滋賀県日野市綿向山, 1 ♂, 14. V. 1983.

前胸背板の光沢は鈍く，点刻は小さく密で点刻間は顕著に微細な皺状(鮫肌)構造で被われる．前 2 種と共に得られることもあり，体表は一般的には赤銅色を帯びた緑色で体形も大きく肥厚度も強い．しかし個体によっては前々種の *subopacus* 型に近いものもある．両性生殖器構造も殆ど同じである．確認できた産地は富山・石川・福井・岐阜・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・兵庫で，北海道・青森・岩手・山形からの報告例もあるが，これには近似の *crebrepunctatus* オオミドリヒメの誤認の可能性もある．

Dolerosomus gracilis (Candèze, 1873) キバネホソコメツキ

長野県大鹿村小渋湖畔, 1 ♂, 29. V. 1999; 開田村開田高原西又, 1 ♂, 1 ♀, 24. V. 2003.

岐阜県本巣町パルプ工場土場, 1 ♂, 11. V. 1985; 3 ♂♂, 4 ♀♀, 5. V. 1986; 同日当土場, 3 ♂♂, 10. V. 1986; 谷汲村岐礼谷, 3 ♂♂, 3 ♀♀, 12. V. 1985; 神岡町跡津川上流, 2 ♀♀, 28. V. 1989; 根尾村高尾谷, 1 ♂, 25. IV. 1987.

愛知県足助町大多賀, 2 ♂♂, 1 ♀, 18. V. 1986; 同平沢, 1 ♂, 2 ♀♀, 3. V. 1985; 豊田市六所山, 1 ♂, 9. V. 1987.

滋賀県日野市綿向山, 1 ♂, 14. V. 1983.

京都府京都市左京区岩倉, 3 ♀♀, 11. V. 1984.

和歌山県古座川町大塔山松根, 1 ♂, 2-3. VI. 1990.

北海道から九州までと殆どの付属諸島で，早春から初夏の候各種の花上で普通の本属種としては唯一の本邦固有種で，交尾器側片形状は独特で，外形共に北米に多い *silaceus, debilis* などとよく似る．両性の性差は触角・色彩などで明らかであるが，稀に紛らわしい個体もある．

ELATERINAE(コメツキ亜科)：**Synaptini**(ニセムナボソコメツキ族)

Silesis musculus musculus Candèze, 1873　クチブトコメツキ

栃木県下都賀郡野木神社近傍(渡良瀬遊水池), 1 ex., 22. VI. 1986.

長野県白馬村猿倉, 1 ex., 18. VIII. 2000; 安曇村梓川上流, 1 ex., 25. VII. 1987; 上村しらびそ高

原, 1 ex., 1. IX. 1990; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 1 ♀, 3. VIII. 1986; 1 ♂, 19. VII. 1987; 1 ♀, 5. IX. 1987; 1 ♀, 20-21. VII. 1991; 1 ex., 25. VII. 1991; 1 ♂, 20. VII. 2003; 同 (1800-2000 m), 1 ex., 24. VII. 2004; 同鈴が沢, 1 ex., 2. VIII. 1992; 同牧尾ダム, 1 ex., 22. VII. 1995; 木曽福島町東山土場, 2 exs., 20. VII. 1986; 17 exs., 5. VII. 1987; 2 exs., 22. VII. 1987; 3 exs., 26. VII. 1987; 同新開, 1 ex., 26. VI. 2004(LT); 南木曽町上在郷, 1 ex., 19. VII. 1997; 長谷村三峰大曲, 3 exs., 28. VII. 1985; 同戸台, 1 ex., 28. VII. 1985; 同三峰川上流, 1 ex., 2. VIII. 1986; 川上村梓山戦場ヶ原(1400 m), 1 ex., 15. VII. 1997; 2 ♂♂, 3. VII. 2004; 開田村開田高原西又, 1 ex., 24. VII. 1992.

静岡県水窪町門桁山, 3 exs., 12. VII. 2003; 2 exs., 22. VII. 2000; 同家老平(1200 m), 1 ex., 24. VII. 1999; 静岡市大間, 3 exs., 14. VIII. 1993; 同畑薙ダム(1100 m), 1 ex., 22. VIII. 1992.

岐阜県高根村日和田高原(1650 m), 1 ex., 18. IX. 1988; 同(1600 m), 1 ♂, 7. VIII. 1994; 根尾村温見峠, 2 exs., 15. VIII. 1997; 1 ex., 1. VIII. 1998; 同(950 m), 3 exs., 18-19. VIII. 1990; 1 ♂, 15. VIII. 2003; 1 ex., 8. VIII. 1998; 同(900-1000 m), 4 exs., 10. VIII. 2002(LT); 本巣町パルプ工場土場, 1 ex., 24. VI. 1990; 同温見峠(950 m), 5 exs., 19. VII. 1999; 1 ex., 10. VIII. 2002(LT); 1 ex., 16. VIII. 2002(LT); 19 exs., 15. VIII. 2003; 同(900-1000 m), 8 exs., 13. VIII. 2004 (LT); 荻原町大洞ダム湖畔, 1 ex., 6. VII. 2003.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ex., 4. VII. 1997; 稲武町面の木峠(1100 m), 2 ♂♂, 23. VII. 1984; 1 ex., 1. VIII. 1998.

本種が最初に記載されたのは Motschulsky(1866: 166)による *Agriotes ferrugineipennis* で, 次いで Candèze(1873: 31-32)の *Silesis musculus* であるが, 前者の名称は北米産種に先取されていて(Le Conte, 1861: 348), Lewis(1877: 16)が置換名を *Agriotes Candezei* とした. しかしこれもまた Lewis(1894: 315)の *Silesis musculus* var. *flavipennis* と同物とされ (Ohira 1969: 21-22) , Candèze の上記名が採用された. 里山から高地に最も普遍的な種で黒色・茶褐色・赤褐色・黄赤色など色彩変異も多く, また地域的な変異も見られる. 北海道から九州までと殆どの付属諸島に分布し, 普通赤褐色の触角と黄褐色の脚部を除き全身黒色であるが, 北部日本産の個体に比し四国・九州など南西日本に分布するものは, 体幅がやや広く体色も茶褐色～赤褐色気味で, 特に前胸背後角部と上翅側縁部では明瞭に赤味が強い(Kishii, 1976: 50). Candèze の記載文(prothorace ----, marginibus rufescentibus, ----)からは南西日本産個体を基にしたもののようであるが判然としない. この両個体群は紀伊半島辺りで微妙に分かれているようで, *Ectinus sericeus* カバイロの体色変異傾向とよく似る. 八丈島(*nomurai*)・対馬(*tsushimensis*)・済州島(*quelpartianus*)の個体群はそれぞれ別亜種とされ, 屋久島からは類似するが独立種として次種が知られている.

Silesis yaku Kishii, 1976 ヤククチブトコメツキ

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1 ♀, 12. VII. 1995; 1 ex., 9. VII. 2002; 同白谷 17 号支線, 1 ♂, 11. VII. 1986; 同平瀬林道, 2 exs., 6. VII. 2002(LT); 3 exs., 7. VII. 2002(LT); 屋久町大川林道, 1 ♀, 19. VII. 1993; 同荒川林道, 1 ex., 10. VII. 1995; 同小島, 1 ex., 7. VII. 1995.

小杉谷で 1950 年代に複数個体が採集され, 本邦山地で広くかつ極めて普通に見られる前種

小杉谷で 1950 年代に複数個体が採集され，本邦山地で広くかつ極めて普通に見られる前種として報告されたが，後に屋久島固有の独立種(Kishii, 1976: 51-53)とされ，島内では広く普通に見られる．また屋久島西北方にある黒島からの記録例もある．

Okinawana hatayamai amami Kishii, 1976 アマミツヤクチブトコメツキ(写真 123)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 26-29. VI. 2003.

当初 *Silesis* 属として沖縄本島と徳之島の資料で記載(Kishii, 1975: 6-7)されたが，翌年前胸腹板突起先端部の独特な形状，特異な雌貯精嚢内ブラシ状角質板などと，その他多くの差異点から新設の *Okinawana* 属の基本種とされ，奄美大島産個体群を別亜種とした(Kishii, 1976: 54-55)．今回の資料と共に再検討したが，奄美大島のものは沖縄本島の原名亜種個体群との間に差異点が多く，或いはそれぞれ独立の別種の可能性もある．また徳之島の資料は 1 頭のみであるが，奄美大島産個体とは異なる特徴をもち，これもその別亜種の可能性が強い．

Glyphonyx yonaguni Kishii, 1974 ヨナグニクチボソコメツキ(写真 124)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♂, 29. IV. 2001; 同オモト岳, 2 ♂♂, 1 ♀, 3. V. 2001.

本種は前胸背板点刻が極めて密，同後角部から前縁近くまで伸びる長い側縁隆起線，上翅間室の不規則で密な横皺の隆起状構造などで台湾産の *longulus, formosanus, grossus, chipensis* 等と同系統と見なされる．与那国島産の 1 雌個体で記載されたが，石垣島オモト岳からはこれまでにも比較的多くの個体が得られている．

Glyphonyx pallidipes Miwa, 1934 サキシマクチボソコメツキ

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 1 ♀, 3. V. 2001.

南西諸島には本属の種が多いが，石垣島からは全体がほぼ黒色で最も小型の本種が最も多く見られ，次いで小型で黄色上翅に黒条のある *iriomotensis* イリオモテクチボソ，屋久島のヤククチブト(*Silesis yaku*)に似た *haterumarum takahashii* タカハシクチボソ及び前種の 4 種知られていて，それぞれ大きさ色彩などが明確に相違し区別は困難でない．

Glyphonyx ihai Ohira, 1968 イハクチボソコメツキ

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♀, 26-29. VI. 2003.

奄美大島の本属種は *esakii, ihai, kishiii, matobai, okinawanus, shibatai, yoshimotoi, yuwancola* など 8 種知られているが，互いに両性生殖器構造も類似するので同定には注意を要する．本種は最も小型で黒色上翅の基部側方に近く明瞭な黄色縦斑があるので分かり易い．

Glyphonyx shibatai Ohira, 1968 シバタクチボソコメツキ(写真 125)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 2 exs., 26-29. VI. 2003.

Glyphonyx 属は本邦本土では種数が少ないが，南西諸島以南では台湾(34 種)や東南アジアでの分化が著しい．本種は *okinawanus* オキナワムネアカクチボソに似て，*yuwancola* ユワンクチボソを除くと大型で，体は黒色で触角と脚部は鮮明な黄赤色，体はより細長い

Glyphonyx uedai uedai Kishii, 1977 ウエダクチボソコメツキ

鹿児島県上屋久町小瀬田, 1 ♀, 12. VII. 1986; 屋久町栗生, 1 ♂, 6. VII. 2002.

屋久島分布の本属は 3 種あり，本種は *bicolor yaku* ヤクキバネクチボソに似るが，細型で前胸

Glyphonyx dalopioides Nakane, 1959　クロスジクチボソコメツキ

栃木県下都賀郡野木神社近傍(渡良瀬遊水池), 1 ex., 22. VI. 1986.

長野県南木曽町上在郷, 2 exs., 19. VII. 1997.

Dalopius patagiatus クロスジヒメの項でも触れたが, この種の記載時(Lewis, 1894, 315-316), 資料中に複数の別種が含まれていたことが, Miwa(1928b: 49; 1934: 136)や中根(1959: 91-93)により判明し, その一つが上記のように命名されたものである. 北海道から九州までの広い地域から記録されており珍しい種ではないが, 種名のように *Dalopius* 属の種と似ているので誤って *Dalopius* 種として記録されている可能性はある.

Glyphonyx illepidus Candèze, 1873 クチボソコメツキ

長野県南木曽町上在郷, 1 ex., 19. VII. 1997.

本州分布の本属は 3 種知られ長野県からの本属種は *bicolor* キバネクチボソのみであったようである. 青森から長崎まで広く分布し, 日当たりの好い広葉樹の葉上で多数個体が活動する事もあり, 燈火にもよく飛来する.

MELANOTINAE(クシコメツキ亜科)

Priopus (Priopus) ferrugineipennis ferrugineipennis (Miwa, 1927) アカホソクシコメツキ (写真 126)

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 30. IV. 2001.

沖縄本島から記載(Miwa, 1927b: 110)されたが, 後に原産地は石垣島に訂正され同時に西表島からも記録された(Miwa, 1934: 256). しかし後に沖縄本島の分布も明らかになり新しく別亜種として(*kuniyoshii*, Ohira, 1967: 37)記載され, また与那国島からは類似資料が得られ別亜種として(*yonaguni*, Kishii, 1982: 47-48)記載されたが, これは現在与那国島固有の独立種とされる. 本種の分布地として韓国と済州島(Lee, 1995: 76-77)も知られているが, この済州島の個体はこの報文の付図(p.78, figs. 1 & 3, 図番号と説明が一致していないが, 図からは 1 が全形図, 3 が雄交尾器の図と判断される)から, 最近独立の別種とされ記載された(*bibari*, Kishii et J.-C. Paik, 2002: 17-18). 韓国本土の資料は検していないが少なくとも本種ではないと考えられ, 本種の分布地は南西諸島に限定されると思う.

Melanotus castanipes matsumurai Schenkling, 1927 ハネナガクシコメツキ

北海道羅臼町茂瀬苅別林道, 1 ♀, 20. VII. 1998; 小清水町野上峠, 1 ♂, 23. VII. 1998; 幌加内町白樺, 1 ♂, 26. VII. 1998.

長野県王滝村御岳高原(1300 m), 1 ♂, 24. VII. 1992; 大鹿村鳥倉山林道, 1 ♀, 8. VII. 2001; 川上村信州峠, 1 ♂, 3. VII. 2004.

静岡県静岡市赤石ダム(1200 m), 1 ♂, 23. VIII. 1992; 同二軒小屋西俣, 1 ♂, 4. VIII. 2001.

岐阜県高根村日和田高原(1600 m), 1 ♂, 10. VI. 1990; 1 ♂, 7. VIII. 1994; 2 ♂♂, 29. VII. 1995; 1 ♂, 5. VII. 2003.

本邦のクシコメツキとしては最も高所に生息する種で，分布域は広く北海道から九州までの高地帯から知られ，国外では樺太・済州島・朝鮮半島の資料も本亜種であると確認している．原名亜種はユーラシア大陸全般から北米までの広い範囲から記録され，大陸東限分布域の一つとしてロシア・ハバロフスクからの資料で大平・山内・Novomotdnyi(2005: 31)が報告している．クシコメツキ類は一部の属を除いては，一般に一様に黒色または濃褐色で外見的な特徴の差異点は少ないが種分化は著しく，Hayek(1990: 37-115)によるこのグループの再検討以後，中国・台湾や東南アジアなどの資料で多くの論著が出るようになった(Platia et Schimmel, 2001: 638 pp.など)．本亜科では両性生殖器構造に明確な差異点が多く，その研究技法の進展に伴い，このコメツキの中でも特に難解と言われていたグループの解明には極めて有効であった．

Melanotus annosus Candèze, 1865　クロツヤクシコメツキ

岡山県川上村上徳山, 1 ♀, 12. VI. 1994.

本邦四島全土と，南西諸島を除く大部分の付属諸島に分布し，国外では朝鮮半島(Miwa, 1933: 158)と済州島からの記録(Lee et al., 1985: 407)もある．Okamoto(1924: 182)も済州島から本種を記録したが，Miwa(1934: 102)はこの資料を *legatus* であるとした．これは済州島を含め朝鮮半島に広く分布する別亜種 *legatus leeanus*(Kishii, 2002: 20-21)を指すものであろう．コメツキムシ類は当初から分類困難なものの代表的甲虫の一つとされ，前述したようにこのクシコメツキ類はその中でも以前から同定の厄介な仲間とされていたが，生殖器構造比較検討では同定もさほどの困難はない．本種は前胸背板点刻が疎で光沢が強く，雄交尾器側片先端部の形状が単純，中片先端も短大なため本邦産他種とは区別し易い．

Melanotus senilis senilis Candèze, 1865　クロクシコメツキ

岐阜県本巣町パルプ工場土場, 1 ♂, 9. VI. 1985.

愛知県安城市箕輪, 1 ♀, 16. V. 1985.

本邦固有種で本州・四国・九州と粟・佐渡・神津・三宅・平戸などの島嶼に分布し，屋久島と口永良部島からは別亜種(*yakuinsulanus*)が知られる．前胸背板の点刻が大きく極めて緊密に接していて，北海道にも類似個体群が分布し，これは別種 *ocellatopunctatus* エゾクロクシとされる．

Melanotus correctus Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

長野県長谷村戸台, 1 ♀, 3. V. 2003; 1 ♂, 25. V. 2003; 王滝村鈴が沢, 1 ♂, 2. VIII. 1992; 木曽福島町新開, 4 ♂♂, 1 ♀, 26. VI. 2004(LT); 南木曽町清内路峠, 2 ♂♂, 28. VII. 1995; 開田村開田高原鵜類沢, 1 ♀, 26. VII. 1996.

静岡県水窪町門桁山(1200-1300 m), 1 ♂, 24-25. VII. 1999.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 3. VIII. 1997; 小坂町御岳濁河温泉, 1 ♂, 5. VII. 2003; 朝日村秋神川河畔, 2 ♂♂, 26. VI. 1999.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 4. VII. 1997; 稲武町面の木峠(1100 m), 1 ♂, 2-3. VII. 1994; 2 ♂♂, 17. VII. 1999; 1 ♂, 17-18. VII. 1999.

滋賀県日野市綿向山, 1 ♂, 14. V. 1983.

色彩体形の似た種が幾つかあるが，圧平度の強い体形と触角第2・3節が明瞭に短小な点で他

種と区別するのは困難ではない．本州・四国・九州全域に分布し粟島・佐渡・隠岐・平戸島からも知られ，種子島の記録例もあるがこれは次種の可能性もある．北海道本土からの記録例は見ていないが，渡島小島からの報告例がある．

Melanotus issikii Miwa, 1929　イッシキクシコメツキ（写真 127）

鹿児島県上屋久町白谷 17 号支線，1 ♂，14. VII. 1986; 同白谷雲水峡，1 ♂，14. VII. 1995.

屋久島特有の種として，一色周知博士の採集された資料で記載（Miwa, 1929: 346-347）されたが，中根・岸井（1958: 38）は前種の亜種とした．三輪は *spernendus* ナガチャクシに似ていて前種とは上翅がより長いので異なるとしたが，触角第 2-4 節の形状と長さの比および雄生殖器形状でもこれとの関連性は低い．交尾器側片形状は互いに似るが，交尾器の幅が広い *spernendus* とでは細長い他の 2 者とは明らかに異なる．前種の腹部下面は黒色，触角と脚部は通常黒褐色から赤褐色で，本種のこれらの部分は常に赤色ないし黄赤色で，鹿児島県大隅半島南端部からの個体もこれに近い体色の個体群が棲息し，前胸背板点刻状態と交尾器側片の形状にも差異点が認められるので，やはり記載者の見解の様に独立種と見なすべきであろう．

Melanotus legatoides Kishii, 1975 ヒメクシコメツキ（写真 128）

長野県王滝村鈴が沢，1 ♀，31. VII. 1993; 木曽福島町東山土場，1 ♂，5. VII. 1987; 1 ♀，26. VII. 1987.

岐阜県白川村白山大牧ダム，1 ♂，4. V. 1997; 根尾村温見峠（950 m），1 ♀，18-19. VIII. 1990; 本巣町日当土場，1 ♂，24. VI. 1990; 同温見峠（900-1000 m），1 ♀，13. VIII. 2004（LT）.

愛知県旭町旭高原元気村，1 ♂，3. VIII. 1996; 2 ♂♂，4. VII. 1997.

鹿児島県佐多町杉山谷（150-200 m），5 ♀♀，17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓，1 ♀，5. IX. 2004, 野田亮 leg.; 上屋久町平瀬林道，10 ♂♂，7 ♀♀，6. VII. 2002（LT）; 屋久町栗生，2 ♂♂，1 ♀，16. VII. 1993; 同大川林道，1 ♀，17. VII. 1993; 同小楊子林道，4 ♂♂，1 ♀，5. VII. 2002（LT）.

北海道から屋久島まで広く分布し燈火によく集まるが，鹿児島県本土からの記録例は無いようである．外見のよく似た次種と紛らわしいが，両性の生殖器構造は著しく異なる．本種記載時に屋久島の栗生・平内・安房・永田からの各一頭が福模式標本に指定されているように屋久島では普通種である．今回の資料にはなかったが，本島には次種の別亜種 *ogatai* オガタクシも分布していて紛らわしい．この両者は前述のように交尾器側片先端の鉤状部形状が著しく異なり，前頭点刻状態と触角第 2-4 節の形状も異なる．

Melanotus legatus legatus Candèze, 1860　クシコメツキ

長野県王滝村鈴が沢，1 ♂，2. VIII. 1992; 同牧尾ダム，1 ♂，22. VII. 1995; 同鷹ノ湯，1 ♂，18. VII. 1987.

岐阜県本巣町パルプ工場土場，2 ♂♂，24. VI. 1990.

愛知県旭町旭高原元気村，1 ♂，2. VIII. 1997; 1 ♂，27. VI. 1998; 岡崎市鴨田，2 ♂♂，8. V. 1987.

京都府京都市左京区八瀬，1 ♂，20. VI. 1984.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 3 ♂♂, 17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓, 1 ♂, 7. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 高山町甫与志岳(FIT), 2 ♂♂, 1 ♀, 16-19. VII. 2004, 野田亮 leg.

邦産コメツキムシでは最初に記載された種で，本土全域と付属諸島の大部分に広く分布し最も普通で，伊豆諸島(*masakianus*)・大隅諸島とトカラ諸島(*ogatai*)・沖永良部島(*erabu*)・済州島と朝鮮半島(*leeanus*)の個体群はそれぞれ別亜種である.

Melanotus lewisi lewisi Schenkling, 1927　ルイスクシコメツキ（写真 129)

長野県長谷村美和, 1 ♂, 2. VIII. 1986.

愛知県知立市西町, 1 ♂, 31. V. 1985; 旭町旭高原元気村, 1 ♂, 27. VI. 1998; 津具村面の木峠, 1 ♀, 11. VII. 2004; 豊根村みどり湖畔, 1 ♂, 16. VII. 2000; 名古屋市緑区相原郷, 1 ♀, 4. VI. 1999; 豊田市山中, 2 ♂♂, 22. V. 1999.

京都府京都市左京区久多峠, 1 ♀, 29. VI. 1985.

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 39 ♂♂, 9 ♀♀, 17-18. VII. 2004; 同稲尾岳南麓, 1 ♂, 4. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 2 ♂♂, 5. VIII. 2004, 野田亮 leg.; 屋久町小島, 1 ♀, 7. VII. 1995.

前種及び前々種に類似の種で分布域は北海道を除く本土全域とよく似ていて，ほぼ同じ時期に出現し共に走光性が強いので紛らわしい種である．本土中央部での個体群は大型で前胸背板光沢が鈍く，本種特有のオパール状となり分かり易いが，九州南部と屋久島などの個体は小型化傾向が強く，前胸背板点刻間の鮫肌状構造が極めて弱いので光沢は明瞭，高倍率での検鏡で弱い鮫肌構造を認め得るのみである．今回検した鹿児島県南部の資料は全般的に小型で対馬産個体群とよく似ていて，前胸背板は一見平滑に見え *legatoides* 又は *legatus* の様に見られる個体が多かった．今回の鹿児島県佐多町の多くの資料は特に *legatoides* と似た個体が多く，雄生殖器は明らかに前種と同系の形状であった．普通本種は平均的に大型で前胸背の幅もより広く，前胸背板は前述のように肉眼でも光沢が弱くオパール状光沢をもつが，*legatoides* の触角第 4 節は両性とも鈍角状の短三角形状，*legatus* では鋭角状の長三角形，本種の前胸背表面は前述のように極めて微細な縞(鮫肌)状構造で被われ，完全に平滑で光沢が強い他の 2 種と異なり，体は本種が最も大きく *legatoides* が最も小さい．前胸背板点刻間の微細構造は地域的な較差はあるが，今回の資料では弱い微細な鮫肌状構造を認め得た．また雄生殖器側片端の鉤状部の形態は *legatoides* で最も短く突起も明瞭で鋭利，他の 2 種では長い半楕円状で突起は不明瞭で鈍端で異なるが多くの資料検討は欠かせない．なお対馬産は別亜種 *tsushimensis* ツシマクシとされ，屋久島とトカラ中之島のものもこの亜種に似た点をもつ.

Melanotus sukenagai Kishii, 1986　スケナガクシコメツキ(写真 130)

沖縄県石垣島屋良部岳, 2 ♂♂, 1 ♀, 3. V. 2001.

本種は邦産のクシコメツキ中で最も大型且つ強壮な体躯をもち，雄生殖器も短大幅広でその側片先端部の形状は台湾産の *kintaroui* に似るが，より大きく触角も長く前胸背板点刻はより小さく密である．南西諸島では島嶼毎に独自の本属の種が分布する傾向が強く，本種は石垣島の固有種と見られ，他にも *brevithorax* ムナビロクシと *yamayai* ヤマヤクシも現在のところ本島固有の種とみられる.

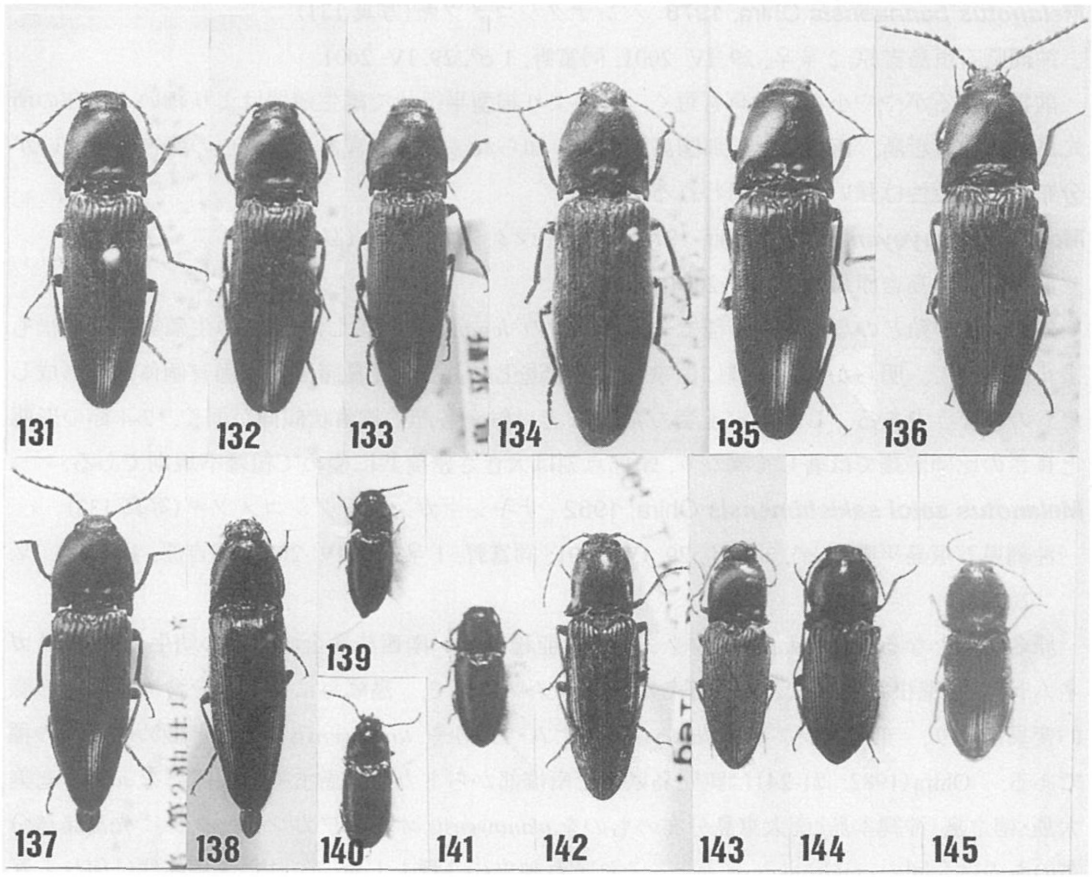

写真 **131-145**. **131**, バンナクシコメツキ *Melanotus bannaensis*（石垣島吉原, ♀, 17.4 mm）; **132**, ヤエヤマクシコメツキ *M. yayeyamacola*（石垣島吉原, ♀, 16.0 mm）; **133**, サキシマカンシャクシコメツキ *M. satoi sakishimensis*（石垣島平野, ♀, 14.8 mm）; **134**, ヤマヤクシコメツキ *M. yamayai*（石垣島オモト岳, ♀, 23.1 mm）; **135**, オモトクロクシコメツキ *Spheniscosomus omotoensis*（石垣島屋良部岳, ♀, 22.0 mm）; **136**, リュウキュウクシコメツキ *S. loochooensis*（奄美大島第二油井岳林道, ♀, 17.8 mm）; **137**, アマミクシコメツキ *S. amamiensis amamiensis*（奄美大島第二油井岳林道, ♀, 14.2 mm）; **138**, ハネナガオオクシコメツキ *S. japonicus*（岐阜県白川村大白川林道, ♀, 18.1 mm）; **139**, シバタチビマメコメツキ *Quasimus shibatai shibatai*（屋久島上屋久町平瀬林道, ♀, 2.4 mm）; **140**, ニセホソマメコメツキ *Yukoana tamui*（屋久島上屋久町白谷雲水峡, ♀, 3.3 mm）; **141**, ヤママメコメツキ *Y. monticola*（屋久島上屋久町平瀬林道, ♀, 3.5 mm）; **142**, アマミオオハナコメツキ *Dicronychus amamianus*（奄美大島第二油井岳林道, ♀, 10.6 mm）; **143**, タムラハナコメツキ *Displatynychus tamurai*（石垣島吉原, ♂, 8.8 mm）; **144**, オオアカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus sequens purpuratus*（屋久島屋久町栗生, ♀, 6.1 mm）; **145**, トカラアカアシハナコメツキ石垣亜種 *P. tokara* subsp.（石垣島平野, ♀, 6.2 mm）.

Melanotus bannaensis Ohira, 1978　バンナクシコメツキ(写真 131)

沖縄県石垣島吉原, 2 ♀♀, 29. IV. 2001; 同富野, 1 ♂, 29. IV. 2001.

前種に似るがやや小さく触角も短く，且つより細型平行状で雄生殖器はより細い．現在の所先島諸島の石垣島，西表島と与那国島からのみ知られ，隣接の宮古列島からの報告例は無いが分布する可能性は強いように思われる．

Melanotus yayeyamacola Kishii, 1974　ヤエヤマクシコメツキ(写真 132)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♀, 2. V. 2001.

先島諸島の殆どの島に普通の種で一見本土産の *legatus* に類似し，両性の生殖器系の形状もよく似ていて，明らかに共通種に由来した隔離進化による，先島諸島系の固有個体群を形成したもののようである．しかし本土産の *legatus* とは触角各節の鋸歯状傾向が弱く，2-4 節の形態と長さの比率が雄では著しく異なり，頭部点刻は大きさ密度共に極めて粗雑不規則である．

Melanotus satoi sakishimensis Ohira, 1982　サキシマカンシャクシコメツキ(写真 133)

沖縄県石垣島平野, 1 ♂, 3 ♀♀, 29. IV. 2001; 同富野, 1 ♀, 29. IV. 2001; 同吉原, 1 ♀, 30. IV. 2001.

原名亜種となる本種 *satoi* サトウクシとその亜種群は，南西諸島全域でその幼生(通称ハリガネムシ)が甘蔗根系食害虫として著名なクシコメツキ類で，島嶼毎に交尾器を含め微妙な形態的変異があり，東南アジア産の *lameyi*(ベトナム・台湾)や *tamsuyensis*(台湾)と極めて近縁の種である．Ohira(1982: 21-24)は鹿児島県本土南端部からトカラ諸島までの個体群を *satoi*，奄美大島・徳之島・沖縄本島・南大東島分布のものを *okinawensis* オキナワカンシャクシ，先島諸島分布のものは今回の *sakishimensis* とし，それぞれ独立の 3 種とした．これら 3 個体群は何れも互いによく似ていて，一般的外形や両性生殖器構造でも顕著な差異点は見いだし難い．頭部構造と雄交尾器先端部等の形態差で区分されているが，産地不明資料では同定困難な場合もある．筆者(1999: 94)はこれら個体群は同じ種から比較的最近に甘蔗伝来と共に隔離分化した，同一種 *satoi* の亜種関係にあるとみている．なおこのグループの和名に屡々カンシャクシとカンショクシが混用されるが，当初甘蔗(サトウキビ)を甘藷(サツマイモ)と区別するためそれぞれをカンシャ，カンショと訓み分けていた事もあり，本種の原記載では“Kansya”を和名としているので従来のままでよいであろう．

Melanotus yamayai Kishii, 1985　ヤマヤクシコメツキ(写真 134)

沖縄県石垣島オモト岳, 1 ♂, 3. V. 2001; 同オモト岳山頂, 1 ♀, 3. V. 2001.

本種及び八丈島から知られる *hachijoensis* ハチジョウクシも前種と近縁の種で体色を含め，一般的な形態はおおむね同じである．これらの近縁種中で本種は著しく大型なので分かり易く，触角節や頭部並びに前胸背板の点刻など及び雄交尾器にも差異点があり，これらの特有の特徴から本島固有種と認められる．1984 年 5 月に長岡市立科学博物館の山屋茂人さんがオモト岳で得られた 4 雄資料(原記載で 2 female paratypes とあるのは male の誤記)で記載(Kishii, 1985: 26)して以後長く再報されてないが，今回検し得た雌資料は更に大型(23.5 × 6.3 mm)で貯精嚢内角質構造は台湾産の *tamusuyensis* カンショクシによく似た形態であった．

Melanotus erythropygus erythropygus Candèze, 1873　コガタクシコメツキ

長野県開田村開田高原西野, 2 ♂♂, 15. VI. 1992; 木曽福島町新開, 1 ♀, 26. VI. 2004 (LT); 王滝村御岳高原 (1500 m), 1 ♀, 29. VI. 1997.

愛知県稲武町面の木峠 (1100 m), 1 ♂, 5. VI. 1994.

岡山県川上村上徳山, 1 ♀, 12. VI. 1994.

本土全域の低地から山地に掛けて広く普通に見られ，伊豆諸島・隠岐・屋久島を含め付属諸島の多くからも得られていて，佐渡 (*sado*) と対馬 (*taishu*) の個体群はそれぞれ別亜種である．済州島と韓国からも幾つかの記録があるが，これは最近になり朝鮮半島分布の別種 *coreanus* とされ (S.-H. Lee et al., 1999: 40-42)，筆者も中国東北地域までの資料 (Kishii et Paik, 2002: 23) で確認したので，本種は本邦固有種の一つである．体形が小型で細く触角第 2・3 節が著しく短小で，本属種としては異質の形態である．他に若干の同形態種が知られそれぞれ未記載と見られる．

Spheniscosomus omotoensis (Ohira, 1966)　オモトクロクシコメツキ (写真 135)

沖縄県石垣島屋良部岳, 1 ♂, 29. XII. 1997; 1 ♀, 30. IV. 2001; 西表島船浦, 1 ♂, 3. VI. 2000.

本種はこの上記両島固有種と見られる極めて大型強壮なクシコメツキで，現在までに知られる本邦産クシコメツキ類では最大のものである．*Melanotus* 属では前胸腹板突起がその基部で内方に明瞭に屈曲するが，本属では突起がその基部 (前脚孔後縁) で内方に曲らず後方へ直進的に伸びる．Schwarz (1892: 132) はこの特徴を重視し *Spheniscosomus* を創設し，Lewis (1894: 191) も同じ判断で 2 年後に邦産種 *Melanotus cete* を基準種に *Melanotopsis* 属を創設したが，Schwarz (1906: 185) により前者のシノニムとされた．筆者は前胸腹板突起が後方へ伸張し，稀に中央近くで斜め内方に曲がるものも含めて独立属と見なしているが，独立属，前属の亜属，また分割せずに同属として扱う報文も少なくない．本亜科は最終氷期以後の草原拡大と共に比較的新しく分化が始まったグループと見られ，明確な種間差異点の少ないグループであるが，両性生殖器構造には分かり易い相違点があるので，最近急速に分類研究が進みその論著も多い．

Spheniscosomus loochooensis (Miwa, 1929) リュウキュウクシコメツキ (写真 136)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 2 ♀♀, 26-29. VI. 2003.

本種は当初沖縄本島からの 1 雄資料を本邦産普通種の *legatus* クシコメツキと誤認し (Miwa, 1927b: 112)，後に別種とされ記載された (Miwa, 1929: 347)．以後 *Melanotus* 属とされていたが，前胸腹板突起は全長の中央近くで斜め内方に曲がる種で，続く 2 種も同じ様な突起形状をもち雄生殖器形態も次種に似るので *Spheniscosomus* 種と見なした (Kishii, 2004c: 175)．トカラ中之島から沖縄本島・久米島までに分布し，長紡錘形状で前胸が台形に近い体形で分かり易い．

Spheniscosomus koikei (Kishii et Ohira, 1956) ヒラタクシコメツキ

愛知県足助町香嵐渓, 1 ♂, 27. VI. 1992.

外見からの体形が *legatus* に似るので当初 *Melanotus* 種として記載されたが，前述したように前胸腹板突起基部は後方へ伸長し，突起の半ば近くで内方へ緩く曲がり両属の中間的形態をもち，両性生殖器官形態は本属のものである．北海道から九州まで広く分布し少ない種ではないが，島嶼では冠島・五島中通島・平戸島のみのようである．

Spheniscosomus amamiensis amamiensis (Ohira, 1967)　アマミクシコメツキ(写真 137)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ♂, 3 ♀♀, 26-29. VI. 2003.

前種に近似の種であるが体は短大で, 前種のような細型でない. 奄美大島・加計呂麻島に分布し, 沖縄本島には別亜種(*yambarus*)が分布する.

Spheniscosomus cribricollis (Faldermann, 1835)　オオクロクシコメツキ

岐阜県根尾村パルプ工場土場, 1 ♂, 9. VI. 1985.

従来 Candèze(1865: 47-48)が本邦から記載した *restrictus* とされていたが, 中国から済州島を含む朝鮮半島に広く分布する上記種との差異は認められず, 両性生殖器形態からも同一種と考えるが別亜種とする報文もある. 本邦では山形・新潟以西の本土全域と粟・佐渡・淡路・対馬から知られていて, 沖縄本島からの記録もあるが資料は未見で南西諸島分布は疑わしい.

Spheniscosomus cete cete (Candèze, 1860)　アカアシオオクシコメツキ

長野県松本市美須々湖, 1 ♂, 6. VII. 1990; 王滝村御岳高原(1500 m), 1 ♀, 29. VI. 1997; 開田村開田高原西野, 2 ♂♂, 15. VI. 1992; 1 ♂, 21. VI. 1992.

岐阜県本巣町パルプ工場土場, 1 ♀, 17. VI. 1990.

愛知県豊田市山中, 1 ♀, 18. V. 1985.

邦産種では *legatus* クシコメツキと共に最も早く記載された種で, 強い走光性をもち, 北海道から九州までと屋久島・対馬を含め, 大部分の付属諸島を含めて広く普通に見られ, 朝鮮半島産の複数個体も検している. なお中国からの報告例もあるが資料未見で確認していない. またトカラ中之島からは別亜種(*tokarensis*)が報告されている.

Spheniscosomus japonicus (Ohira, 1974)　ハネナガオオクシコメツキ(写真 138)

長野県木曽福島町東山, 2 ♂♂, 1 ♀, 5. VII. 1987; 王滝村九蔵, 1 ♀, 21. VII. 1997.

岐阜県白川村大白川林道, 1 ♀, 18. VI. 1988.

愛知県稲武町面の木峠, 2 ♀♀, 28. VI. 1986.

北海道から九州まで分布域は広く普遍的に見られ, 伊豆御蔵島からも記録されている. 時に極めて多くの個体が燈火に集まることもある(京都市比叡山, ca. 40 exs., 4. VI. 1959). 前種に似るが細長くやや圧平気味なので分かり易い.

NEGASTRIINAE(ミズギワコメツキ亜科)

Menoko difficilis (Lewis, 1894) ウスチャミズギワコメツキ

北海道上川町三国峠, 1 ♂, 19. VII. 1998; 小清水町野上峠, 1 ♀, 23. VII. 1998.

北海道全域と国後島・色丹島から知られているが, 上翅など黒色から淡茶褐色まで地域的な色彩変異が認められる. *Menoko* 属は爪基部の内側に明瞭な膜状片をもち, 雄生殖器中片先端は細長く, 側片先端も僅かに側方に膨らむのみで, 生態的には水際の地上性と言うより, ヨモギのような草本類などの低い植物の茎葉表面を早い速度で歩き回る傾向が強く, 本邦から 10 種程知られその大部分は北海道と本州高地帯に分布する.

知られその大部分は北海道と本州高地帯に分布する.

Menoko pirika Kishii, 1994 ピリカツヤミズギワコメツキ

北海道幌加内町白樺, 1 ♀, 10. VII. 1999; 東川町野花南, 1 ♀, 11. VII. 1999.

前種と共に北海道固有の種で, 中央山地周辺と道東地域に多く, 特にオホーツク沿岸に多いようである. 前種に似るが体色は濃く雄交尾器中片先端部は丸く, 側片端は外方へ曲がり先端は半円状である.

Menoko alpensis Kishii, 1987 オオホソツヤミズギワコメツキ

長野県川上村梓山戦場ヶ原, 1 ♂, 3. VII. 2004.

乗鞍岳からの一頭の雌個体で記載されたが再報はない. 今回の資料は雄で交尾器は細型で側片先端も小さく僅かに弧状に膨らむ. 長野県からは近似の *niger* クロホソツヤミズギワも知られ, これは稲子湯温泉を基産地とし, 八ヶ岳·山形·山梨等からも知られている. 本種はこれより大型なのと前胸背板点刻が密な点で異なるが, この両者は互いに地域的変異の可能性もある.

Oedostethus yamamotoi (Kishii, 1976) ヤマモトツヤミズギワコメツキ

長野県開田村開田高原西野, 4 exs., 3. VIII. 1996.

京都府南部の井手町木津川河畔で得られた複数個体で記載され, 栃木·群馬·長野·大阪からも報告されていて淀川上流の三川合流点の河川敷には多い. 手元には東京(保谷市, 1 ♂, 18. VI. 1990, 西尾悠子 leg.)と岡山(川上村, 1 ex., 29. VI. 1986, 八木正道 leg.)の資料もある. 本属は一般に地表性で爪基部内側は単純, 雄生殖器中片先端は太く膨らみ, 側片先端も側方に明瞭に膨らみ, 前属とは明らかに異質なグループである. 10 種余知られるが大部分は本州に分布し, 前属とは異なり地表性で一般に平地近辺の水辺に見られる.

Oedostethus telluris (Lewis, 1879) クロツヤミズギワコメツキ

長野県長谷村三峰川上流, 1 ex., 1. VIII. 1987.

山口県萩市の資料で Lewis(1879: 156, Haagi[!])によって記載された種で, 東北地域を除き北海道を含め全国的に広く報告例をもつが, 本属では局地的な分布をする別種が多く知られるので, 1980 年代以前に記録された本種については再検討を要する. 特に雄交尾器形状にそれぞれ特有の形態差があるのでその精査が必要である.

Oedostethus sp. ツヤミズギワコメツキ一種

栃木県下都賀郡野木神社近傍(渡良瀬遊水池), 10 exs., 22. VI. 1986.

栃木県の渡良瀬遊水池からは興味ある面白い水辺性コメツキが色々得られており, 本種もその一つで未記載の可能性が強い形態をもつので精査検討したい.

Fleutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum (Candèze, 1873) ヨツモンミズギワコメツキ

愛知県稲武町面の木峠, 1 ♀, 28. VI. 1986.

上翅に 4 個の黄橙色紋をもつミズギワコメツキ類は多く知られるが, 本種が最も普遍的な分布をし, 北海道と本州での平地や低山地では草原の地表や畑地に多く, 燈火にもよく飛来する. 四国(徳島·香川)·九州(福岡)からは記録例はあるが少ない. 本種は前胸背板はあまり密でない点刻で被われ, 小粒状の微突起にはならず光沢が目立ち, 雄交尾器中片側片共に幅が広く短か

Fleutiauxellus (Neomigiwa) nikkoensis (Kishii, 1976) ニッコウミズギワコメツキ

長野県王滝村御岳八海山, 1 ♂, 20-21. VII. 1991.

群馬県片品村の丸沼周辺で得られた 25 頭の資料で記載されたもので, 日光国立公園内と言うので命名した種で, 原記載で栃木県としたのは誤りである. 上翅無紋の点を除くと一般的な外見からは前種によく似ている. 本種は高地性でこれまでに岩手・山形・栃木・群馬・長野から知られている. 続く 2 種にも似た感じもするが, 前胸背板前縁の一部に微粒状部が認められても大部分が点刻状で, 雄交尾器中片側片共に幅が広く短めである.

Fleutiauxellus (Migiwa) tutus (Lewis, 1894) キアシミズギワコメツキ

長野県安曇村梓川上流, 1 ♂, 25. VII. 1987; 長谷村三峰川上流, 1 ex., 2. VIII. 1986; 同三峰大曲, 5 exs., 28. VII. 1985; 同戸台, 3 ♂♂, 28. VII. 1985; 開田村開田高原西野, 1 ex., 3. VIII. 1996; 大鹿村塩川, 1 ♀, 2. VIII. 1987; 王滝村御岳八海山(1800-2000 m), 1 ♂, 23. VII. 1994; 1 ♂, 20. VII. 1997; 同御岳山, 6 exs., 26. VII. 1986.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♂, 19. VI. 2004; 本巣町パルプ工場土場, 1 ♂, 24. VI. 1990; 同温見峠(950 m), 2 ♂♂, 15. VIII. 2003.

次種に似るがより細めで, 特に前胸はより小型で背板中央の縦線は不鮮明で消失気味, 全体の光沢は強く, 脚部は全面的に鮮明な黄色で腿節も暗色にならない. 本州全域で知られるが岡山・隠岐を除く中国地方からの報告例はなく, 四国・九州からも記録はあるが少なく, 一般に次種より高地の山地を主生息域とするようで河川の水際に多い. 前胸背板の大部分は密な小突起状の微粒状部が殆どで, 普通の点刻部分は後縁近くのみに僅かに認められ, 点刻のみで全面が被われることはなく, 雄交尾器中片側片共に幅が細く長めである(*Migiwa* 亜属).

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus (Candèze, 1873) ミズギワコメツキ

長野県安曇村梓川上流, 1 ♂, 25. VII. 1987; 王滝村御岳八海山, 1 ♂, 26. VII. 1986; 2 ♀♀, 27. VII. 1986; 19 exs., 23. VII. 1988; 1 ex., 25. VII. 1992.

岐阜県本巣町温見峠(950 m), 1 ♀, 15. VIII. 2003; 荻原町大洞ダム湖畔, 1 ♂, 6. VII. 2003.

低地, 山地を問わず本州・四国・九州及び佐渡・屋久島で最も広い地域の水辺とその周辺に普通である. 別亜種が北海道(次項)・沖縄本島(*okinawanus*)・朝鮮半島(済州島を含む)(*coreaensis*)からそれぞれ知られており, 中国東北地域の資料も検していて, これは朝鮮半島亜種と同じ個体群に属すると見られるが, 資料数が少ないので何とも言えない. 外観は前種に似るが光沢は鈍くややオパール状を呈し, 体幅はより広めで, 前胸背板は明瞭で密な微粒状点刻で被われ, 通常前胸背板中央に縦隆線(個体によっては殆ど消失することもある)をもつ. 脚部は黄色で前種に似るが, 本種の腿節は通常黒色～暗褐色で, 雄交尾器中片側片共に前種より長めである.

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus septentrionalis (Kishii, 1976) エゾキアシミズギワコメツキ

北海道上川町三国峠, 1 ♂, 19. VII. 1998.

道内で得られる本種雄の触角は本州産個体に比べて頭胸部より短く第 2 節も短い. 雄生殖器はより細型である. 現在の所大雪山周辺や道東周縁部から多くの資料が得られているが, おそらく道内全域に分布すると見られる.

Quasimus ranzanus Kishii, 1970 ニセニホンチビマメコメツキ

静岡県水窪町門桁山(1300-1375 m), 4 exs., 12. VII. 1992.

本邦産のマメコメツキ類(*Quasimus, Miquasus, Yukoana* 属)は極めて多くの種が知られるようになって, 奄美大島以南の南西諸島を除いた本土分布のものでほぼ40種弱が報告され, 南西諸島など付属島嶼分布のものを含めると現在 80 種余のものが知られている. しかしそれぞれの種の分布域が充分判明しているものは, 限られた僅かの種に過ぎない. 1950 年代以前には邦産種は若干の固有種と, ユーラシア大陸に広い分布域をもつ本属の基本種である *Cryptohypnus minutissimus* のみとされていたが, この種の本邦分布は疑問で, 検し得た多数の資料にこの種に相当するものは発見できなかった. また 1960 年代に入ってからの暫くは, 報告される本属種としてその殆どが, 本邦の広い範囲で最優先的な分布をし, 極めて普通な *japonicus* ニホンチビマメとされていた可能性が強い. 本種はこれよりは前胸背板点刻が大きく密, 小盾板凹陥部は長五角形状で両側縁は直線状である. 京都市北西の景勝地嵐山の亀山公園内のヒラドツツジ葉上で得られた資料で記載したもので, 本州・四国・九州に広く分布し佐渡・五島列島でも発見されている. なお *japonicus* では前胸背板点刻が微小で疎, 小盾板凹陥部は長楕円形状である. この仲間では小盾板表面の凹陥部形状, 前頭隆起線基部形状, 前胸背板点刻状態, 前胸腹板突起形状, 中胸腹板中脚基節孔後縁の隆起線形状などと, 雄生殖器形態で種の同定にさしたる難点は少ないが, 微小種のみなので実際上は厄介な点が多い.

Quasimus shibatai shibatai Kishii, 1970 シバタチビマメコメツキ(写真 139)

鹿児島県上屋久町楠川林道, 1 ♂, 2 ♀♀, 8. VII. 1995; 同平瀬林道, 1 ♀, 7. VII. 2002(LT).

屋久島からは本属既知種として本種と他に 3 種記録があり(*yakuensis, yasuii, satoi kimurai*), 小盾板表面の圧平部や後胸腹板隆線部の形状などの特徴が明瞭に異なる. 本種は本島から記載されトカラ中之島からも得られていて, 奄美大島・徳之島には別亜種(*matobai*)アマミチビマメが分布する. 本土に広く分布する *japonicus* とよく似ているが, 幾分大型で体はより平行状, 触角は長め, 体毛は黄味を帯び, 前胸背板点刻は粗雑, 小盾板平滑部は長五角形状で後半部が側方に膨らみ, 前半方向に緩やかに狭まる.

Quasimus sp. チビマメコメツキ一種

鹿児島県上屋久町大株林道, 1 ♂, 11. VII. 1995.

屋久島産の既知種や邦産 *Quasimus* 属の既知種とも多くの点で異なる特徴をもつ興味深い種で, 資料が乏しいので決定を控えるが, 未記載種の可能性が大きい.

Yukoana elliptica (Candèze, 1873) ヘリマメコメツキ

長野県王滝村鈴が沢, 1 ♀, 20-21. VII. 1991.

岐阜県高根村御岳日和田高原, 1 ♀, 3. VII. 1988; 同(1600 m), 1 ♂, 15. VI. 1991.

愛知県稲武町段戸裏谷, 2 ♂♂, 18. V. 1985; 豊田市六所山, 2 ♀♀, 9. V. 1987.

本亜科の中では上翅条線消失がマメコメツキ類の主な特徴で, 本邦から 3 属が知られ, 前属では触角第 2 節が次節より大型で長く, 本属では触角第 2 節が次節より小さく短い. 共に小盾板上に圧平部をもつが, 第 3 の属(*Miquasus*)では触角第 2 節が次節より長く小盾板は単純で圧

平部はない. 本種の所属する *Yukoana* 属は一般的には本グループでは大きく(2.5-4.5 mm), 触角の性差が明瞭, 前属では微小種のみで(1.5-3 mm), 触角の性差が一部の種を除き小さい. 本種と Lewis(1894: 188)の記載した *carinicollis* ヘリムネマメは互いによく似ていて, この両種の区別はなかなか難しい. 後者の触角は強壮で前者は通常であるが, 触角の性差が顕著なので同性個体で比較する要がある. また前胸背後角部側縁は後者では顕著に湾曲するのに対して, 前者では僅かに内方へ狭まるのみであるが個体による偏差もある. 小盾板平滑部の前縁は共に不鮮明で消失または消失気味であるが, 後者では小盾板前縁と明瞭に離れ, 前者では近接する傾向が強い. 共に本州・四国・九州の本土と佐渡から記録されており, ヘリムネマメでは北海道渡島半島の津軽海峡沿岸部からの報告例もある. 生態的には本属の種は葉上などでの単独行動が殆どで, 前属 *Quasimus* 種の多くの種で時に見られるような, 50 ～ 200 頭余の多数個体が狭い範囲内の葉上で活発に動き回ることは無いようである.

Yukoana tamui Kishii, 1959　ニセホソマメコメツキ(写真 140)

鹿児島県佐多町杉山谷(150-200 m), 1 ♂, 17-18. VII. 2004; 上屋久町白谷 17 号支線, 1 ♀, 14. VII. 1986; 同白谷雲水峡, 1 ♀, 9. VII. 2002.

屋久島の小杉谷・宮之浦岳・花之江河などからの資料で記載されたが, 今回鹿児島県本土の分布も確認され, 九州本土では長崎以外の各地からの報告例もある. 本土に広く分布する前種や近似の *carinicollis* に似るが, 触角が長く小盾板平滑部が楕円形状である. 種小名は筆者の以前の勤務校先任の丹信實(Nobuzane Tan)氏の姓に由来し, ご本人が "Tamu" の表示を強く希望されたので上記種名としたものである. 離島生物相調査に生涯携わり, 典型的な博物学者でもあった氏に, 屋久島を初め多くの離島調査行に筆者も同行させて頂いた.

Yukoana monticola Kishii, 1961　ヤママメコメツキ(写真 141)

鹿児島県上屋久町白谷雲水峡, 1 ♀, 8. VII. 1995; 同平瀬林道, 1 ♀, 6. VII. 2002(LT); 2 ♀♀, 7. VII. 2002.

前種よりやや大きく肥厚度も強く, 小盾板は広く平滑部は長卵形, 後胸腹板の一対の隆起線は短く間隔が広い. 本島固有の種であるが屋久島からはもう一種 *elongata* ナガマメが知られ, これは種名のように平行状の長い体形で分かり易い.

CARDIOPHORINAE(ハナコメツキ亜科) : **Cardiophorini**(ハナコメツキ族)

Dicronychus nothus (Candèze, 1865)　オオハナコメツキ

山梨県須玉町増富, 1 ♂, 2. VII. 1988.

長野県長谷村戸台, 1 ex., 19. V. 2002; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ex., 13. VI. 2004; 大鹿村小渋湖畔, 1 ex., 29. V. 1999; 木曽福島町東山土場, 1 ex., 26. VII. 1987; 同東山, 4 exs., 5. VII. 1987; 開田村開田高原西又, 1 ex., 8. VI. 2003.

愛知県稲武町面の木峠(1100 m), 1 ex., 17-18. VII. 1999; 足助町平沢, 3 exs., 3. V. 1985.

本亜科は前胸腹板突起の形状が独特で後方へ伸長せず, 前脚孔後方で裁断状となる. その他

の特徴でも変わった形態が多いため本科と分離され別の科として提唱されたこともある．また同属間で種間差異点を外部構造で見いだすのは大変厄介な仲間でもある．しかし幸い両性の生殖器構造には時に顕著で固定的な差異点があるので，その比較検証は欠かせないが，一般の外部構造では性差が殆ど見あたらない種が多いので，資料全ての生殖器処理が必要なこともある．本属と次属は爪が中央で2分し，先端部は細く鋭利に伸長し，基部は大きく三角状で，他のグループは全て単純な爪である．本種の属もこれまで変遷が多く種名のシノニムも多い．邦産種は全て Brulle (1832: 138) の *Dicronychus* 属とするか，Motschulsky (1858: 59) の創設した *Platynychus* 属とするかの見方に分かれるが，強いて分ける程の差異点は少なく，同属と見なすのが妥当であろう．本種は本邦四大島の本土と奥尻・佐渡・伊豆諸島・種子・屋久・口永良部の諸島嶼に広く普通に分布し，各種植物上に多い．

Dicronychus amamianus Kishii, 1979 アマミオオハナコメツキ (写真 142)

鹿児島県奄美大島瀬戸内町第二油井岳林道, 1 ex., 26-29. VI. 2003.

北海道から屋久島まで普通に見られる前種によく似ていて，その亜種として奄美大島から記載され付属の請島・徳之島にも分布し，現在は独立種とされている．やはり別亜種とされた沖縄本島以南に分布するものも独立種 *loochooensis* オキナワオオハナとされているが，何れも本土産 *nothus* との差異点は生殖器構造を含めて少ない (Kishii, 1979: 9-11)．

Displatynychus adjutor (Candèze, 1873) アカアシハナコメツキ

栃木県下都賀郡野木神社近傍 (渡良瀬遊水池), 1 ex., 22. VI. 1986.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♂, 14. VII. 1997.

鹿児島県佐多町杉山谷 (150-200 m), 1 ♂, 17-18. VII. 2004.

長く前属として扱われていたが，前胸腹側板後縁の外方が強く剔られる特徴などで，前属の亜属として創設され (大平, 1987: 92)，更に属に昇格された (大平, 1999: 357)．本州以西の本土と付属諸島の大部分から記録されていて，南西諸島からも報告例があるが，これは次種の誤認と思われる．

Displatynychus tamurai (Kishii, 1974) タムラハナコメツキ (写真 143)

沖縄県石垣島吉原, 1 ♂, 2. V. 2001.

当初前種の亜種とされたが，大平 (1999: 357-361) により独立種と見なされた．石垣島から記載され，奄美大島以南の南西諸島に広く分布が知られている．

Cardiophorus pinguis Lewis, 1894 クロハナコメツキ

山梨県須玉町増富, 1 ex., 2. VII. 1988.

北海道から九州までの各地と多くの付属諸島 (利尻・礼文・飛・粟・佐渡・隠岐など) に広く分布し，小笠原諸島の父島・母島からの報告例もある．本属も多くのシノニムが知られ，前胸背板と腹側板は前半部が融合状で，側縁後角には明瞭な1隆起線をもつが短く，別に前下方に1細線が湾曲して伸びるが側縁半ばで消失する．ユーラシア地域で多くの種に分化していて 60 種程知られるが，本邦からは本種と次種のみである．Motschulsky (1860: 111) がシベリアから記載し，後に本邦からも記録 (Motschulsky, 1866: 165) した，ロシア沿海州地区周辺に分布する *vulgaris*

を, Miwa (1934: 94) は邦産種の名称として本種 *pinguis* をシノニムとしたが, この両者は別種であり, 本種は本邦固有種で *vulgaris* は本邦には分布しないと見られる.

Cardiophorus niponicus Lewis, 1894 ホソハナコメツキ

長野県長谷村戸台, 1 ex., 25. V. 2003.

愛知県旭町旭高原元気村, 1 ♀, 14. VII. 1997.

前種に似るが細長い体形で特に前胸部が細いので区別は比較的容易である. これも本邦固有種で北海道から九州までの本土から知られ, 付属諸島からは記録されていない. 前種より少ないが珍しい種ではない.

Paracardiophorus pullatus pullatus (Candèze, 1873) コハナコメツキ

長野県長谷村三峰川上流, 1 ♂, 1. VIII. 1987; 同黒川, 1 ex., 4. V. 2003.

前述のようにユーラシア地域では前属が多数の種に分化しているが邦産種は少ない. しかし本属では逆にユーラシア地域には属基本種 (*musculus*) 1 種のみ知られ, 本邦では 9 種分布しその内の 4 種には多くの島嶼性亜種が知られている. 本属の前胸部は背板と腹側板間は明瞭な側縁隆起線で分離されるが別の細線はない. 本属も外部形態では相互に明確な差異点が少なく分類の難しいグループであるが, 両性共に生殖器構造では明確な差異点が発達している. 本種は本邦の内陸部を含め最も普遍的に分布する種で体毛は常に黄味が強く, 雄交尾器側片先端内方にある突出部は短小である. 北海道・奥尻島 (*yasudai*) と八丈島 (*hachijo*) に分布する個体群はそれぞれ別亜種であるが, 伊豆諸島の大島・利島・三宅島・新島からも報告されており, 資料未見のためこれらの島嶼の亜種関係は不明である. また対馬産個体群は朝鮮半島に分布する別種の *coreanus* に類似し, 共に *musculus* の別亜種とされたが (Kishii, 1977b: 52-56), 現在は共にそれぞれ別種とされている (*tsushimensis* ツシマコハナ).

Paracardiophorus opacus (Lewis, 1894) クロコハナコメツキ

山梨県上九一色村三ツ峠, 1 ex., 20. VIII. 1988.

長野県安曇村梓川上流, 1 ex., 25. VII. 1987; 長谷村三峰川上流, 1 ex., 1. VIII. 1987; 同戸台, 2 exs., 28. VII. 1985; 川上村梓山戦場ヶ原, 1 ex., 3. VII. 2004; 大鹿村塩川, 1 ex., 2. VIII. 1987; 木曽福島町東山土場, 1 ex., 14. VI. 1992.

岐阜県高根村日和田高原, 1 ex., 23. VII. 1995.

愛知県稲武町段戸裏谷, 1 ex., 6. VI. 1993.

北海道から九州までの広い地域の内陸部山地に分布し, 付属諸島からの報告例はないが, 淡路島及び瀬戸内沿岸地では少なからず見られる. しかし瀬戸内の西域では類似の別種である *nakanei hondoensis* ホンドコハナの可能性もあるので注意を要する. 何れにしろ前種と紛らわしくよく似ているので誤認される可能性が強いが, 本種の体毛は常に白色で, 雄交尾器側片先端内方にある突出部は極めて長い. また雌貯精嚢内角質片構造にも明確な形態差がある.

Paracardiophorus sequens purpuratus Kishii, 1977 オオアカアシコハナコメツキ (写真 144)

鹿児島県屋久町栗生, 1 ♀, 10. VII. 1995.

原名亜種は北海道から九州までとその多くの付属諸島の外洋海浜部に広く分布するが, 大き

原名亜種は北海道から九州までとその多くの付属諸島の外洋海浜部に広く分布するが，大きな河川では内陸部の河川敷にも分布域を広げている．脚部が鮮明な黄赤色で分かり易いが，稀に脚部の大部分が黒褐色で端部のみ赤色の個体が混じたり，前々種又は前種と極めて紛らわしい脚部色彩の個体も屢々見られるので注意を要する．屋久島産の個体は大型で体表が紫色の光沢をもち別亜種となる．しかし屋久島周辺に分布する脚部が鮮明な赤黄色の本属種には次種もあり，屋久島には両種とも産し共にそれぞれの別亜種となっていて，互いに極めてよく似ているので区別は大変難しいが，両性生殖器の構造差は極めて明瞭で誤認の恐れは少ない．

Paracardiophorus tokara Nakane et Kishii, 1955, subsp. トカラアカアシハナコメツキ石垣亜種

(写真 145)

沖縄県石垣島平野, 1 ex., 29. IV. 2001.

本種は 1953 年の大阪市立自然科学博物館(現：大阪市立自然史博物館)によるトカラ諸島調査行で採集されたもので宝島から見出され，美麗な黄橙色脚部と特徴ある雄交尾器側片先端部の形状で新種とされた．後に南西諸島の幾つかの島嶼からも採集され，雄交尾器側片先端部の形状差などで島嶼毎に 4 別亜種(屋久島: *yakuensis*; 沖永良部島: *erabu*; 徳之島: *heianus*; 喜界島・加計呂麻島: *kikai*)として記載された(Ohira, 1970: 12; Kishii, 1977: 51-54)．更に与論島・沖縄本島・石垣島・魚釣島などからも記録されたがそれらの亜種関係は未解明で，今回の石垣島産個体群は別亜種の可能性が強い．また奄美大島には脚部が黄赤色でよく似た別種 *amami* アマミハナが分布する．

[参考文献]

有本久之, 1988. 長野県のコメツキムシ．まつむし, 松本むしの会会報, 長野県松本市, 77: 1-35.

Brown, W. J., 1934. The American species of *Dalopius* Esch. (Elateridae, Coleop.). Canad. Ent., Ottawa, 66(2-4): 30-39, 66-72, 87-96, 102-110.

Brullé, M., 1832. Expédition scientifique de Morée. III, lère partie: 136-143 (Elateridae).

Buysson, H. du, 1893. *Ectamenogonus*, new subgenus. Annal. Soc. Ent. Fr., 1893[62]: 314.

------- , 1912. Contributions à la faune entomologique de Roumanie. Elatérides récoltés par M.L.A. Montandon dans les régions Roumaines. Bull. Soc. Roumaine Sci. Bucarest, 21(1/2): 133-143.

Candèze, E., 1859. Monographie des Élatérides 2. Mém. Soc. r. Sci. Liège, 14: 1-543.

------- , 1860. Monographie des Élatérides 3. ibid., 15: 1-512.

------- , 1865. Élatérides nouveaux, I. Mémoires Couromés et autres Mémoires. Académies Royale des Sciences, de Lettres et des Beaux-Arts de Belgique, 17(1): 1-63.

------- , 1873. Insects recueillis au Japon par Mr. G. Lewis. Élatérides Mémoires de la Société royale des Sciences de Liège, (2)5, memoire, 2: 1-32.

Check List of Insects from Korea, 1994. The Entomological Society of Korea & Korean Society of Applied Entomology. Kon-Kuk University Press: 1-744.

中條道夫, 1973. 琉球列島(薩南群島を含む)産コメツキムシ科の分類・分布学的研究(Studies on the Classification and Zoogeographical Distribution of the Family Elateridae (Insecta-Coleoptera) from the Loo-Choo (Ryukyu) Archipelago (including Satsunan Islands). Coleoptera of Loo-choo Archipelago (V). Bull. Kagawa University, Takamatsu, 218: 17-41.

Dolin, V. G., 1964. Licinki zukov-scelkunov (provolocniki) eyropejskoj casti SSSR, Kiev: 1-206.

Dolin,V. G. & E. L. Gurjeva, 1976. New genus of Elaterid-beetles from Talissa. Dokl. AM. USSR, ser. B, 7: 645-647 (In Russian).

Fleutiaux, E., 1928. Les Élatérides de l'Indochine Française (Catalogue raisonné). Corresp. Mus. nat. d'Hist. natur. Paris, Coleoptera III (3): 1-75.

------- , 1947. Révision des Élatérides (Coléoptères) de l'Indo-chine Française. Notes Ent. chin., Shanghai, 11: 233-420.

Gozis, M. P. des, 1875. Catalogue des Coléeoptères de France et de la fauna Gallo-Rhénane, Montluçon: 1-108.

Gurjeva, E. L., 1973. Novaja Triva zhukov-shchelkunov Megapenthini Tribus n. (Col., Elateridae). Zoologischeskii Zhurnal, 51 (3): 448-451.

------- , 1979. Fauna of USSR. Nauka, Leningrad, 12 (4): 1-452.

------- , 1984. Novyi vid zhuka-shcheelkuna roda Pseudanostirus Dol. (Coleoptera, Elateridae) saltaja i iz Severnoi Mongolii, Leningrad, 9: 295-297.

------- , 1986. Obzor zhukov-shchelkunov roda *Liotrichus* Ksw. (Coleoptera, Elateridae) mirovoi fauni. Ent. obozr., Leningrad, 65 (3): 551-558.

------- , 1989. Zhuki-shchelkuni (Elateridae). Podsemeistvo Athoinae, triba Ctenicerini. Fauna SSSR, zhestkokriliye, Leningrad, 12 (3): 1-293. (Fauna of USSR. Coleoptera, XII (3), Elateridae: Subfamily Athoinae, Ctenicerini).

Heyden, L. von, 1887. Verzeichniss der von Herrn Otto Herz auf der Chineischen Halbinseln Korea Gesammelten Coleopteren. Horae Soc. entom. rossiae, 21: 243-273.

Hayek, C. M. F. von, 1990. A reclassification of the *Melanotus* group of genera (Coleoptera: Elateridae). Bull. B M N H (Ent.), London, 51 (1): 37-115.

石原保 他, 1953. 石鎚山と面河渓の昆蟲相(愛媛県委託研究調査報告). The insect fuauna of Mt. Ishizuchi and Omogo Valley, Iyo, Japan. Trans. Shikoku ent. Soc., Matsuyama, 3, suppl.: 5-137.

Jakobson, G. G., 1913 (1905-1915). Die Käfer Russlands und Westeuropas. Ein Handbuch zum Bestimmen der Käfer. 10, St.Petersburg: 721-864 [Elateridae published in 1913].

Kim, C.-W., 1978. Distribution atlas of insects of Korea, Ser. 2 Coleoptera. Korea University Press, Seoul: 1-414.

Kishii, T., 1955, Some new forms of Elateridae in Japan (I). AKITU, Kyoto, 4 (3): 77-82.

------- , 1959. Elateridae of Is. Yakushima. The snappers of island (I). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 3: 1-24.

------- , 1961. Elateridae of Is. Tsushima. The snappers of Island (II). ibid., 5: 1-56.

------- , 1966. Elateridae of Kyoto and its Adjacent Region. Priv. pub., Biol. Lab. Heian High Sch., Kyoto: 1-54.

------- , 1969. Some new forms of Elateridae in Japan (VI). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 14: 1-10.

------- , 1973. On the Elaterid-Beetles from Ryukyu Archipelago collected by Mr. Isao Matoba. The Snappers of Island (VI). ibid., 17: 1-24.

------- , 1975. Some new forms of Elateridae in Japan (VIII). ibid., 19: 1-7.

------- , 1976. Some new forms of Elateridae in Japan (XI). ibid., 20: 47-56.

------- , 1977a. Elaterid beetles from Europe collected by Mr. A. Shinohara with descriptions of some new forms and notes. ibid., 21:19-34.

------- , 1977b. Some new forms of Elateridae in Japan (XII). Sci. Rep. Kyoto Pref., 15: 49-61.

------- , 1979. Some new forms and records of Elateridae in Japan and its adjacent area. Some new forms of Elateridae in Japan (XIV). ibid., 17: 1-21.

------- , 1982. New species and new records of Elateridae from Japan (Coleoptera). Some new forms of Elateridae in Japan (XVI). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 26: 35-55.

------- , 1983a. Some Elaterid Beetles from the Nansei Archipelago collected by Mr. T. Ogata in 1982 (Coleoptera, Elateridae). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (2). Ent. Rev. Japan, Osaka, 38(1): 29-40.

------- , 1983b. On some Elaterid-species from Japan, with the descriptions of two new taxa (Coleoptera). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area 3. Bull. Heian High Sch., Kyoto, 27: 47-64 (In Japanese with english description).

------- , 1984. The Elaterid-beetles of the Tribe Agriotini from Japan (Coleoptera, Elateridae, Elaterini). The Elateridae of Japan, 1. ibid., 28: 11-77.

------- , 1985. Some new forms of Elateridae in Japan (XVII). ibid., 29: 1-30.

------- , 1987a. Some new forms of Elateridae in Japan (XIX). ibid., 31: 1-20.

------- , 1987b. A taxonomic study of the Japanese Elateridae (Coleoptera), with the keys to the subfamilies, tribes and genera, Kyoto: 1- 262.

------- , 1992. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (11). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 36: 1-30.

------- , 1993. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (12). ibid., 37: 1-19.

------- , 1994. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (13). ibid., 38: 1-35, Plates I-VIII.

------- , 1996. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (14). ibid., 39: 1-40.

------- , 1997. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (15). ibid., 40: 1-11.

------- , 1998. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (16). ibid., 41: 1-28.

------- , 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). ibid., 42: 1-144.

------- , 2001a. Revision of the genus *Scutellathous* from Japan, with descriptions of two new species and taxonomic notes on its relatives (Elateridae, Coleoptera). Some new forms of Elateridae in Japan (XXXI). Spec. Publ. Japan Coleopt. Soc., Osaka, 1: 205-214.

------- , 2001b. Three new taxa of the genbus *Hemicrepidius* (Coleoptera: Elateridae from west Japan. Some new forms of Elateridae in Japan (XXXIII). Ent. Rev. Japan, Osaka, 56(2): 45-50.

------- , 2002. A new subspecies of *Homotechnes motschulskyi* (FLEUTIAUX, 1902) (Coleoptera: Elateridae) from Shiga and Mie Prefectures. Some new forms of Elateridae in Japan (XXXVII). ibid., 57(2): 139-143.

------- , 2004a. Revision of the species-group *Ampedus kasugensis* (Coleoptera: Elateridae) from Japan, with descriptions of three new species. Some new taxa of Elateridae in Japan XXXIX. ibid., 59(1): 67-79.

------- , 2004b. Three new subspecies of the subfamily Hypnoidinae (Coleoptera: Elateridae) from Japan. Some new taxa of Elateridae in Japan, XL. ibid., 59(2): 161-165.

------- , 2004c. A study on the click beetles collected by Mr. M. Yagi from Kume Island in the Okinawas (Coleoptera, Elateridae). ibid., 59(2): 167-176.

岸井尚, 1955. 貴船谿谷及びその附近に産する珍らしい叩頭虫(II). Rare Elaterid-beetles from Kibune and the adjacent area (II). AKITU, Kyoto, IV(4): 109-110.

------- , 1984. 未記録および珍しいコメツキムシ若干について. 月刊むし, Tokyo, 166: 21-23.

------- , 1985a. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見(4). ibid., 175: 8-10.

------- , 1985b. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見(5).ibid., 177:19-22.

------- , 1986. 日本とその周辺地域に分布するコメツキムシについての知見(6). ibid., 184: 32-35.

------- , 1989. 台湾のコメツキムシ(2). Elateridae from Taiwan, with descriptions of some new taxa (2) (Coleoptera). A study of the materials collected by Dr. Kintaro BABA in 1986. Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (67): 35-63.

------- , 1997. 奥田好秀氏蒐集の珍しいコメツキムシ. NEJIREBANE, Osaka, 76: 1-4.

------- , 2000. 永幡嘉之氏蒐集のロシア沿海州北部のコメツキムシについて. ibid., 90: 5-12.

------- , 2001. 三重県産コメツキムシの記録(6)官能健次氏の蒐集資料について. ibid., 93: 3-12.

------- , 2002. 加藤敏行氏蒐集の北海道東部地域のコメツキムシについて. ibid., 99: 10-15.

------- , 2003a. 加藤敏行氏蒐集の北海道産コメツキムシ. ibid., 104: 1-13.

------- , 2003b. マレーゼトラップによる大澤正嗣氏蒐集の秩父山塊産コメツキムシ. ibid., 105: 1-15.

------- , 2003c. 森正人氏蒐集の北海道産コメツキムシ. ibid., 106: 1-8.

------- , 2003d. 森正人氏蒐集のコメツキムシ. ibid., 107: 1-10.

------- , 2004a.田中馨氏蒐集の山口県のコメツキムシ(On the Elaterid-beetles from Yamaguchi Prefecture, collected by Mr. Kaoru Tanaka, with the descriptions of six new taxa). Bull. Yamaguchi Mus., 30: 105-143.

------- , 2004b. 八木正道氏蒐集のコメツキムシ(続報１). NEJIREBANE, Osaka, 111: 1-7.

Kishii, T. et S.-H. Jiang, 1994. Notes on the Chinese Elateridae, I (Coleoptera). Ent. Rev. Japan, Osaka, 49(2): 87-102.

Kishii, T. et J.-C. Paik, 2002. Elaterid-beetles of Is. Cheju (Quelpart Island) (Coleoptera: Elateridae). ibid., 57(1): 1-27.

岸井尚・大平仁夫, 1956. 新潟県の叩頭虫, 特に馬場金太郎博士の蒐集品に就て(Snappers of Niigata-Prefecture, especially on the collection by Dr. Kintaro Baba, with the descriptions of some new forms). AKITU, Kyoto, 5(3): 71-84.

Kolbe, H.J., 1886. Beiträge zur Kenntniss der Coleopteren-Fauna Koreas. Elateridae. Arch. Naturgesch: 197-199.

Kon-Kuk University Press, 1994. See to " Check List of Insects from Korea, 1994. The Entomological Society of Korea & Korean Society of Applied Entomology: 1-744 ".

久保田孝・田中馨, 2005. 山口県２例目のオニツヤハダコメツキを記録. 月刊むし, 東京, 413: 46.

Laibner, S., 2000. Elateridae of the Czech and Slovak Republics Ceské a Slovenské republiky. Kabourek, Zlin: 1-292.

Le Conte, J. L., 1853. Revision of the Elateridae od the United States. Trans. Amer. Phil. Soc., [2] 10: 405-508.

------- , 1861. New species of Coleoptera inhabiting the Pacific district of the United States. Proc. Acad. Nat. Sci. Philad., 13: 338-359.

Lee, S.-H., 1995. Elateridae of Chejudo (Coleoptera) I., Subfamilies Pyrophorinae and Melanotinae. Ins. Koreana Suppl., Chuncheon, 5: 73-82.

Lee, S.-H., K.-S. Woo & Y. -J. K. Won, 1999. Systematic study of subfamily Melanotinae (Coleoptera, Elateridae) from Korea I, the genus *Melanotus* Eschscholtz. Ins. Koreana, 16(1): 27-45.

Lee, S.-H., K.-S. Woo & Y.-I. Lee, 1987. Taxonomic study on the Subfamily Agrypninae (Coleoptera: Elateridae) in Korea. Kor. Journ. Stud. Plant Prot., 26(1): 1-7.

Lee, Y.-I., W.-T. Kim & D.-H. Kim, 1985. Insect Fauna of Mt. Halla. Academic Research Report for the Mt. Halla: 351-455.

Lewis, G., 1877. A Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago. Taylor and Francis, Red Lion Court, Fleet St., London: 1-31.

------- , 1879. Diagnoses of Elateridae of Japan. The Entomologist's Monthly Magazine, London, 16: 155-157.

------- , 1894. On the Elateridae of Japan. Ann. Mag. Nat. Hist., London, [6]13: 25-48, 182-201, 255-266, 311-320.

------- , 1896. On new species of Coleoptera from Japan, and notice of others. Ann. Mag. nat. Hist., London, (6), 17: 329-343.

Miwa, Y., 1927a. Description of new species of Japanese Elateridae. Ins. Matsum., Sapporo, 2(1): 12-22.

------- , 1927b. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. ibid., 2(2): 105-114.

------- , 1928a. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. ibid., 2(3): 133-145.

------- , 1928b. New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. ibid., 3(1): 36-51.

------- , 1929. The Elateridae of Loo-Choo. Trans. nat. Hist. Soc. Formosa, Taihoku, 19(103): 339-351.

------- , 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Rep. Dep. Agr. , Govt. res. Inst., Formosa,Taihoku, 65: 1-289.

三輪勇四郎, 1933a. 九州帝國大學農學部昆蟲學教室所藏の叩頭蟲標本(1) [Elateridae in the Collection of the Entomological Laboratory, Kyushu Imperial University], むし, VI(1): 25-31.

------- , 1933b. 九州帝國大學農學部昆蟲學教室所藏の叩頭蟲標本(II) [Elateridae in the Collection of the Entomological Laboratory, Kyushu Imperial University (II)], むし, VI(2): 66-73.

Motschulsky, V. de, 1858. Insects des Indes Orientales. Études entomologiques, 7 [Société Littéraire Finnoise], Helsingfors: 20-122.

------- , 1860. Coléoptères de la Sibérie orientale en particulier des rives de l'Amour. In Schrenk, L. V., 1859-60. Reisen und Forschungen im Amur-Lande in den Jahren 1854-1856. Vol. 2, St. Petersburg: 77-257.

------- , 1866. Catalogus des Insectes recus du Japon. Bull. Soc. Imp. Nat. Moscow, 39(1): 161-200.

中根猛彦, 1959. 邦産コメツキムシ科に関する覚書(I) (Notes on the Elaterid-beetles of Japan I). Akitu, Kyoto, 8(4): 91-94 (In Japanese).

Nakane, T. et T. Kishii, 1955a. Description of a few new forms of the Elaterid-beetles from Japan, with notes on some others. Sci. Rep. Saikyo Univ., Kyoto, 2(1), A. ser.: 43-46.

------- , 1955b. Entomological results from the scientific survey of the Tokara Islands. I, Coleoptera: Elateridae. Bull. Osaka mun. Mus. nat. Hist., Osaka, 2: 1-8.

中根猛彦・岸井尚, 1958. 屋久島の甲虫類. 叩頭虫科(The Coleoptera of Yakushima Island, Elateridae). Sci. Rep. Saikyo Univ. (Nat. Sci. & Liv. Sci.), Kyoto, 2(5): 34-42.

Ohira, H., 1963. New or little known Elateridae from Japan. VI (Coleoptera). Trans. Shikoku ent. Soc., Matsuyama, 8(1): 15-18.

------ , 1967. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, III (Coleoptera). Bull. Japan ent. Acad., Nagoya, 3(5): 27-38.

------- , 1970. New or little known Elateridae from Japan. XII (Coleoptera). ibid., 5(1): 9-13.

------- , 1977. Check-List of Coleoptera of Japan. Family ELATERIDAE (Hemirhipinae, Agrypninae, Chalcolepidinae). Coleopterists' Assoc. Japan, Dept. Zool., Nat. Sci. Mus. (Nat. Hist.), Tokyo, 11: 1-7.

------- , 1982. New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XXIII. Spec. Iss. Mem. Retir. Emer. Prof. M. Chûjô, Nagoya: 21-24.

大平仁夫, 1954. 浅間高原及び八ヶ岳のコメツキムシについて(日本の叩頭虫, IV). New Ent., Nagano, 3 (4): 26-32.

------- , 1963. キベリマルヒサゴコメツキについて(Notes on *Yezodima convexum* Miwa (Coleoptera: Elateridae). Kontyu, Tokyo, 31 (2): 79-82.

------- , 1968. オオカバイロコメツキについての知見(Notes on *Ectinus persimilis* (Lewis, 1894) (Coleoptera: Elateridae), げんせい, Jourl. ent. Soc. Kochi, 18: 1-4.

------- , 1969. 日本産コメツキムシ科の知見(II). Notes on some Elaterid-beetles from Japan (Coleoptera) (II). New Ent., Ueda in Nagano, 18 (2): 19-24.

------- , 1972. 日本産コメツキムシ科の知見(XII). Notes on some Elaterid-beetles from Japan (XII) (Coleoptera). Ent. Rev. Japan, Osaka, 24 (1/2): 69-72.

------- , 1978. 九州に産するコメツキムシ科の珍種(17). 北九州の昆虫, 25 (1): 13-14.

------- , 1986. 日本産ヒメサビキコリ類について(コメツキムシ科). Notes on the *Colaulon*-species from Japan (Coleoptera: Elateridae). Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (63): 3-13.

------- , 1987. 九州に産するコメツキムシ科の珍種(24). Notes on some rare Elateridae from Kyushu (24). ibid., 34 (2): 91-92.

------- , 1990. 愛知県の甲虫目, コメツキムシ科. 愛知県の昆虫(上). 愛知県昆虫分布研究会: 367-382.

------- , 1996. 日本産アシブトコメツキ類について. Notes on the *Anchastus*-species from Japan (Elateridae, Elaterinae, Physorhinini). Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (76): 1-14.

------- , 1997. コガタシモフリコメツキについて. Notes on *Actenicerus aerosus* (Lewis, 1879) (Coleoptera, Elateridae) from Japan. Elytra, Tokyo, 25 (1): 93-99.

------- , 1998. 日本産ヒゲナガコメツキとその近似種について(Notes on *Neotrichophorus junior* and its allied species from Japan, Coleoptera: Elateridae). New Entomol., 47 (1, 2): 19-26.

------- , 1999. 日本産ヒメハナコメツキ属の種について(Notes on the *Displatynychus*-species from Japan) (Coleoptera, Elateridae, Cardiophorinae). Miscel. Rep. Hiwa Mus. Nat. Hist., 38: 357-362.

------- , 2003. 日本産アシブトコメツキ類の属名について. Notes on the generic position of *Anchastus*-species from Japan). Coleoptera: Elateridae, Physorhinini). Coleopterists' News, Tokyo, 142: 19-21.

大平仁夫・飯島一雄, 2001. 北海道産オオクロヒラタコメツキについて. Notes on *Pseudanostirus dilatatus* (Coleoptera, Elateridae) in Hokkaidoo, Japan. 標茶町郷土館報告, 第 13 号: 47-51.

大平仁夫・楠井善久, 1975. 北海道稚内市付近のコメツキムシ若干種について. Some elaterid-beetles from Wakkanai province in Hokkaido (Coleoptera, Elateridae). 昆虫と自然, Tokyo, 10 (7): 23-25.

大平仁夫・鳥飼兵治, 1971. 木曽御岳山のコメツキムシについて. 岐阜県生物教育, 高山, 16: 89-94.

------- , 1973. 岐阜飛騨地方のコメツキムシについて. 岐阜県生物教育, 高山, 18: 33-42.

大平仁夫・山内智・E.V.Novomodnyi, 2005. Russia・Khabarovsk 地域のコメツキムシ類の記録. 青森県立郷土館調査研究年報, 29: 27-35.

Okamoto, H., 1924. The insect fauna of Quelpart Island (Saishiu-to). Elateridae. Bull. Agr. Exp. Stat., Govn.-Gen. Chosen, Suigen, I (2): 182.

Paik, J.-C. et al., 1995. Insects of Quelpart Island. Chejudo Folklore and Natur. Hist. Mus., Jeju: 1-614 (In Korean).

Platia, G., 1994. Coleoptera Elateridae, Fauna d'italia. XXXIII, Ed. Calderini Bologgna: 1-429.

Platia, G. et P. Cate, 1990. Note sistematische e sinonimiche su Elateridi paleartici (Coleoptera, Elateridae). Boll. ent. Ital., Genova, 122: 111-114.

Platia, G. et I. Gudenzi, 1998. Note tessonomiche e faunistiche su Elateridi del vicino Oriente (Coleoptera, Elateridae). Boll. Ass. romana Ent., 53: 49-62.

Platia, G. et R. Schimmel, 2001. Revision delle specie orientali (Giappone e Taiwan esclusi) del genere *Melanotus* Eschscholtz, 1829 (Coleoptera, Elateridae, Melanotinae). Museo Regionale di Scienze Naturali, Trino, Monogr. XXVII : 1-638.

Reitter, E., 1889. Übersicht der bekannten *Elater*-Arten der palaearktischen fauna. Ent. Nach., 15: 110-116.

------- , 1891. Erster Beitrag zur Coleopteren-Fauna des russischen Reiches. Vierter. Wien. ent. Ztg., Wien, 10: 233-240.

------- , 1905. Bestimmungs-Tabelle der europäischen Coleopteren, LVI. Verf. naturf. Ver. 43: 3-122.

Sánchez-Ruiz, A., 1996. Cátalogo bibliográfico de las especies de la familia Elateridae (Coleoptera) de la Peninsula Ibérica e Islas Baleares. Documentos Fauna Ibérica, 2: 1-265.

佐々木恵一, 1985. 北海道におけるコメツキムシ科の採集記録(第2報), jezoensis, Sapporo, 12: 98-103.

Silfverberg, H., 1977. Nomenclatoric notes on Coleoptera Polyphaga. Notul. Ent., 57: 91-94.

Schwarz, G., 1892. *Spheniscosomus*, eine neue, bischer verkannte Elateriden-Gattung. Wiener Entomologische Zeitung, 11 (4): 132.

------- , 1906. Fam. Elateridae. Fasc. 46 A-C. In: Witsman, P., Genera Insectorum, Coleoptera, Fasc. 46B: 113-224.

Scopoli, G. A., 1763. Entomologia Carniolica, exhibens insecta Carnioliae indigena....., Vindobonae: 91-96.

Stibick, J. N. L., 1979. A revision of the Hypnoidinae of the world (Col. Elateridae). Part III. The Hypnoidinae of Eurasia. EOS, Rev. Esp. Ent., Tomo LIII: 223-307.

Suzuki, W., 1985. On some Elateridae of the Far East (Coleoptera). Trans. Shikoku Ent. Soc., Matsuyama, 17(1-2): 79-89.

--------, 1999. Catalogue of the family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. Miscel. Rep. Hiwa Mus. Nat. Hist., Hiroshima, 38: 1-348.

鈴木 亙, 1987. 日本地域におけるコメツキムシ科の分類学的覚書(II). Taxonomic notes on the Far Eastern Elateridae (Coleoptera) (II). Coleopterists' News, Tokyo, 77: 1-7.

Tarnawski, D., 1995. A revision of the genus *Selatosomus* Stephens, 1830 (Coleoptera: Elateridae: Athoinae: Ctenicerini), Wroclaw: 1-183.

-------, 1996. A world catalogue of *Ctenicerini* Fleutiaux, 1936 (*Coleoptera: Elateridae: Athoinae*). Genus, Wrocław, 7(4): 587-663.

[後 記]

今回のリスト作製は2005年秋頃にほぼ終わり，その後暫くしてから水野さんから，細川氏がその後に南西諸島などへ採集旅行をされた際の資料もあるとのことであったが，これに関しては次の機会に纏め，適当な機関に発表させて頂くこととし，一先づ当初の資料に基づくリストに限って発表する事としたものである．

現在本邦全域からのコメツキムシ科甲虫は，大凡700弱の種と200余りの亜種の分布が報告されている状況で，その他に国後・択捉などの北方領土や，未記載確実な種と亜種も相当数あるので，これらも含めるとこの狭い国土に1000程のタクサが棲息するのは確実で，これは本邦の甲虫相全体の中でも単一の科としては極めて多い部類に入るであろう．なおこの中からは是までに10種ほどの，本邦分布の単一報告例のみで再報例のないユーラシア大陸・東南アジア・北米などの国外種については除外している．本邦は多くの火山帯と高山を含む山岳地の多い四大島と，多くの島嶼からなる南北に長い列島弧を構成し，西方の大陸とは充分な間隔の距離で隔離され，且つ周囲を寒流系親潮と暖流系黒潮という2大海流で囲まれる為の，顕著に周期的な気象変化に起因すると見られる複雑な自然環境が形成され，この狭小な国土にも拘わらず極めて多様性に富むフアウナとなったものと見られる．

以前筆者が手を着け始めた頃，本科は200種程かせいぜい300種程分布するだろうと言われていて，いわゆる雑甲虫の一部とも見られていたことからすると，現在の状況は予想外とも言うべき大変感慨深いものがある．その最大の原因は当初から多くの研究者により屡々指摘されていた，この仲間の分類同定の困難さに行き着くと思う．この見方は本邦の研究者のみならず，歴史的にもヨーロッパの先駆者達の論著内でもそのような表現が屡々見受けられ，複雑怪奇とまででは無いにしても，これまでの先達研究者諸氏は皆大変苦労されたようである．しかし先の大戦の終わり頃から，外骨格生物としての昆虫における生殖器官構造の固定的形態についての詳細な研究観察が進んだ結果，その有意性が高く評価されるようになり，当然甲虫分類の有

力な手段として重視されるようになったものである．その際最も問題視されたのが同種個体群内での個体変異の状況検討である．多くの種での精査検討の結果として，コメツキでも多くの地域からの多数個体による，同一種内及び近似種間での雄交尾器及び雌産卵管と貯精嚢内に発達する角質構造部の形状が，同じ属内では特定の形状内で変化し，異属間では大きな形状変化を伴い，種間では相互に一定の形状変化があり，亜種と判断される個体群間でも同じ事が認められた．これはそれぞれ同一タクサ内では極めて僅かな変異に止まるなどの点で，外観上では極めて類似した個体群間の関係を判断する上で，重要な決定が可能な形態的差異点として，積極的な取捨選択上の判断と採用が可能となったとみても良いと思う．

今回細川さんが蒐集された資料の大部分は中部山岳地帯からのものであるが，この地域には周知の地質的にも重要な構造変換線があり，それは当然植生上に大きな影響がもたらされたに違いなく，それによる自然環境変化に伴うであろう結果として，短期間で世代交番の行われるコメツキの様な甲虫類には大変大きな分化要因となり，それは現在なお進行中であろうと考えて良いと思われる．特に本邦で際だって多くの種や亜種が見いだされているミヤマヒサゴコメツキ亜種群(*Homotechnes motschulskyi* subspp.)，シモフリコメツキ類(*Actenicerus* 属)，*Ampedus* 属のアカコメツキやクロコメツキ類，ナカグロヒメコメツキ類(*Dalopius* 属)，カバイロコメツキ類(*Ectinus* 属) などではこの地域でのそのような傾向が強いようで，今回の資料中にもそれを示すと見られる以下のような数多くのものがある．

ミヤマヒサゴコメツキは今回長野県長谷村北沢峠から亜種のセンジョウミヤマヒサゴ，及び未記載亜種と見られる岐阜県河合村天生峠からの資料をみたが，長野・岐阜・静岡・愛知の四県からは是までに 12 亜種の分布が知られ，栃木(14 亜種)・新潟(5 亜種)と共に，現在記録されている本種の全亜種大凡 55 亜種の内ほぼ 60%がこれらの地域に棲息し，現在なお顕著な分化過程上にある地域と見て良いだろう．シモフリコメツキについては主として高地の湿原帯近辺に生息域をもつ，*Actenicerus orientalis* オオシモフリ類似のものに局所的分布をするオンタケシモフリ *toyoshimai* と，それに類似性の強い幾つかの個体群が同じ山系に属する乗鞍岳や岐阜県北東山岳地域，長野・新潟の県境域等から得られており，何れも未記載種の可能性の濃いものである．また嘗てコメツキムシの代名詞でもあった *Elater*(現 *Ampedus*)属として多くの種が記載されているグループでは，本邦全域で実に多くの種分化がなされたようで本邦固有種が極めて多い．中でもいわゆるアカコメツキ類とされるものでは中部山岳地帯で特に多くの種分化が見られ，今回の資料中にも以下のように 14 種，*alticola*（ミヤマアカ），*amakazaricola*(ミヤマチャバネ)，*azurescens scutellaris*（セダカアカ），*convexicollis*（ムネダカアカ），*fagi*（アカアシアカ），*houwau*(ホウオウホソアカ)，*kai*（カイオオアカ），*kurama*（クラマアカ），*optabilis*（オオアカ），*orientalis*（アカ），*pachycollis*（フトアカ），*takaoensis*（タカオアカ），*tsugaru*（ツガルアカ），sp.(アカコメツキ一種)が入っており，クロコメツキ類にも 9 種見いだされた．更に *Dalopius* 属では 6 種，*Ectinus* 属では 9 種で，何れも自然環境がほぼ同じ地域に拘わらず，同属の種がこの様に多く見いだされる地域は他には殆ど見受けられない．

今回の資料を府県及び島嶼毎に種・亜種のタクサ数で纏めると，山梨(16)・長野(101)・岐阜(98)・静岡(37)・愛知(58)のように中部山岳地周辺の資料が多いのは，細川氏のお住まいの関係で当然であるが，その他にも北海道(23)，福島(2)，新潟(4)，富山(7)，栃木(4)，八丈島(1)，三重(1)，滋賀(5)，京都(9)，奈良(3)，和歌山(4)，兵庫(2)，岡山(3)，鳥取(1)，徳島(7)，宮崎(2)，鹿児島本土(24)，屋久島(27)，奄美大島(16)，石垣島(24)，西表島(1)となり，本邦の極めて広い地域から蒐集されたものを含む大変貴重な資料であった．最初にも述べたように，中部山岳地帯からは本科甲虫類についての多くの報文が是までにも発表されているにも拘わらず，また各地に多い同好組織による記録類の全ては見ていないが，細川さんの今回の資料中には県別の初記録種も多く見られた．更に未記載種又は新亜種と見られるものも下記の様に4種4亜種見受けられた．これらについては精査の上適当な学会などの機関誌で発表したい．

Homotechnes motschulskyi subsp. ミヤマヒサゴコメツキ 岐阜県河合村天生峠亜種.

Actenicerus sp. シモフリコメツキ一種 長野県開田村開田高原西野.

Pseudoanostirus dilatatus subsp. オオクロヒラタコメツキ本州亜種 静岡市，岐阜県高根村御岳.

Gamepenthes pictipennis subsp. キマダラコメツキ北海道亜種 幌加内町白樺.

Ampedus (Ampedus) sp. アカコメツキ一種 長野県王滝村御嶽田ノ原.

Oedostethus sp. ツヤミズギワコメツキ一種 栃木県下都賀郡野木神社近傍(渡良瀬遊水池).

Quasimus sp. チビマメコメツキ一種 上屋久町大株林道.

Paracardiophorus tokara subsp. トカラアカアシハナコメツキ石垣亜種 石垣島平野.

(2006年2月2日)

地域甲虫自然史　第２号
Regional Natural History of Coleoptera, No. 2

細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ

岸井　尚

Elaterid-beetles (Elateridae, Coleoptera) collected by Mr. Koji Hosokawa from Japan

By Takashi Kishii

発行：　日本甲虫学会　The Japan Coleopterological Society, Osaka
発行日：2006年５月１日